

事項一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件

四四六 一月二十日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御渡英御予定ノ新聞報道ニ関シ英

國側ニ速ニ内報ノ要アルベキ旨稟申ノ件

第七八号

(一月二十二日接受)

我皇太子殿下来ル三月御渡英ノ御予定ナル趣十九日路透電報到着シ諸新聞紙ニ掲載セラレ爾後諸方面ヨリ頻ニ実否問合ヲ受ケ居ル処予テ然ル御内議モ之有ルヤニ漏レ承リ居タルガ右報道果シテ事実ナルニ於テハ本使ノ欣幸此ノ上モ無キ次第ニテ殿下ノ御渡英ハ当国皇帝陛下ニ於テモ御希望アラセラルルモノノ如ク珍田大使賜餐ノ際モ其ノ意味合ノ勅諭アリ愈御渡英御決行相成ルニ於テハ此ノ未曾有ノ御盛挙ノ兩國国交ニ及ボス所自ラ尠カラザルベキハ申迄モ之無キ儀ト拝察ス就テハ相成ル可クバ新聞紙等ニテ余リ喧伝セラレザル以前ニ当国其ノ筋ニ内報シ御接遇等万端遺算無キヲ期シ度キニ付其ノ旨至急御電報アリタシ

合問合方訓令ノ件

附記一 一月二十六日内田外務大臣宛在英國林大使宛

電報第三九号

二 一月二十八日内田外務大臣宛在英國林大使宛

電報第四四号

第三三号

貴電第七八号ニ関シ

皇太子殿下御見学ノ為来二月下旬御出發印度洋ヲ経テ来四月下旬英國御着約五十日歐羅巴ニ御滞在米國ヲ経テ御帰朝ノ御予定ノ処英國皇室御訪問被遊度御希望ニ付同国内御旅行ニ付万危険等ノコトナカルベキヲ信ズルモ其筋ニ於テ懸念シ居ルニヨリ右御取調ノ上懸念ナキニ於テハ同国皇室ノ御都合御問合至急回電アリタシ

追テ御旅行中ハ総テ微行ナリ尚我皇室ニ於テハ御回電ヲ待チ「プログラム」發表ノ予定ニ付其迄ハ英皇室ニ於テモ御發表ナキ様申添ヘラレタシ「プログラム」發表アリ次第電報ス

(附記一)

一月二十六日内田外務大臣宛在英國林大使宛電報第三九号

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 四四九

四四七 一月二十四日 中村宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下御旅行ノ予定通報並英國皇室御訪

問ノ希望ニ付同皇室ノ都合問合方依頼ノ件

式部

第二八号

(一月二十四日接受)

大正十年一月二十四日

宮内大臣男爵 中村 雄次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

皇太子殿下御見学ノ為来二月下旬御出發印度洋ヲ経テ来四月下旬英國御着約五十日歐羅巴ニ御滞在米國ヲ経テ御帰朝可被遊御予定ニ付英國御着ノ上同国皇室御訪問被遊度御希望被為在候間同国内御旅行ニ付危険ノ有無御取調ノ上併セテ同国皇室ノ御都合御問合相成度候追テ御旅行中ハ総テ御微行ニ有之候

四四八 一月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

皇太子殿下英國皇室御訪問ニ関シ先方ノ御都

皇太子殿下御旅行ニ関スル往電ヲ幣原大使へ転電方ノ件

第三九号

往電第三三号在米大使へ転電アリタシ

(附記二)

一月二十八日内田外務大臣宛在英國林大使宛電報第四四号

皇太子殿下御旅行ニ関スル往電ヲ在伊白蘭各國ノ大公使ニ

転電方ノ件

第四四号

往電第三三号在仏、伊、白、蘭各大公使へ転電アリタシ

四四九 一月二十九日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英國皇室御訪問ノ儀ニ付英國外相

代理内話ノ件

第一二四号

(一月三十一日接受)

貴電第三三号ニ関シ本二十九日本使ノ催セル晚餐ニ列シタル外相代理ハ本件本使申入レニ関シ御快諾然ルヘキ旨有力ニ推奨執奏方取計フヘキ様同日在巴里外相ヨリ回答アリタルヲ以テ右ノ趣直チニ目下「サンドリンガム」御滞留中ノ皇帝へ転奏ヲ了セル旨内話セリ

四五〇 二月一日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛(電報)

皇太子殿下御旅行ノ御計画一般御訪問ノ選
扱等ニ付意見回電方訓令ノ件

第一〇三号

在英林大使転電往第四四号ニ関シ

皇太子殿下今回ノ御旅行ハ御見学ヲ主トシ兼テ諸國元首ヲ訪問セラルルニ在リ目下ノ御内議ニテハ英仏伊白四ヶ國ノ御巡遊ハ先ヅ問題ナシトシ白国皇室ヲ訪問シナガラ直グ隣リナル蘭国皇室ヲ訪問セラレザルハ如何アルベキヤ又羅馬ニ赴カレテ羅馬法王ヲ訪ネラレザルモ面白カラザルベク將又西班牙訪問ハ如何ニスベキヤノ三点ニ付其筋ニ於テ内密評議中ノ処右御旅行ノ御計画一般特ニ貴任國ニ関スル分ニ付当方ノ参考迄御意見並ニ御氣附ノ点至急回電アリタシ

右本大臣ノ訓令トシテ在伊、白、蘭大公使ヘ転電アリタシ

四五二 二月一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御渡英ニ関シ速ニ御旅程其他電報

方稟請ノ件

第一二五号

(二月三日接受)

ト題スル新聞紙社説報告ノ件

第一四号

(二月四日接受)

「シドニー、モーニング、ヘラルド」ハ皇太子殿下御渡英ノ新聞電報ニ関連シ本日其ノ社説欄ニ於テ米國ノ世界政策ナル題目ノ下ニ大要左ノ通り論評セリ

日本皇太子殿下ノ英國御訪問ノ報道ハ此ノ際著シキ注意ヲ以テ迎ヘラレタリ蓋シ同殿下ハ実ニ世界第三ノ海軍國ヲ代表スルヲ以テナリ日本ハ英帝國ノ同盟國ニシテ殿下ノ英國御訪問ハ疑モナク日英同盟更新ニ関連スルモノニシテ日本ハ明カニ同盟更新ノ意志アルモノト断言シ得ヘシ勿論既ニ日本ハ屢々同盟更新ノ意志アルコトヲ声明ナシ居レルモ殿下ノ御渡英ハ右宣言ヲ的確ニ裏書スルモノト云フベク而シテ右ノ事実ハ日英米三大海軍國ヲシテ事態重大トナラザル前ニ相互ノ誤解ヲ調停スル為相接近セシムルノ機会ヲ与フルモノニシテ就中英國ハ今將ニ酣ナラントスル太平洋上ニ於ケル海軍競争ノ調停者タル地位ニ立ツヲ得ベキナリ英國ハ日本トノ間ニ同盟關係ヲ繼續スル一方米國トノ間ニモ不和ヲ生ズルコトヲ想像スル能ハザルヲ以テ日英兩國ト親密ナル關係ニアルモノト云フベク從ツテ兩國間ノ紛争ヲ調停

往電第一二四号ノ通英國皇室ノ回答モ近日中ニ接到ノ運ニ

至ルベシト思考セラルル一面ニ皇太子殿下御渡英ニ関スル新聞電報切リニ至リ從ツテ當館ヘ問合せ來ル向モ少カラズ右ノ中ニハ確報未到トノミ答フルコト甚ダ穩ナラズ寧ロ殿下御渡英後ノ便宜等ヲ考ヘ相當ノ回答ヲ与フルコトヲ要スト認メラルルモノモ有之就テハ殿下御旅程隨員御召艦ノ編成等其ノ他内定ノ都度並御内定済ノ分ハ此ノ際早速電報方取計ハレタシ

四五二 二月三日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

皇太子殿下御渡英ニ関シ英國皇室ノ御回答至

急取付方ノ件

第五七号(至急)

貴電第一二五号ニ関シ

御旅程發表ハ勿論内定上ニモ英國皇室ノ御回答ヲ必要トスルニ付至急右回答ヲ取付ケ回電アリタシ

四五三 二月三日 在シドニー玉木總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御渡英ニ関連シ米國ノ世界政策

スルニ最都合好キ地位ニ在ルモノナリ現在ノ日米係争問題ハ世人ノ多クガ想像スルガ如ク國家ノ名譽即チ人種問題ニアラズシテ通商貿易ニ関スルモノナリ兩國ハ西伯利支那「カリフォルニア」其ノ他太平洋ニ於テ激烈ナル産業又ハ通商上ノ競争ヲ為シ居レルモノニシテ互ニ利害ノ相反スル結果惹イテ海軍建造ノ競争トナレルモノナリ右競争ガ如何ニ英帝國ニ影響スルカニ付テハ屢々述べタル所ニシテ則チ日本ノ海軍建造ガ英國自治領ニ不安ヲ与フルト等シク米國ノ海軍擴張ハ平和會議ニ於テ締結シタル英米間ノ取極ヲ無視スルモノト云フベシ然レドモ吾人ハ近時驚ク可キ發達ヲナシタル日米兩國ノ通商貿易ヲ十分保護スルニ足ル程度ニ於テ兩國ノ海軍建造ヲ認メザルベカラズ云々

(右論說中葡萄牙、西班牙、和蘭等ノ通商全盛時代ニ於テハ必ズ之ヲ保護スル為海軍力ノ伴ヒシコト及英國自身ガ常ニ右目的ノ為ニ海軍力ニ依リ居レルヲ引証シ且日米兩國ノ近時ニ於ケル産業及貿易ノ著シキ發達ヲ数字ニ依リ立証セリ)

尚日英同盟ニ関スル濠洲ノ輿論ニ付テハ客年別電第一九号海軍縮少ノ程度問題ニ付テハ本年往電第六号参照

在英大使へ転電セリ

四五四 二月四日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御渡英並皇室御訪問ヲ英國皇帝
ハ欣幸トセラルル旨英國外相ヨリ申越ノ件

第一四三号(至急) (二月六日接受)

貴電第五七号ニ関シ

今四日外相ヨリ曩ニ殿下御渡英並皇室御訪問ニ関シ御都合
伺ヒ方本使申入レ早速転奏シタルニ右ハ欣幸トセラルル旨
回答方陛下ノ命ニ接セル趣申越セリ

四五五 二月四日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御訪歐ニ関シ意見及氣附ノ点稟申
ノ件

第四〇号 (二月六日接受)

在仏大使宛貴電第一〇三号ニ関シ

(一)当地ハ五月以降暑氣甚シキニ付成ルヘク早目ニ御来遊然
ルヘシト考フ

(二)当国政治及社会上ノ情勢ハ昨年以來漸次改善セラレ著シ

ハ近来感情頗ル融和セルモノアリト云フ)若シ蘭国西国へ
モ御訪問相成ル次第ナラハ法王庁モ御訪問相成ル方然ルへ
キカト思考ス

四五六 二月五日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ歐大陸御旅行ハ諸般ノ事情ヲ考
慮シ仏、白、伊ニ限定セラルル様意見具申ノ
件

第一七一号 (二月六日接受)

貴電第一〇三号ニ関シ仏国ニ於テハ警察ノ比較的完備セル
為戰場視察其ノ他ニ於テモ安心御見学ノ途アルベク尚差出
ガマシキ様ナルモ白国御訪問ノ機会ヲ以テ蘭国御訪問アラ
セラルレバ更ニ進ンデ丁抹、瑞典等ニモ御旅行ノ必要ヲ生
ズベク又当方ニ於テ觀察スル所ニ依レバ西班牙ニ於テハ時
々無政府黨員ノ跋扈アリ葡萄牙ハ鉄道不整頓ニ付御不便多
カルベシト思ハル依ッテ大陸御旅行ヲ仏、白、伊ノ三戦争
同盟国ニ限ラルレバ他国ヲ訪ハザル理由立派ニ立チ得ベシ
ト存ズ

ク安定トナリ御旅行ノ御安全ニ関シ目下何等懸念スヘキ事
情アルニアラザルモ人心ノ動揺未ダ終熄セルニモアラズ社
会主義者ノ氣焰尚相当旺ニシテ「ストライキ」等絶エズ行
ハレ居レリ在英大使宛貴電第三三号中段ノ如キ次第モアル
ニ付テハ当国ニ関シテモ一応同様ノ問合ヲ為シ置クヘキヤ
回訓ヲ請フ

(三)各国御訪問ハ成ルヘク御召艦ニテ遊ハサルル次第ナルヤ
又ハ大陸ニテハ多クハ汽車ニ依ラセラルル次第ナリヤ
(四)本御旅行ニ関シテハ未タ聊モ当国政府筋へ話合ヲ為シタ
ルコトナキ次第ナルガ已ニ新聞電報ニ見エ又最早時日モ多
カラザル次第ニ付極大非公式ニ申入レ先方ノ都合例へ
ハ皇帝ハ夏期何レカへ行幸在ラセラルルヤ等問合ハスコト
ハ差支ナカルヘキヤ

(五)羅馬法王庁ノ思惑如何ハ当館ニテ窺ヒ知ルノ途ナキニ付
必要アラハ「ノンス」ノ駐在スル国ノ使臣ヲシテ確メシメ
ラレタシ但シ最近來遊ノ丁抹皇帝ハ当国皇室ノ賓客トシテ
宮中ニ滞在セラレタルカ一日自国公使館ヨリ出発セラレテ
羅馬法王庁ヲ訪ハレタリ又一昨年未「ウィルソン」大統領モ
当皇室訪問ト同時ニ法王庁ヲ訪問セリ(又皇室ト法王庁ト

四五七 二月五日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下蘭国御訪問ガ日蘭国交上緊切ナル
旨稟申ノ件

第七号 (二月六日接受)

在仏大使宛貴電第一〇三号ニ関シ
皇太子殿下白国皇室御訪問ノ際蘭国皇室御訪問無之ニ於テ
ハ蘭国皇室ノ感情ヲ害スルハ勿論当国上下ニ対シテモ甚シ
キ悪影響ヲ及ボスベキハ言フ俟タズ從ッテ日蘭国交上ニモ
至大ノ關係ヲ及ボシ折角対日蘭国ノ感情融和シ来ラントシ
ツツアル際頗ル憂慮ニ堪ヘザルモノ有之ニ反シテ皇太子
殿下ノ御訪問ヲ得バ蘭国上下ノ対日感情ハ益々良好トナリ
日蘭両国ノ和親ヲ増進スベキハ疑ヲ容レズ由來蘭国ハ極東
蘭領ノ關係上兎角我国ニ対シ猜疑心ヲ有シ居ル事情ニ顧ミ
將又我国ガ旧來蘭国民ニ対シ特ニ除外的ニ往來通商ヲ許シ
居タル古キ歴史ニ鑑ミ此際皇太子殿下ノ蘭国皇室御訪問遊
バサレンコトハ日蘭国交上本使ニ於テ最モ緊切ノコトト存
ス御熟考ヲ仰グ

四五八 二月六日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 四五九 四六〇

皇太子殿下倫敦御滞在中ハ大使館ヲ御宿トセ

ラレ然ルヘキ旨具申ノ件

第一四八号

(二月八日接受)

往電第一四三号ニ関シ皇太子殿下御外遊ノ儀ハ寔ニ空前ノ盛事ニテ御滞英中ノ諸事万々遺漏ナキヲ期シ既ニ各般ノ準備内々考慮中ニ之アル処殿下御渡英後ノ御都合上將又諸国皇族外国御旅行中ノ振合ヲ彼是熟考ノ未殿下倫敦御滞在中ハ当大使館ヲ以テ御旅館ニ充ツルコトニ願上タシト存セラハ或ハ英国皇室ヨリ宮中へ御招待ノ場合モ之アルヘキカト存セラルルモ御微行トアル以上自然御旅館ノ用意必要ニ之アリ右ニ関シ大使館ニテ御宿申上クル方万事ニ御都合御宜シキヤニ拝察ス殿下御旅館トシテ当館設備ハ素ヨリ充分トハ申上兼ヌルモ殿下御寢室及御居間ノ外侍従武官一名侍医一名ノ為ニ三室ヲ準備スル程度ノ都合ハ相叶フヘキニ付テハ篤ト其筋へ至急御打合相煩シタシ当館御旅館ト決定ノ場合ニハ相当ノ手入即時着手ノ必要アリ且又隨員旅館モ亦五月前後ハ当地最モ雑沓ノ時節ニ付成ルヘク早日ニ予約申込置ク必要アルニ付テハ本電並往電第一二五号ニ対シ折返シ電報ヲ請フ

五一四

四五九 二月七日 内田外務大臣ヨリ
中村宮内大臣宛

英国皇室ニ於テハ皇太子殿下ノ御訪問ヲ欣幸トセラルル旨在英大使ヨリ電報越ノ件

機密送第四号

客月二十四日附式部送第二八号ヲ以テ

皇太子殿下欧米各国御旅行ニ関シ英国内御旅行ニ付危険ノ有無取調方並ニ御訪問ニ関シ同国皇室ノ御都合問合方御照会ノ趣了承右ハ直ニ在英林大使へ電報候処英国皇室ニ於テハ殿下ノ御訪問ヲ欣幸トセラルル旨同大使ヨリ返電有之候間右様御承知相成度此段回答申進候也

追テ英国内御旅行ニ付危険ノ有無ニ関シテハ未タ回電ニ接セス候為念此段申添候

四六〇 二月七日 在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下奉迎ニ際シ心得置クベキ点ニ関シ

請訓ノ件

第七号

(二月七日接受)

被為在候条御承知相成度此段及通牒候也

四六二 二月十四日 中村宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下海外御巡遊ニ載仁親王殿下随伴ノ

旨通牒ノ件

宮内大臣官
房総務課 秘第二五号

(二月十五日接受)

大正十年二月十四日

宮内大臣男爵 中村 雄次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

通牒

皇太子殿下海外御巡遊ニ付載仁親王殿下随伴仰付ラルル旨本日御沙汰相成候

追テ随行員左記ノ通りニ候

宮内事務官 松井 修徳
皇族附武官 福田 義彌

四六三 二月十四日 中村宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下海外御巡遊供養員ノ氏名通牒ノ件

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 四六一 四六二 四六三

五一五

貴電第五号ニ関シ皇太子殿下御渡欧ノ途次当地ニ於テ奉迎申上グベキ儀礼ニシテ左記事項ニ付可成詳細早目ニ御電報アリタシ
一、御発着ノ時日
二、英国官憲ニ於テ奉迎スベキ儀礼順序ニ付本官ヨリ先方へ打合スベキ点
三、在留邦人ヨリ奉迎申上グルニ付服装其他心得ベキ点
四、領事官舎又ハ邦人中ノ舎宅ニ御休憩相成ル為御用品等新規設備ヲナスベキヤ

リ

四六一 二月十三日

中村宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下海外御巡遊勅許ノ旨通牒ノ件

官房調査秘第七号

(二月十四日接受)

大正十年二月十三日

宮内大臣男爵 中村 雄次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

裕仁親王殿下来ル三月三日御出発海外御巡遊ノ儀本日勅許

宮内大臣官 房総務課 秘第二六号

(二月十五日接受)

大正十年二月十四日

宮内大臣男爵 中村 雄次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

通牒

皇太子殿下海外御巡遊供奉員左記ノ通ニ有之候

記

宮内省御用掛伯爵	珍田 捨己
東宮武官長	奈良 武次
宮内省御用掛	三浦謙之助
東宮侍従長	子爵 入江 為守
東宮侍従	子爵 土屋 正直
式部官	西園寺八郎
東宮職御用掛	山本信次郎
東宮主事	戸田 氏秀
東宮侍従	伯爵 亀井 茲常
侍 医	高田 寿
外務書記官	沢田 節藏

ベク存ジ奉ル(二)宮中ノ御待遇御辞退後ノ殿下御旅館ニ関シ
Lampsonハ或ハ英国政府ニ於テ用意セントスルノ意向アル
ヤニ申居レリ右申出デノ場合ト否トニ拘ラズ往電第一六六
号大使館御旅館トシテノ用意ハ為念一応準備致置ク方可然
存ゼラルルニ付テハ早急準備ニ取掛リ得ル様同電々請フ第
一項御許可ヲ請フ(三)香港新嘉坡「コロンボ」等各地英領植民
地 Governor 宛殿下御寄港ノ節ノ御待遇上ニ付英国政府ヨ
リ夫々特ニ電訓ヲ発セル趣又「ランプソン」ヨリ内話ノ次
第アリ依テ殿下ニ於カセラレテモ其思召ニテ御用意アラセ
ラルル様言上方可然御取計ヒヲ請フ(四)右ノ次第二テ当館ノ
準備ノミナラズ英国側ノ準備モ有之ルニ付往電第一二五号
殿下隨員、御旅程其他既ニ御治定ノ分折返シ御回電ヲ請フ
註 在英大使ノ第一六六号電報(二月十二日東京著)省略セル
ガ右ハ皇太子殿下倫敦御滞在中ノ大使館所要経費ノ予算ヲ
稟申セルモノナリ

四六五 二月十七日

内田外務大臣ヨリ
在英国林大使宛(電報)

皇太子殿下ハ四月三十日ヨリ英国皇室ノ御招

待ヲ受ケサセラレ度御希望ニ付先方ノ御都合

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 四六五 四六六

東宮武官

及川古志郎

同

濱田 豊城

宮内書記官 伯爵 二荒 芳徳

四六四 二月十四日

在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国皇室ハ五月九日皇太子殿下ノ御訪問ヲ受

ケ度御内意竝三日間宮中御滞方御招待ノ御

意向ノ趣外務省員内話ノ件

第一七九号

(二月十六日接受)

往電第一四三号ニ関シ往年「コンノート」殿下ニ随行シテ渡
日セルコトアル外務省極東部ノ Lampson 今十四日朝来訪
シ(一)英国皇帝陛下秘書官ノ旨ヲ含ミ全然非公式ノ内話ナル
ガ皇太子殿下御渡英ノ砌英国皇室ニ於カセラレテハ五月九
日ニ殿下御訪問ヲ御受ケアリタキ御内意ノ由又三日間宮中
御滞在ノ儀御招待申上ゲタキ御内意ノ由ニテ右皇室内々ノ
意向ハ本使含ミ迄御伝ヘ致置クト申出デタリ宮中御滞在ノ
儀本使モ予ネ其事アルベキヲ予想シ往電第一四八号中
一応申述べ置キタル次第ナルガ愈英国皇室ヨリ公然御招待
アル場合ニ於テ殿下ニ於カセラレ当然御受ケアラセラル

問合方訓令ノ件

第八九号

貴電第一七九号ニ関シ英国皇室ニ於テハ五月九日ヨリ三日
間皇太子殿下ノ御訪問ヲ受ケサセラレ度キ御内意ナル由ナ
ル処往電第八八号ノ通り殿下ニハ四月三十日英国御到着ノ
予定ニシテ出来得ベクンバ御上陸ノ際ヨリ直ニ英国皇室ノ
御招待ヲ受ケサセラレ了リテ後御微行ニ入り度キ御希望
ト推察セラルルニ付右御舎ノ上英国皇室ノ御都合内々問合
セアリタシ尤モ同皇室ニ於テ五月早々殿下ノ御訪問ヲ受ケ
サセララルルニ付何等特別ノ御差支アルニ於テハ途中御旅程
ニ多少ノ変更ヲ加ヘ英国御到着期日ヲ兩三日繰下ゲ得ベシ
何分ノ儀至急回電アリタシ

註 二月十七日外務大臣林大使宛第八八号省略セルガ右ハ皇
太子殿下ノ御旅程ヲ通報セルモノナリ

四六六 二月十七日

在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国皇室ハ皇太子殿下四月三十日英国著ノ御

予定ノ変更ヲ希望ノ旨皇室側ヨリ申出ノ件

第一九三号 至急

(二月十九日接受)

十七日恰モ貴電第八九号接到ニ先チ「ランプソン」ハ当館員ニ対シ英国皇室ニ於テ五月九日ヨリ三日間皇太子殿下ノ御接遇ノ御内定ヲ洩サレタルハ其以前ハ既ニ陛下御日程御治定済ニテ変更ノ道ナキガ為ナル趣ニ之アリ然レドモ殿下英国御到着ノ上ハ直チニ皇室ヨリ御招待致スコト最望マシク就テハ「ポーツマス」御着ヲ八日トシ艦上ニテ御一泊ノ上御入京ノコトニ御取計相叶フ間敷キヤ皇室ノ意ヲ受ケテ申出ヅル次第ナリト語り可成速ニ御接待細目ノ決定ニ取掛リ度ニ付至急御都合拝承シ度キ旨申出デタリ就テハ右英国皇帝ノ御都合御考慮ノ上然ル可ク御決定相成回答振リ至急御電報煩シ度シ

四六七 二月十八日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

英國政府ハ皇太子殿下ノ御接遇ヲ三段ニ分チ
度希望ナル旨在本邦英國大使ヨリ申出ノ件

第九四号

二月十七日在本邦英國大使來訪本國政府ヨリ訓電トシテ皇太子殿下御訪英ニ付英國ニ於テハ御接遇ヲ三段ニ分チ初メノ三日間ハ皇室ノ賓客トシテ「バッキンガム」宮殿ニ次キ

四六九 二月十九日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

皇太子殿下ガ接伴員其他へ御贈勲ノ為御携帶
ノ要アル勲章見込數回電方訓令ノ件

第九六号

往電第八一号ニ関シ殿下御接伴員其他へ御贈勲ノ為勲章御携帶ノ要アル処勲六等以上ニ付種類等級別ニ御見込數至急回電アリタシ

右本大臣ノ訓令トシテ在任、伊、蘭各大公使へ転電アリタシ

一註 外務大臣ノ往電第八一号ニ付テハ後出二月十九日林大使宛
外務大臣宛第一九八号末尾ノ註参照

四七〇 二月十九日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

皇太子殿下御乗艦及艦隊職員名通報ノ件

第九八号

貴電第一二五号ニ関シ
皇太子殿下ハ軍艦香取ニ召サレ軍艦鹿島(旗艦)供奉ス尚艦隊職員左ノ如シ

司令長官海軍中将小栗孝三郎參謀長海軍少將田口久盛香取

ノ數日間ハ政府ノ賓客トシテ「ホテル」ニ御滞泊ヲ請フヘク殘ル期間ハ殿下御思召ノ通り御微行ニ入ラセラレタキ希望ナル旨申述ヘタリ

四六八 二月十八日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御日程御綜合方英國側ヨリ改メテ
申越シタルニ付可成御変更御詮議方願出ノ件

第一九四号

(二月二十日接受)

往電第一七九号ノ趣旨ヲ書面ニ認メ「ランプソン」ヨリ皇太子殿下御日程上ノ御練合セ相叶間敷哉御接待諸般ノ準備上回答至急ニ承ルコトヲ得バ仕合セ至極ナル旨改メテ申越セリ

殿下御予定日程ハ貴電第八九号ニ依レバ尚御変更ノ余地無キニ非ザルヤニ拝察セラルルニ付テハ英國皇室側希望ノ通ニ相成ル可クハ御変更方御詮議相成ル様本使ヨリモ願上度「ポーツマス」ヘハ一日ノ御猶予ヲ見積リ御着ニテ可然ト存ズ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

艦長海軍大佐漢那憲和鹿島艦長小山武

四七一 二月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下隨員以外ノ從者數等問合及殿下御
一行御宿泊ニ関連スル諸問題ニ付稟申ノ件

第一九八号

(二月二十日接受)

(一)貴電第八一号列挙隨員以外從者數並各員資格、地位、宿舎予約ノ都合アリ至急承知シ度シ

(二)各室手入其ノ他当地職工仕事振存外手間取ル虞アルニ付往電第一四八号及一七〇号御都合往電第一六六号支出ト合

セ御決定至急回示ヲ請フ

(三)英本国内倫敦以外御巡遊予定地方承知シタシ

(四)「バッキンガム」宮御滞宿中ハ殿下方御附トシテ Valet 資格ノ從者隨伴ヲ要スルコト御承知ノ通りニシテ右ニハ隨員中ノ判任官ヲ當ツルノ外無カルベキ処同官 Valet トシテ奉仕中ハ他隨員ト同様紳士待遇ヲ期待スルヲ得ズ其ノ辺ノ事情ハ珍田伯爵御承知ニ付予メ然ル可ク御配慮置キアリタシ

(五)貴電第九四号ノ通皇室及政府ノ接遇ヲ受ケサセラルルモ

其ノ際ニ於テモ供奉員全部之ニ加ハル次第二ハ之有ルマジク第一段及第二段中所要宿舍客室予約ノ要アリ室割当振ニ就キ御希望アラバ予報アリタシ

註一 二月十五日外務大臣發林大使宛第八一省略セルガ右ハ

皇太子殿下ノ海外御巡遊ヲ勅許アラセラレタル旨及御巡遊供奉員氏名(前掲二月十四日宮内大臣發外務大臣宛秘第二五号第二六号参照)ヲ通報セルモノナリ

2 林大使發外務大臣宛第一七〇号(二月十三日東京著)省略セルガ右ハ閑院宮殿下ガ皇太子殿下ト大使館ニ御同宿ノ場合ノ間取ノ企画ヲ報告セルモノナリ

3 林大使發外務大臣宛第一六六号ニ付テハ林大使二月十四日發外務大臣宛第一七九号ノ末尾ノ註参照

四七二 二月二十一日 内田外務大臣ヨリ 在香港大森総領事代理宛(電報)

皇太子殿下香港御立寄ノ際ノ心得ニ付電報ノ

第一一号

皇太子殿下貴地御立寄リノ際御心得相成ルベキ点左ノ通り

一、貴地御訪問ハ全然非公式ナルコト

二、殿下ハ艦内ニテ御起居ノコト

格回報ノ件

附記 皇太子殿下海外御巡遊供奉員及從者氏名表

第一〇八号

貴電第一九八号第一項及第四項ニ関シ一行中往電第八一^(電)号記載供奉員ノ外判任官十一名東宮職厨司五名珍田伯從者一名アリ而シテ殿下宮殿御宿泊ノ場合

(一)宮殿ニ宿泊ヲ要スル者

(二)其附近ノ旅館ニ宿泊ヲ要スル者

(三)稍距リタル旅館ニ宿泊シ差支ナキモノ

區別左ノ通り

第一階級ニ属スルモノ

閑院宮、珍田伯、奈良武官長、東宮侍從一名、判任官三名、若シ宮殿ノ御都合上右全部宿泊困難ノ場合ニハ珍田伯或ハ閑院宮ノ何レカヲ第二階級ニ繰入レラレ差支ナシ尚宮殿ニ之以外ノモノヲモ宿泊セシメ得ル余地アル場合ニハ第二階級ニ属スルモノノ中ヨリ(一)山本大佐(二)入江侍從長(三)竹下中將(四)福田大佐ノ順序ニ從ヒ第一階級ニ繰入レラレタシ

第二階級ニ属スルモノ

三浦博士、竹下中將、入江侍從長、松井事務官、東宮侍從

三、居留民ニ対シテハ殿下領事館ニ御立寄ノ際相当資格(支店長格ノモノ)アルモノニ対シ謁ヲ賜ヒ(「フロックコート」又ハ「モーニング」着用)其ノ他ノモノニ対シテハ艦隊司令長官ノ催スベキ艦内「テイ、パーティー」ニ於テ拜謁セシム

四、御上陸ノ際ハ海軍棧橋御使用ノコト(本件ニ付テハ海軍ヨリ交渉スベキモ貴官ニ於テモ同時交渉シ置カレタシ)

五、最初御上陸ノ際ハ主ナル在留民丈棧橋附近ニ入ラシメ差支ナシ

六、献上品ハ御請ノコト但シ誠意ヲ旨トシ華美ニ流レザルコト

七、日本人会ニ対シ御下賜品有之外市ノ慈善事業ニ対シ適宜御寄附有之積リナリ

其ノ他ノ事項ハ決定次第電報スベシ

尚貴地実情ニ照シ右取極事項ニ対シ差支アルモノアラバ其ノ旨至急回電アレ

四七三 二月二十二日

内田外務大臣ヨリ 在英国林大使宛(電報)

皇太子殿下供奉員以外ノ從者數及供奉員ノ資

一名、西園寺式部官、山本大佐、福田大佐、戸田主事、高田侍医、沢田書記官、東宮武官二名、二荒伯、判任官四名、珍田伯從者一名

右ノ内二荒伯以上ノモノノ為ニ「シングルベッド、ルーム」各々一ツ共同使用ノ為メ事務室一ツ応接室二ツ留保シ置カレタシ

第三階級ニ属スルモノ

判任官四名、厨司五名

註 外務大臣ノ第八一号電報ニ付テハ二月十九日林大使發外務大臣宛第一九八号末尾ノ註一参照

(附記)

皇太子殿下海外御巡遊供奉員及從者氏名表

二月十四日發令

親任	宮内省御用掛	伯爵	珍田	捨己
一等(中將)	宮内省御用掛		三浦謹之助	
〃	海軍中將		竹下	勇
〃	東宮武官長		奈良	武次
〃	東宮侍從長		子爵	入江
〃	東宮侍從		子爵	為守
三等	東宮侍從		子爵	土屋
			正直	正直

三等	式部官	西園寺八郎
" (大佐)	東宮職御用掛	山本信次郎
"	東宮主事	戸田 氏秀
"	東宮侍從	伯爵 龜井 茲常
"	待 医	高田 寿
"	外務書記官	沢田 節藏
四等(中佐)	東宮武官	及川古志郎
五等(少佐)	同	浜田 豊城
六等	宮内書記官	伯爵 二荒 芳徳
皇太子殿下海外御巡遊供奉被仰付		
二等	宮内事務官	松井 修徳
三等(大佐)	皇族附武官	福田 義彌
載仁親王殿下		
皇太子殿下海外御巡遊隨伴ニ付隨行被仰付		

判任官同待遇

一般(特別俸)	薬剤員	小串治三郎
"	東宮属	米津小次郎
二級	同	谷脇虎之助

出ニ関シ請訓ノ件

第二五号

(二月二十五日接受)

- 当地總督ヨリ左ノ通申出タリ
- (一) 皇太子殿下九日当地御着港後總督ハ直チニ非公式ニ御召艦ニ伺候スルコト
 - (二) 御上陸ノ際棧橋ニテ奉迎シ若シ殿下總督ヲ御訪問被遊御思召ナルニ於テハ直チニ官邸へ御案内申上クルコト
 - (三) 總督御訪問後一時御帰艦被遊ニ於テハ艦上ニテ英國官吏ノ重ナル者ニ拜謁ヲ賜り度キコト
 - (四) 同夜總督官邸ニ於テ非公式ノ晚餐ヲ差上ケ度キコト及晚餐後同処ニテ「リセプシヨシ」ヲ催シ百名内外ノ主ナル英國官民ヲ招キ度キコト
 - (五) 十日午前自動車ニテ「ピーク」御見物ヲ願度キコト
 - (六) 十一日九龍租借地内ニテ「タイポー」ト称スル海岸マデ自動車ニテ沿道御見物同地ニテ御中食ヲ差シ上ケ度キコト
 - (七) 距離ハ五十分乃至一時間行程御帰ハ自動車
 - (八) 十二日御出港ノ際總督ハ御見送ノ為香取ニ伺候スルコト
- 右至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ

二級	宮内属	足立 大一
"	同	原 忠道
三級(一〇五)	東宮属	木戸 来助
"	同	野呂 秀夫
二等(四級)	宮内属	中根 信尾
七級	東宮属	萩本 即寿
東宮職限判任待遇		
閑院宮附		大場 秀吉
一等級	宮内属	平田 吉輝
雑仕		
厨 司		島寺 正助
東宮職厨司		篠崎定次郎
同		加藤 篠吉
同		原田 重男
同		惣田新治郎
珍田伯爵從者一人		

四七四 二月二十四日

在香港鈴木總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御奉迎ニ関スル香港總督ヨリノ申

四七五 二月二十五日

在白人安達公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御来白ニ関シ請訓ノ件

第五九号

(二月二十六日接受)

拙電第五八号ノ通本使三月五日「ブ」府出發スヘキ処皇太子殿下御来白ニ関シテハ新聞紙上ニモ種々ノ報道掲載セラレ且来ル五、六月ハ当国皇室ニ於テモ一方ナラズ御取込ノ趣ニテ宮内大臣其他(不明)ヨリ度々問合ノ次第モアリ可成ハ本使出發前大体ノ話ヲナシ置クコト望マシク存ゼラルルニ依リ御含ミノ上可然御回訓相成タシ

註 三月五日「ブ」府出發トアルハ安達公使ハ三月西班牙国

「バルセロナ」ニ於テ開催ノ交通會議ニ於ケル副議長タル
コトヲ國際聯盟理事会ヨリ委嘱セラレタルニ付西班牙国へ
出張ヲ命ゼラレタルモノナリ

四七六 二月二十六日

在香港鈴木總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御奉迎ニ関シ香港總督ヨリ更ニ申

出アリタル旨報告ノ件

第三二号

(二月二十七日接受)

往電第二五号ニ関シ總督ヨリ更ニ左ノ通申出アリ

一 第二項総督御訪問ヲ省略セラルルモノハ殿下ノ御随意ナリ

二 第四項ノ晚餐前後見物等ノ為御平服ニテ御上陸ノ際総督官邸ニ御召替ノ室ヲ用意シ置ク可キコト

右ハ御着港当日殿下ノ御煩勞ヲ省キ奉ラントノ先方ノ誠意ニ出タルモノト認メラル

四七七 二月二十六日 在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下新嘉坡御立寄り際ノ心得ニ関シ請

訓ノ件

第一二号 (二月二十七日接受)

貴電第一〇号ニ関シ

左記事項ニ付御回電アリタシ

(一)当地総督側ト打合せノ結果左ノ如シ

- (a) 全然非公式ノコトナレハ総督ハ最初御乗艦ニ御伺候セス民政長官総督代理トシテ御乗艦ニ赴キ諸般ノ準備ヲ打合スル筈ナルモ総督先ツ御伺候スヘキ儀ナラハ其ノ用意致スヘキニ付右御指図アリタシトノコト
- (b) 御上陸ノ節ハ非公式ナレハ儀仗兵ヲ附セサルモ棧橋ニ

艦隊司令長官ノ催サルヘキ艦内 Tea party ニ招待相成ルヘキ邦人側及外国人側凡ソ何名位ナリヤ又夫人モ同伴差許サルヘキヤ

註 外務大臣二月二十一日発第一〇号省略セルガ右ハ前掲外務大臣同日発在香港総領事宛往電第一一号中第四及六項ヲ削除シタルモノト同文ナリ

四七八 三月一日 内田外務大臣ヨリ
在英国国林大使宛(電報)

皇太子殿下御滞英中英国ノ事情進講者選定置方並皇太子殿下英国側ノ招待ニ対スル御答辞ノ準備方ニ関シ指示ノ件

第一三五号

皇太子殿下御滞英中「英国皇室ト国民トノ關係」「英帝国ノ現況」等ノ問題ニ付其筋ノ専門家ヲシテ進講セシメ度希望アルニ付テハ予メ適當ノ講演者御選定置アリ度又倫敦市長ノ饗宴等ニ臨マレタル際 Address ヲ捧呈スルコト有之節ニハ殿下ニハ日本語ヲ以テ御答辞ヲ述ヘラルル方可然トノ当方ノ意嚮ニ付右様ノ場合ニハ貴官ニ予メ殿下ノ御答辞御準備置アリ度右御答辞ハ貴官ノ御通訳ヲ煩ハシタシ

ハ相当設備ヲナシ必要ノ警官ヲ派シ充分警護ヲナスコト

(c) 御乗用ノ為自動車二台ヲ差向クルコト

(d) 殿下ハ艦内ニテ御起居相成候旨御来示ノ処若シ総督官邸ニ御宿泊ナレハ四人分位ノ設備出来ル趣ニテ右御都合可成早クニ御知ラセアリタキコト

(e) 殿下ノ為総督ニ於テ晚餐会ヲ催シ度御嘉納相成候ヤ可成早目ニ御知ラセアリタキコト

(f) 御滞在中「ジョホール」其他半島内ニ御巡視相成候ヤ其準備致シ度ニ付御次第御知ラセアリタキコト

(一) 御滞在中御巡行先ニ関シ Raffles Museum 植物園水源地 Johore Bahru 等又邦人側ニ於テハ商品陳列館、小学校(共ニ甚タ粗末ニシテ敬意ヲ失スル様存スルモ)日清護謨園、三五公司、三井護謨園等ノ内御成リノ御予定ナレハ其ノ大要

(二) 領事官舎ニ於テ拜謁仰付ケラルル者日本人会理事重ナル会社商店責任者重ナル護謨園支配人等約四十人ニテモ御差支ナキヤ尚外ニ予後備陸海軍将校及相当官並有位有勲者ニ付テハ拜謁者ノ資格ヲ何レニ限ルヘキヤ

右御含置アリタシ

四七九 三月一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下仏国御訪問ノ際接待員其他ニ御贈勲ノ為御携帶ヲ要スル勲章見込數ニ付回電ノ件

第三〇五号(至急) (三月三日接受)

在英大使宛貴電第九六号ニ関シ殿下接待員其他ニ対スル叙勲數ノ詳細ノ点ハ目下ノ処不明ナルモ大体先年東伏見宮殿下御渡仏ノ際ノ例ニ依ルコト然ルベシト存ズ此ノ点ニ付テハ大正七年往電第三七八号及別電第三〇六号御参照相成度尤モ大陸御旅行中一行随員全部ヲ従ヘラルル場合ニハ日本側ニ対スル叙勲ノ權衡上相当多數ノ勲章ヲ御携帶アラセラルル必要アルベシ尚甚ダ差シ出デガマシキ儀ナガラ東伏見宮殿下御旅行当時ノ例ニ徴スルモ御旅館特別列車等ノ設備ニ相当当国政府ノ手数ヲ煩ハシタルニ付其当時ヨリモ著シク多數ノ随員ヲ従ヘラルルコトハ一層御旅行ヲ煩雜ナラシムル惧アルノミナラズ最近白耳義、西班牙、丁抹等ノ国王ガ当国御訪問ノ際ニモ極メテ簡素ヲ旨トセラレタルヤニ承

ルニ付テハ大陸御旅行中ノ隨員ハ大陸旅行ノタメ欠クベカラザル人員ニ御制限相成ルコトヲ得バ好都合ナランカト思考ス

註 別電第三〇六号(所要見込ノ勲章數ヲ報告セルモノ)省略ス

四八〇 三月二日 内田外務大臣ヨリ
在新嘉坡山崎総領事代理宛(電報)

皇太子殿下新嘉坡御立寄ノ際ノ奉迎処置振回

訓ノ件

第一四号

貴電第一二号ニ関シ左ノ趣旨ニ依リ可然処置セラレタシ

(a)民政長官総督代理トシテ殿下御乗艦伺候可為

(b)殿下ハ艦内ニテ御起居相成リ総督官邸御宿泊ノ用意無
之様可然総督側ニ申入置カレタシ

(c)総督御招待諸否ノ件ハ追テ供奉長ヨリ電報ス

殿下貴地御滞在中御見物ノ場所等ニ付テハ殿下貴地御到着
ノ節供奉長ト協議決定セラレタシ

領事館御立寄ノ件ハ香港ノ例モ有之ニ付御止メノコトニ取
計置ケリ其ノ代リ重ナル在留日本人ハ之ヲ司令長官ノ「テ

His Imperial Highness The Crown Prince:

"It will give the King and Queen much pleasure if His Imperial Highness The Crown Prince will stay at Buckingham Palace as guest of Their Majesties from May the 9th to May the 11th inclusive".

I should be grateful if your Excellency would take the necessary steps to convey this message to its High Destination.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) C. Eliot.

His Excellency

Count Yasuya Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's Minister
for Foreign Affairs.

四八二 三月三日

在本邦英國大使ヨリ
内田外務大臣宛

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 四八二

イ、パーティー」ニ招キ其節拜謁セシムルコトトシタリ
外国人側ノ招待ハ男子ノミニ限リタシ尚右「パーティー」
ハノ招待者ノ人数及資格等ニ付テハ追テ供奉長ヨリ直接電
報ノ答

四八一 三月二日 在本邦英國大使ヨリ
内田外務大臣宛

英國皇帝及皇后兩陛下ハ皇太子殿下ノバック
ンガム宮殿御滞在ヲ欣快トスル旨伝達方ノ本
国政府電訓ヲ受ケタル趣通報ノ件

Urgent,
No. 34.

British Embassy,

TOKYO, March 2nd, 1921.

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency that I have received telegraphic instructions from His majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs to cause the following message from Their Majesties The King and Queen to be conveyed to

皇太子殿下英國皇宮御訪問終ニ後英國政府ハ
電訓ノハト風ニ一國記者兼在ハ海峽中ニ照シ
照合ノ件

Urgent,
No. 35.

British Embassy,

TOKYO, 3rd March 1921.

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency, with reference to my note of yesterday's date respecting the visit of His Imperial Highness The Crown Prince to England, that I have now received a further telegram from His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs stating that it will afford His Majesty's Government much pleasure if, upon conclusion of His visit to Buckingham Palace, His Imperial Highness will be pleased to be the guest of the Government for a further week, that is, from May 12th to May 19th inclusive.

As I presume that His Imperial Highness can still be communicated with by wireless telegraphy, I should be grateful if steps could be taken to ascertain His wishes with regard to this invitation that I may telegraph a reply to my Government.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) C. Elliot.

His Excellency

Count Yasuya Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's Minister
for Foreign Affairs.

四八三 三月五日 内田外務大臣ヨリ
在本邦英国大使宛

英国皇帝皇后両陛下ノ我皇太子殿下ヲバック
ンガム宮殿御滞在方御招待ニ対シ皇太子殿下

及天皇皇后両陛下ノ感謝ニ関スル件

人機密送第八号

ガム」宮殿御訪問ヲ了ハラセラルタル後即チ五月十二日ヨリ十九日ニ至ル一週間貴国政府ノ賓客トナラセラルルヲ得バ貴国政府ニ於テ欣幸トセラルル旨ノ電報ヲ貴国外務大臣ヨリ御受領相成候越ヲ以テ無線電信ニ依リ皇太子殿下ノ御都合ヲ伺フ様取計方ニ関シ本月三日附第三五号貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候仍テ早速所要ノ措置ニ出デ候処右貴国政府ノ懇篤ナル御招待ニ対シ殿下ニ於カセラレ欣然感謝ヲ以テ御請ケ遊バサレタル趣ニ有之候条右御了承相成候様致度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

四八五 三月五日 内田外務大臣ヨリ
在英国国林大使宛(電報)

英国皇帝皇后両陛下ノ皇太子殿下ヲバック
ンガム宮殿御滞在方御招待ニ付天皇皇后両陛下

ヨリノ謝意申入方訓令ノ件

第一四五号

英国皇帝皇后両陛下ハ我皇太子殿下カ五月九日ヨリ十一日ニ至ル間両陛下ノ賓客トシテ「バックンガム」宮殿ニ御滞在アラセラルルヲ欣幸トセラルヘキ旨ノ勅諭アリタル趣ヲ

以書翰致啓上候陳者本月二日附第三四号貴翰ヲ以テ貴国皇帝及皇后両陛下ハ我皇太子殿下ニ於カセラレ五月九日ヨリ十一日ニ至ル間両陛下ノ御賓客トシテ「バックンガム」宮殿ニ御滞在アラセラルルヲ欣幸トセラルヘキ旨ノ勅諭アラセラレ候趣ヲ以テ貴国外務大臣ノ電訓ニ依リ前頭勅諭言上方ニ付本大臣ニ於テ所要ノ措置ニ出ツル様御申越有之致敬承候皇太子殿下ニ於テ貴国皇帝皇后両陛下ノ前頭御招待ヲ甚深ノ感謝ヲ以テ御請ケアラセラレ候次第ハ已ニ閣下御承知ノ通ニ有之尚右御招待ノ趣ヲ天皇皇后両陛下ヘ奏上方取計置候処深ク感謝被遊謝辞可然駐英林大使ヲシテ貴国皇帝皇后両陛下ヘ申上クヘキ様御沙汰有之仍テ其旨本大臣ヨリ同大使ヘ及電訓置候条右御了承相成候様致度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

四八四 三月五日 内田外務大臣ヨリ
在本邦英国大使宛

英国政府ノ賓客トシテ一週間滞在方御招待ニ

対シ皇太子殿下御受諾ノ旨回答ノ件

人機密送第九号

以書翰致敬上候陳者我皇太子殿下ニ於カセラレ「バックン

以テ在本邦英国大使ヨリ本月二日附ニテ当方ヘ申越ノ次第アリ皇太子殿下ハ御出発間際ニ英国大使ニ対シ右ノ招待ヲ御請ケアラセラルル旨ヲ直接御答ノ御機会アリタリ尚天皇皇后両陛下ハ前頭英国皇室ノ御待遇ヲ聞召サレ深ク感謝被遊謝辞可然閣下ヲシテ申入ルヘキ様御沙汰アリタルニヨリ右申入方可然御取計アリタシ

四八六 三月五日 在香港鈴木総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下香港御立寄ノ際御奉迎ニ関スル香

港総督ヨリノ申出ヲ珍田伯ヘ電報ノ件

第四六号 (三月六日接受)

本官発珍田伯宛電報御参考迄(第一号)

大臣発本官宛電報第一七号ニ関シ御来示ノ趣旨ニ依リ洩ナク之ヲ総督ニ通シ殊ニ殿下御上陸ノ有無及総督晚餐ニ付テハ特ニ詳細ナル説明ヲ加ヘ置キタル処本日「ボンソンビ」ヲ通シ総督ヨリトシテ左ノ申出アリ

一、晚餐ニ関シテハ本官説明ノ事情ヲ充分諒トスルニ付総督ハ殿下ニ対シ晚餐ノ御招待状ヲ発スルコトヲ差控フルコトトセリ

二、右ニ拘ラス総督ハ殿下ヨリ香取艦上晚餐ノ御招待ヲ受クルニ於テハ光榮之ニ過キス謹テ御受スル由

三、殿下ノ御答訪ニ関シテハ御上陸ノ(脱)総督ハ港内繫留ノ英国軍艦ニ於テ殿下ヲ御待受ケ申上ケタシ(戦鬪艦在港セス遺憾ナカラ已ムナク輕巡洋艦ヲ使用セントス艦名ハ後ヨリ電報ノコト)

四、総督ハ殿下御立寄ニ際シ何事ニマレ御用ヲ承リタシ右ハ殿下御上陸ノ際万一ノ場合ヲ慮リ先方ヨリ進テ申出タルモノニシテ之ニ関スル愚見ハ別ニ電報スヘシ(三月四日)

四八七 三月七日 在香港鈴木総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下香港御立寄ノ際ノ御日程案ニ付珍

田伯ノ意見問合ノ件

別電 同日鈴木総領事宛内田外務大臣宛電報第四九号

右御日程案

第四八号 (三月八日接受)

本官発珍田伯宛電報御参考迄

第八号

往電第一号ハ総督ニ於テ熟考ノ上申出デタルモノナレバ御採用方希望ス最早余日モナキコトナレバ別電第九号ノ通り準備ニ着手シ差支ナキヤ至急御指図ヲ請フ

(別電)

三月七日在香港鈴木総領事宛内田外務大臣宛電報第四九号
皇太子殿下香港御立寄ノ御日程案

第四九号 (三月八日接受)

本官発珍田伯宛電報御参考迄

第九号

「プログラム」

十日午前九時香取投錨総督ハ「フロック」ニテ非公式ニ艦上伺候十時殿下ニハ英国巡洋艦ニ御答札十時四十五分司令長官公式上陸十一時半総督答札十一時ヨリ十二時迄英国官憲艦上ニテ拝謁

司令長官ヲ総督官邸ニ晚餐ニ招待ス閑院宮殿下供奉員ノ御臨席ヲ乞フ(至急御諾否返電ヲ乞フ)

十一日午前中英国軍艦ニテ「スタンレイ・ベイ」ニ赴キ御散步午餐二時半御帰艦午後三時当官邸ニ於テ「レセプシヨ」(殿下御立寄ナシ)殿下総督ヲ艦上ニテ晚餐ニ御招待

(往電第一号ノ通)

十二日午前中英国軍艦ニテ「ストーンカッター」ニ赴カレ暫時御散步午後三時ヨリ艦上「ティ、パーティー」晩ニハ日本人会ノ司令長官招待

十三日出港「ヤン」総督御見送リノコト

四八八 三月七日 在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡総督側ノ皇太子殿下奉迎ノ意向ニ関スル件

第一七号 (三月八日接受)

本官発在香港総領事宛電報

第六号

当地総督側送迎ニ関シ(一)鈴木総領事宛拙電第五号ノ通皇太子殿下非公式ニ御通過相成ルニテモ当地英国官憲ニ於テハ本国政府ノ訓令ニ依リ適當ノ敬礼ヲ以テ奉迎申上ケ度キ希望ナルニ依リ之ヲ御受ケ在ラセラルコトモ相成ラバ中外ノ瞻望ヲ飽カシムル次第ナルヤニ拝察セラル又然ラバ御上陸ノ際並ニ御道中モ充分警護出来得ベキカト思料セラル(二)総督御饗宴ノ件ニ付外務大臣來電ニ依レバ右御受相成ル

ヤハ追テ閣下ヨリ御電報相成ルコトト承知スルモ若シ右御受相成ル節ハ万一ノ為昼間御上陸ノ上當夜総督官邸ニ御宿泊アラセラルル御都合トモ相成ラバト思料セラル

註 山崎総領事代理発在香港総領事宛電報第五号(山崎総領事代理三月五日発外務大臣宛第一五号)省略セリ右ハ新嘉坡総督ノ皇太子殿下御奉迎ニ関スル意向ヲ電報セルモノナリ

四八九 三月九日 在香港鈴木総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下及閑院宮殿下ノ香港ニ於ケル御行

動予定ニ関スル珍田伯宛電報転電ノ件

第五三号 (三月九日接受)

珍田伯宛本官宛電報第三号

貴電第一乃至三号及第六号ニ関シ当方決定ノ次第左ノ通(一)十日午前香取ニ於テ総督ノ伺候ヲ受ケラレ引続キ殿下ハ英国巡洋艦ニ總督ヲ答訪セラル

(二)右御答訪ヲ終ヘラレ御帰艦後艦上ニ於テ英国官吏ニ謁ヲ賜フ依テ貴官ハ予メ総督側ト協議ノ上右官吏ヲ選定シ御帰艦後直ニ艦上ニ伺候シ得ル様取計置カレタシ

(三)閑院宮殿下ハ十日総督ノ晚餐ヲ受ケサセラレ供奉員ハ職

務ノ都合ヲ見計ヒ拙者外六名欣然之ヲ御受ス但シ御承知ノ
通閑院宮殿下ハ我両陛下ニ於カセラレ特ニ重キヲ置カルル
皇族ノ一ニシテ同殿下ノ右招待ヲ受ケラルルニ付テモ御身
辺ニ対スル危険ニ関シ供奉長タル立場ニ於テ拙者ノ少カラ
ズ懸念スル所ナルニ就テハ殿下ノ右晚餐ニ臨マルルコトハ
外部ニ対シ成ルベク秘密ニ附シ置ク様切望ス就テハ総督ノ
感觸ヲ害セザル方法ニ於テ且全然供奉長限リノ希望トシテ
右様先方ニ御交渉相成リ度シ

(四)十日午後二時半司令長官鹿島ニ於テ「ティーパーティー」
ヲ催ス皇太子殿下御臨場ノ上招待者ニ謁ヲ賜フ服装背
広ニテモ可シ

(五)日本人会ノ招待ハ十一日ノ晚餐ヲ御請ス拙者外供奉員七
名出席ノ積リ司令長官ニ対スル同会ノ招待ハ早速同官ニ伝
達シ置キタルニ付同官ヨリ直接回答アルベシ

(六)十二日香取ニ於テ総督ヲ招待シ晚餐ヲ催ス総督外重ナル
官吏十一二名招待セラレ度キ積リナリ

(七)尚申ス迄モ無キコトナガラ貴官ハ種々打合ノ為殿下御着
港ノ上早速本艦ニ伺候ヲ乞フ

本電並ニ関係電報外務大臣へ転送シ置カレタシ

(四)当国地方御巡遊地名及日数

(一)九日「バックingham」宮ニ於テ「ステートバンケット」
アリ十日倫敦市長歓迎会十一日若クハ十二日外務大臣晚餐
ヲ催ス模様ナリ

(二)当国外務省ニ於テハ殿下香港ニ御上陸遊ハサレサル旨日
本総領事ヨリ通牒アリタル処曩ニ最上ノ欲待方勅旨ニ基キ
電訓アリ如何致スヘキヤトノ電報ヲ香港総督ヨリ接受シ皇
帝ニ執奏シタルニ陛下ニハ右ハ遺憾ナカラ御希望通り取計
フノ外ナク拠所ナキ次第ナリト仰セラレ其ノ旨総督へ回電
シタル由

在香港総領事へ転電セリ

四九二 三月十一日 在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル皇太子殿下ノ御奉迎振ニ関シ

珍田伯ヨリ山崎総領事代理へ電報ノ件

第二〇号 (三月十二日接受)

香港発本官宛電報第八号

珍田ヨリ第二号

外務大臣発貴官宛第一四号ニ関シ別電ノ通香港ニ於ケル待

四九〇 三月十日 在香港鈴木總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下香港ニ御安着総督トノ御交驢等珍

田伯ヨリ報告ノ件

第五五号 (三月十日接受)

珍田伯ヨリ第五号

皇太子殿下本十日午前八時半無事香港御到着同九時半香取
艦上ニ総督ノ伺候ヲ受ケセラレタル後港内碇泊ノ英國巡
洋艦「カーリユー」ニ総督ヲ答訪セラル御帰還後香取ニ於
テ当地ノ重ナル英國文武官十二名ニ謁ヲ賜ハル

四九一 三月十一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英國御出発ノ日取等問合及英國側

ノ殿下歓迎ノ予定表等報告ノ件

第三二一号 (三月十三日接受)

(一)殿下御滞英中ノ「プログラム」作製上承知致シ度趣ヲ以
テ当国接伴員ヨリ問合ノ次第モアリ左記二点至急電報ヲ請
フ

(イ)英國御出発ノ日取

遇振ニ鑑ミ可成貴地ニ於テモ左ノ趣旨ニ依リ処理セラレン
コトヲ希望ス

(一)總督宴会ニ殿下御臨席ノ儀ハ大臣ヨリ屢次ノ電報ニテ御
承知相成ヘキ事情モアルニ付先方ヨリ差控フル様致度シ

(二)前項ノ場合ニ於テ大臣發貴官宛第一四号(一)ノ通り取計フ
トキハ結局總督ノ殿下ニ面接セラルル機会ナカランコトヲ
惧ル依ツテ右大臣往電第一四号ニ不拘總督ハ香港ノ例ニ倣
ヒ先ツ非公式ニ伺候スル様致シタレ但シ之ニ対シテハ殿下
御上陸ノ際總督官邸ニ御答訪相成ヘキ筈ノ処万一貴地方現
状ニ鑑ミ殿下ノ御上陸危険ナリト認ムヘキ事情アルニ於テ
ハ香港ニ於ケルト同様英國軍艦ニ於テ總督カ殿下ノ御答訪
ヲ受ケラルレハ幸ナルモ然ラサル場合ニ於テハ供奉長代ツ

テ總督ヲ答訪スルコトト致シタキニ付右予メ總督側ト充分
ナル了解ヲ遂ケ置カレタシ

(三)司令長官ノ艦上「ティーパーティー」ニ重ナル在留邦人
ヲ招キ席上参列者ニ謁ヲ賜フ招待者ノ資格ハ必スシモ勲位
官等等ニ拘泥セス貴官ニ於テ差支ナシト思考セラルルモノ
ヲ招待セラレ度人数ハ凡ソ百人以内トセラレタシ服装ハ背
広ニテモ可ナリ

(四)重ナル英国官民等総督側ニ於テ殿下ニ拝謁セシメント
ヲ希望スルモノアラハ御到着ノ当日艦上ニ於テ謁ヲ賜フコ
トトセラレタシ

(四)殿下ニ於テ総督ノ招待ヲ受ケサセラレサルニ不拘総督ニ
於テ殿下ノ招待ヲ受ケラルルニ於テハ艦上ノ招宴ニ総督以
下約十名ノ重ナル英国官吏ヲ招待セラルル思召アリ

(六)尚申ス迄モナキコトナカラ貴官ハ英国官憲ト密接ナル関
係ヲ保チ鮮人其他ヨリ来ルコトアルヘキ殿下御身辺ニ対ス
ル危険ノ有無等ニ付テハ充分探査ヲ遂ケラレ聊ニテモ危険
アリトセララルル場合ニハ殿下御上陸ハ全然御中止ヲ願ハサ
ルヘカラサル次第ニ付其節ハ遲滞ナク拙者ニ電報相成様致
度

(七)本電並關係電報ヲ今後ノ分トモ外務大臣ニ転報セラレタ
シ

四九三 三月十二日 在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル皇太子殿下御奉迎ニ関シ珍田

伯へ打合ノ件

第二一号 (三月十三日接受)

四、御来示ノ趣旨ニ從ヒ総督宴会ニ皇太子殿下ノ御臨席ヲ
仰クコトハ先方ヨリ差控フルコトトセリ

五、総督ハ閑院宮殿下ヲ始メ閣下外供奉員並小栗司令長官
外幕僚ヲ御晚餐ニ御招待申上ケタキ希望ノ処右御受ケ相成
ルヘキヤ又然ラハ御都合好キ日取並御出席ノ人員御電報ア
リタシ(当方ニテハ御予定ノ通り十八日御着相成レハ其ノ
翌十九日土曜ノ方宜敷キヤニ存セラル)

六、重ナル英国官民中殿下ニ拝謁ヲ賜フ向ハ総督ニ於テ選
択シ大体当地政庁各局ノ主任者、立法會議民選議員及商業
會議所長迄凡三十名内外ナルヘシトノコトナリ右日取ハ当
地御着ノ当日又ハ其ノ翌日総督御訪問ノ後ニ引続クコトト
致シタシ猶右拝謁者ノ服装ニ付御電報アリタシ(官吏ニア
リテハ正装「ユニホーム」他ハ「フロック」「モーニング」
又ハ背広ニテモ宜敷ヤ否ヤ)

七、総督以下英国官吏約十名殿下御召艦上ノ御饗宴ニ御招
待ハ謹ンテ御受ケ申ストノコト

八、小栗司令長官ノ「ティーパーティー」ニ在留邦人約百
人以内御招待相成ル趣敬承シタルモ右「ティーパーティー」
ニハ重ナル英国官民等外国人側ヲモ御招待相成ルヤ然ラハ

本官発香港宛電報第八号
供奉長珍田伯へ左ノ通り

閣下電報第一号及第二号ノ趣敬承ス左ノ事項ニ就キ御指図
ヲ請フ

一、当地御立寄ノ際ノ御警護方ニ就テハ最善ノ方法ヲ講ス
ルコトニ英国官憲トモ打合中ナルモ御着ヲ待チ直チニ小官
参上委細打合申度ニ付御着時間判明次第御電報アリタシ

二、香港宛拙電第五号ノ通り皇太子殿下非公式ニ御立寄相
成ルニテモ当地総督ハ本国政府ノ訓令ニ依リ充分ノ敬礼ヲ
以テ奉迎シタキ希望ニ付殿下当地御上陸ノ有無ニ拘ラス右
総督ノ希望ニ対シ何分ノ御回電アリタシ

三、殿下当地御上陸ノ有無ニ拘ラス総督ハ先ツ御召艦ニ御
伺候致スヘキニ付右ハ御着当日又ハ其ノ翌日何レヲ御便宜
トセラルルヤ御電報アリタシ殿下ノ御答訪ノ儀ニ就キ御上
陸相成ラサル場合ニハ総督ハ英国軍艦上ニテ御答訪ヲ受ケ
タキモ若シ其ノ準備出来サル節ハ総督用「ヨット」ニ奉迎
シ差支ナキヤ又ハ閣下代リテ答札相成ルカ何レトモ御指図
ニ依ルトノコトナリ尤モ英国支那艦隊司令長官旗艦外目下
彼南ニ碇泊中ニ付右ニ関シテハ総督側ヨリ更ニ申出アル筈

其ノ人数何人位ナリヤ

九、殿下当地御滞在中沿岸御見物ノ為総督用「ヨット」ヲ
御使用ニ供スル筈

註一 珍田大使発山崎総領事代理宛第一号(山崎総領事代理三
月十一日発内田外務大臣宛第一九号)省略セルガ右ハ皇
太子殿下香港ニ於ケル飲待振ヲ通報セルモノナリ

2 山崎総領事代理発香港總領事宛第五号ニ付テハ前掲山崎
總領事代理三月七日発外務大臣宛第一七号末尾ノ註参照

四九四 三月十三日 在香港鈴木総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下香港御出発ノ件

第六三号 (三月十四日接受)

皇太子殿下十三日午前十時御出発遊ハサル本官及居留民数
百數隻ノ「ランチ」ニ分乗シ奉送申上ケタル処御機嫌殊ノ
外麗シク拝セラレタリ

四九五 三月十三日 在香港鈴木総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

香港ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜ヲ珍田伯ヨ
リ報告ノ件

第六四号

(三月十四日接受)

珍田ヨリ第八号

十日夜総督ハ其官邸ニ於テ閑院宮殿下ヲ主賓トセル晚餐ヲ
催ス拙者外供奉員六名司令長官及其幕僚列席ス十一日ニハ
英国巡洋艦ニテ「スタンレイ、ベ」ニ赴カセラレ同地御
上陸御散歩後同艦ニテ御帰艦ノ御予定ナリシ処前夜ニ至リ
右計画外部ニ漏レタル形跡ヲ認メタルニ付外間ニハ右計画
実行スル様装ヒ置キ急ニ之ヲ変更シ香取ヨリ直チニ御上陸
総督ト共ニ自動車ニテ市中御見物次テ郊外ニ出テサセラレ
「タイム、ベ」ニ於テ予メ同地ニ廻シ置キタル英国巡
洋艦ニ御乗艦艦上午餐ニ御臨席同巡洋艦ニハ帰艦セラルル
二日午前中総督ノ「ヨット」ニテ「グリーン、アイラン
ド」ニ成ラセラレ暫時御散歩後同「ヨット」ニテ御帰艦同
夜総督外主ナル英国文武官十一名ヲ香取艦上ノ晚餐ニ招待
セラル殿下ニハ始メテ外国領土ニ御上陸遊ハサレ種々異ナ
ル風光ニ接セラレ殊ノ外御機嫌麗シク御見受ケス尚総督ニ
於テハ誠意ヲ以テ殿下ヲ欲待シ警衛其他十二分ニ手配シ與
レ今日迄何等遺算ナキヲ得タルコトハ本官ノ特ニ本懐ニ存
スル所ナリ

ハ海軍通常礼服ニテ総督ヲ答訪セラレタリ

二、殿下総督御答訪後御帰艦英国文武官十二名ニ謁ヲ賜ヘ
リ

三、閑院宮殿下ヲ主賓トセル総督晚餐ニハ一同「イーブニ
ングドレス」着用殿下ノ総督招待晚餐会モ同様

四、司令長官ノ「テイ、パーティー」ハ当地在留民側ノ
希望モアリ約二百五十名ヲ招待スルコトニ変更セリ右「テ
ィ、パーティー」ノ直ク前ニ重モナル居留民七名(支店
長格ノ者)ニ特ニ謁ヲ賜ヘリ

五、殿下ノ総督招待晚餐会ニハ英国官吏十名ヲ招待セリ
六、殿下ハ英国側ノ嚴重ナル警衛ノ下ニ御上陸自動車ニテ
市中御見物郊外ニ出テラレ予メ同地ニ廻シアリタル英国巡
洋艦ニテ帰艦セラル

註 山崎發鈴木宛第五号ニ付テハ前掲三月七日山崎發外務大臣
宛第一七号末尾ノ註参照

四九七 三月十四日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下新嘉坡御滞在中ノ日程ヲ珍田伯ヨ

リ山崎総領事代理ヘ通知ノ件

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 四九七 四九八

右宮内大臣ヘ御伝達ヲ請フ

四九六 三月十四日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル皇太子殿下奉迎ハ香港ニ於ケ
ル前例ニ準拠シ可然旨珍田伯ヨリ山崎総領事
代理ヘ電報ノ件

第二二号

(三月十五日接受)

香港發本官宛第一一号
珍田ヨリ第三号

貴地ニ於ケル殿下御待遇ニ関スル当方ノ希望ハ往電第二号
ノ通ナル処之ト行違ニ鈴木宛貴電第五号接受シタルモ元來
殿下ノ貴地御訪問ハ全然非公式ナル上貴地ニ於テ殿下御身
辺ニ対スル危険ノ有無ニ関シテハ今日迄貴官ヨリ何等の確
ナル御意見ノ報告ニ接シ居ラサル次第ナルニ付テハ万事当
地ニ於ケル前例ニ準拠シ処理セラルル方安全ト思考ス就テ
ハ貴官ハ前電ノ趣旨ニ依リ英国側ト御打合セノ上然ルヘク
措置セラレ其ノ結果至急報告アリタシ尚御参考ノ為当地ニ
於ケル実況申報ス

一、総督ハ「フロックコート」ニテ先ツ殿下ニ伺候シ殿下

第二三号

(三月十五日接受)

香港發本官宛電報第一二号
珍田ヨリ第四号

殿下貴地御滞在中ノ日程大体左ノ通決定セリ貴地ニ於ケル
諸般ノ催ハ同日程ニ適応スル様可然御取計ノ上詳細本官宛
直接電報相成度

一、十八日午前八時ヨリ十時ノ間ノ入港ノ予定的確ノ時間
ハ追報ス

二、同日午前中ニ総督ノ伺候殿下ノ答訪ヲ了シ午後ニハ貴
地英国官吏ニシテ殿下ニ拝謁セシメシコトヲ総督側ニ於テ
希望スル者アラバ御召艦ニ於テ謁ヲ賜フ

三、十九日香取石炭搭載ス御上陸ニ付何等危険無シトセバ
附近ノ御見物

四、二十日午前中御上陸御見物午後鹿島ニ於テ同司令長官
「テイ、パーティー」ヲ催ス

五、二十一日午前御見物同夜香取艦上ニ於テ総督外重ナル
英国官吏十二三名以内ヲ招待シ晚餐ヲ催サレ度キ思召ナリ

四九八 三月十四日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 四九九 五〇〇

香港ニ於テ皇太子殿下御身辺ニ対スル危険ヲ慮リ取りタル措置ニ付珍田伯ヨリ通報アリタル件

第二四号

(三月十五日接受)

在香港総領事発本官宛電報第一三号

珍田伯ヨリ 第五号(極秘)

殿下ノ当地ニ於ケル御行動ハ御身辺ニ対スル危険ヲ慮リ事前ニ於テハ全然之ヲ公表セズ「スタンレー、ペー」御見物ノ儀モ当地ヨリ英国巡洋艦ニテ同地ニ赴キ同地ニ御上陸暫時御散歩後同様巡洋艦ニテ御帰艦遊バス積リナリシ処前夜ニ至リ右計画外間ニ洩レタル形跡ヲ認メタルニ付外間ニ対シテハ同計画ヲ実行スル様装ヒナガラ実ハ急ニ右ヲ變更シ香取ヨリ直接御上陸総督自身ノ案内ニテ自動車ニテ市内御見物後郊外ニ出デラレ「タイタム、ペー」ニ赴カレ同地ヨリ予メ同地ニ差向ケ置キタル英国軍艦ニ御乗艦艦上ノ午餐ニ御臨席同軍艦ニテ帰艦セラレタリ又十二日ニハ英国汽艇ニテ「グリーン、アイランド」ニ赴カレ同地御見物後同汽艇ニテ帰艦セラレタリ

右貴官内密ノ御含マデ

皇太子殿下カイロ御立寄ノ際ノ英国当局ノ奉

迎準備状況ヲ珍田伯へ報告ノ件

第六号

(三月二十一日接受)

本官発在新嘉坡総領事代理宛電報貴官御参考迄ニ転電ス

珍田伯へ 第二号

香港発貴電第二号ニ関シ

当地ニハ目下朝鮮人ノ在留者無シ今後共地方官憲ト連絡ヲ取り極力取締上遺漏無キヲ期スベシ「カイロ」御旅行並一般取締方ニ関シ打合ノ為十五日本官「カイロ」ニ出張シ英国当局ノ意見ヲ敲キタルニ当局者ニ於テ御旅行中決シテ危険ノ虞無キ様充分ノ警戒ヲナスベキニ付「カイロ」へ御旅行願度シト申出デ本官ニ於テモ之ニ信頼セラレ然ルベシト拝察ス右ノ次第ニテ「カイロ」御旅行ト決定セバ英国側ニ於テ準備ノ都合アルニ付御旅行人員並坡西土御出発並ニ御帰還ノ日取至急拝承致シタキ由ニ付何分ノ儀御電訓ヲ仰グ尚御旅行ニ関シ御参考迄ニ左ノ通り

(一)御旅行ハ特別列車ヲ運転シ送迎ノ用意ハ一切英国側ニ於テナスコト

(二)「ハイ、コンミッシヨナー」官邸ニハ殿下ノ外二名他ハ

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五〇一

五三八

四九九 三月十五日 内田外務大臣ヨリ
在英国林大使宛(電報)

皇太子殿下御渡英八日英同盟継続ニ資セントスル計画ナリトシ之ヲ阻止スベシトノ在京中國留学生ノ行動通報ノ件

第一七二号

皇太子殿下ノ御渡歐ニ関連シ支那漢字新聞殊ニ米國系機關紙中殿下ノ御渡英ヲ以テ英国皇室ニ誼ミヲ表シ以テ日英同盟ノ継続ニ資セムトスルモノナリトノ論議ヲ試ミタルモノアル処最近在東京支那留学生ノ一団ハ殿下ノ御渡英ハ日英協約ノ改竊ニ在リ日英兩國ハ東洋平和ノ保全ナル美名ノ下ニ支那ヲ不利益ナル地位ニ陥ラシムルモノナルヲ以テ同盟其ノ他ノ密約等ニ対シテハ極力之ヲ阻止シ不成立ニ了ラシムル様努力ヲ得度旨駐英支那公使ニ打電方ヲ決議シ即時之ヲ実行スルト同時ニ一方在英支那留学生ニ対シテモ亦極力顧公使ヲ声援シ目的ノ貫徹ヲ期スル様檄文ヲ発セルヤノ趣ナリ

五〇〇 三月十六日

在ポートサイド益子領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

官邸ノ附近ナル「セミラミス、ホテル」ニ御宿泊ヲ願フコト

(三)「カイロ」御滞在中埃及王ト御会見然ルベシト思考ス

(四)今回ノ御招待ハ全部英国側之ヲ受持チ埃及側ニハ関係無シ

(五)可成坡西土御到着当日又ハ翌日御出発二十日迄御滞在ヲ仰グコト坡西土ニハ御見学(脱)所無シ

(六)目下埃及国内ニハ朝鮮人一名モ在留セザル見込ニ付本官ハ殿下御出発迄旅券ヲ携帯セザル朝鮮人一切ノ上陸ヲ禁止スル様相談シ置ケリ

(七)本官ハ「スエズ」へ奉迎スベシ

本電在英大使大臣へ電報セリ

五〇一 三月十八日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御渡英中ノ御予定ニ付珍田伯ヨリ

林駐英大使へ電報ノ件

第二九号

(三月十九日接受)

在英林大使へ左ノ通

第二号

五三九

珍田伯ヨリ第二号

香港ニテ接受セル累次ノ貴電ニ関シ

一、進講者ハ英国人ヲ選定セラレタシ

二、殿下英国御滞在日数ノ儀ニ付テハ外務大臣宛別電ノ通英国以外御訪問相成ルヘキ諸国未決定ニ付未タ適確ノコトハ申上兼ヌルモ約三週間位ハ英国ニ御滞在相成ルコトト存ス

三、殿下御見物ノ場所ハ前項御滞在日数ノ長短如何ニヨリ差異アルヘキモ差当リノ思付トシテハ御身辺ニ対スル危険ノ虞ナキ限り成ルタケ其範圍ヲ広クシタキ考ニシテ倫敦ニテハ博物館図書館動物園天文台議會英蘭銀行「ウェストミンスター」寺院「チームス、バレー」等倫敦外ニアリテハ軍隊及艦隊並陸海軍官衙学校ノ一部「ウインザー」「ケムブリッジ」工業地ノ一部「イングリッッシュ、レイク、デイストリクト」等ニシテ時間ノ余裕アラハ蘇格蘭モ一応御目ニ懸ケタキ考ナリ尚細目ノ点ニ付テハ貴地着ノ上貴官ト御協議決定スルコトト致シタシ

五〇二 三月十九日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

珍田伯へ 第六号

外務大臣へ転電アリタシ

(一)大臣宛往電第三二一号ノ(一)ニ関シ未タ御回電ニ接セサル処御承知ノ通「プログラム」ヲ決定シ諸般ノ準備ニ割合ニ多クノ日数ヲ要スル当地実状ニテモアリ又接伴員ヨリ屢々問合せモアルニ付右電報アリタシ尚往電第三号及四号ノ件モ至急御回電相成タシ

(二)待從職ヨリ殿下「バックingham」宮御滞泊中ノ「プログラム」左ノ通通知アリタリ

イ 五月九日午前御着、夜「バックingham」宮ニ於テ「ステート、バンクett」同十日午前「プリンス、オブ、ウェールズ」同伴「ウインザー」宮御遊覽同地御昼餐夜「カーゾン」卿晚餐会同十一日午前「シテイ」歓迎午後「セント、ジェームズ」宮ニ於テ英皇太子晚餐会同十二日午前「チェスターフィールドハウス」ニ御移泊

ロ 五月九日ヨリ同十八日迄「Chesterfield House, Curzon-Street」ヲ御一行ノ用ニ供シ殿下「バックingham」宮御滞泊中同宮ニ宿泊セサル供奉員ノ多数宿泊スルコトト

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五〇四

皇太子殿下新嘉坡總督御答訪ノ場所ニ関シ珍

田伯ヨリ山崎総領事代理へ指示ノ件

第三一号

(三月二十日)

珍田伯発本官宛電報左ノ通第七号

貴電第三号ニ関シ殿下ノ總督御答訪ノ場所ハ貴電第三号前段即チ殿下御身辺ニ対スル危険ノ虞ノ有無ニ関スル貴官御意見ノ回示ヲ俟テ決定シタシト存シ居ル処未タ何等ノ回電ニ接セス然ルニ本艦ハ明朝八時頃貴地着ノ予定ニシテ最早往復ノ余裕無之ヤニ案セラル就テハ貴官ハ貴地現状ニ鑑ミ殿下御上陸總督官邸ニ答訪セラルルモ何等危険ノ虞アリト認メラルルニ於テハ殿下御自身英国軍艦ニ御答訪セラルルコトトスルカ「ヨット」ニ御答訪相成ルカ或ハ供奉長代テ官邸ニ答訪スル様予メ總督側ト協議決定シ置カレタシ

五〇三 三月十九日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御滞英中ノ予定ニ関シ在英国林大

使ヨリ珍田伯へ電報ノ件

第三二号

(三月二十日接受)

在英大使発本官宛電報第六号

シ其ノ余ノ供奉員ハ同所附近旅館ニ宿泊方取計フヘシ(三)前記十二日ヨリ十八日迄ノ市内及近郊御見物ノ「プログラム」ハ目下協議中ニ付其ノ内電報シ御承認ヲ請フヘシ又十九日以後ニ付テハ仮リ三十日(月曜)当国御出発ノコトトシ地方御巡遊六七七日(「エディンバラ」湖水地方「マンチェスター」御巡遊)倫敦ニ御帰還後三四日御滞在ノ「プログラム」作製中ニ付何等御希望アラハ至急回示アリタシ

五〇四 三月十九日

在新嘉坡山崎総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御滞英中五月十二日ヨリ二十八日

迄ノ予定案ニ付林大使ヨリ珍田伯へ御意向問

合ノ件

第三五号

(三月二十日接受)

在英大使発本官宛第九号

珍田伯へ第九号

外務大臣へ転電アリタシ

往電第六号ノ(三)ニ関シ「プログラム」仮ニ左ノ通り協議セ

五月十二日「チェスターフィールド、ハウス」ニ於テ御昼

餐議會「ウェストミンスター、アベ」及国立美術館

御見物「ランカスター、ハウス」ニ於テ政府ノ晚餐會

同 十三日午前英蘭銀行大英博物館御見物「ロンドン、タ

ワー」内ニテ御昼餐水路御帰還本使ノ晚餐會

同 十四日 Aldershot, Sandhurst 兵營御遊覽夜觀劇

同 十五日「ボーイ、スカウト」御引見後自動車行郊外ニ

テ御昼飯(多分首相別荘ニ於テ)

同 十六日飛行場御觀覽飛行場ニテ御昼餐午後「グリニツ

チ」御觀覽同地海軍兵学校ニテ御晚餐水路御帰還

同 十七日「オックスフォード」へ御成夜本使晚餐會

同 十八日「ケンブリッヂ」ニ向ケ御出発同大学ニテ御昼

餐夕方汽車ニテ「エディンバラ」へ向ハル

同 十九日「エディンバラ」御着二十一日ヨリ三日間「レイ

ク、デイストリクト」御遊覽二十三日 Naworth Castle

ニテ御昼餐二十四日夕方御帰倫日本協會ノ「レセプシ

ョン」又ハ晚餐會

同 二十八日 在留民御歡迎會

準備至急着手方接伴員ヨリ切ナル申入アリ右御旅程御承認

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ本文ノ義御差支無之候ハハ此旨珍田供奉長へ伝達方

可然御取計相成度尚其節本件ハ内閣總理大臣及外務大臣

ト協議済ナル旨並皇太子殿下及閑院宮殿下へ言上有之度

旨御申添相成度候

五〇六 三月十九日 内田外務大臣ヨリ
在新嘉坡山崎總領事代理宛(電報)

皇太子殿下御訪問ノ予定ニ関シ珍田伯ヨリ皇

太子殿下及閑院宮殿下ニ可然言上アリ度件

第三二号

珍田伯へ

三月十九日附ニテ宮内大臣ヨリ本大臣宛左記ノ通申越アリ

タルニ付テハ皇太子殿下及閑院宮殿下へ可然言上アリタシ

本件ハ宮内大臣ニ於テ總理大臣及本大臣トモ協議済ナリ尚

殿下御渡仏ニ御便宜ノ御日取大凡ナリトモ至急回電アリタ

ク其上ニテ仏国政府ノ都合ヲ問合スコトト致度シ在英在仏

兩大使へ転電済

註 「左記」ノ部分ヲ省略ス右「左記」ノ部分トハ前掲宮内大

臣来信第三七八号冒頭ヨリ末尾「可然御取計相煩度」迄ナ

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五〇六 五〇七

ノ上折返シ御承認御回電ヲ請フ

五〇五 三月十九日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下今回ノ御渡歐ハ英仏二国ニ限り御

訪問ト致度旨申越ノ件

式部送第三七八号 (三月十九日接受)

今般皇太子殿下海外御巡遊ニ際シ歐洲大陸ノ重ナル諸國御

回訪アラセラルルハ御見学上並國交上極メテ望マシキ次第

ナルハ勿論ノ義ニ有之候処現今歐洲大陸諸國ニ於ケル情勢

ヲ觀ルニ特ニ人心安定セス各種不逞ノ徒此間ニ乗シ種々画

策ヲ怠ラサル模様ニ被察御警衛上懸念ニ堪ヘサル次第ニ有

之候ニ付テハ御巡遊ノ区域ハ比較的安全ナル方面ニ限局ス

ル方可然而シテ此方面ノ中ニ付キ國際上ノ均衡等彼此考慮

シ今回ハ英仏ノ二箇國ニ限り御訪問アラセラルルヘク而シテ

予定変更ノ結果生スル余日ハ英仏二国内ニ於ケル御見学ニ

費サレ候様致度存候尚仏国政府へ交渉ノ義ハ貴大臣ニ於テ

可然御取計相煩度此段申進候也

大正十年三月十九日

宮内大臣子爵 牧野 伸顯(印)

リ

五〇七 三月二十日 在新嘉坡山崎總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

コロンボニ於ケル皇太子殿下ノ御日程ニ関シ

珍田伯ヨリコロンボ滞ニ縫田領事ニ電報ノ

件

第三六号 (三月二十一日接受)

在古倫母縫田領事へ左ノ通

Transmit following to Consul Naita as from Count

Chinda II

珍田伯ヨリ第三号

錫蘭總督ヨリ皇太子殿下古倫母御立寄ノ際

一、四月二十八日總督官邸ニ於テ公式奉迎同夜同官邸晚餐

會同總督ハ殿下及供奉員同官邸ニ宿泊セラレンコトヲ希望

ス

二、翌二十九日「カンデイ」公式御訪問午後園遊會同夜晩

餐會

三、三十日 Temple of Tooth 御見物並象行列ノ御見物等

四、三十一日古倫母御帰還相成ルベキ様ノ「プログラム」

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五〇八

ニ依リ殿下ヲ款待致度キ旨新嘉坡總督ヲ經テ申出ノ次第之アリタル処殿下今回ノ御訪問ハ全然非公式ノモノナルニ鑑ミ

一、御到着ノ当日總督伺候後殿下總督官邸ヲ御答訪
二、殿下古倫母御滞在中ハ艦内ニ御起居セラルル筈ナルガ同夜總督官邸ノ晚餐ハ受ケラル
三、二十九日「カンデイ」ニ成ラセラレ午後「テンプル、オブ、ツース」御見物
四、三十日午前象行列御覽後午後古倫母御帰還三十一日夜香取艦上ニ總督外重ナル英国官吏十一二名ヲ殿下晚餐ニ招待セラルル様前記總督ノ「プログラム」ヲ変更相成度旨新嘉坡總督ヲ經テ貴地總督ニ申入レ置キタルニ付貴官ハ右御含ヲ以テ總督側ト各般ノ打合ヲ遂ゲ置カレタシ

尚錫蘭總督ニ於テハ艦隊司令長官訪問ノ件ニ付何等思付居ラザル様察セラルル処右ニ関シテハ追テ申進ズルコトアルベシ

五〇八 三月二十二日 在新嘉坡山崎總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告及大

五〇九 三月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛(電報)

皇太子殿下六月上旬巴里御訪問ニ付仏国側ノ都合問合方訓令ノ件

第二六九号
往電第二五四号ニ関シ

新嘉坡ヨリ珍田伯発本大臣宛第一五号ハ貴方ヘモ転電アリタル筈ノ処右ニ依リ御承知可相成如ク皇太子殿下ハ六月上旬巴里御訪問七月中旬仏国「トゥーロン」ニテ御乘艦帰航ノ途ニ上ラセラルル様致サレ度御希望ナルニ付テハ仏国側ノ都合問合ノ上結果当方ヘ電報セラレ尚古倫母日本領事館氣付縫田領事宛ニテ珍田伯ヘ転電アリタシ又珍田伯申出ニ係ル必要ノ宿舍留保方モ可然御配慮アリ度シ

註 外務大臣三月十九日發第二五四号省略セルガ右ハ前掲三月十九日外務大臣發新嘉坡總領事代理宛第三二二号珍田伯宛電報ヲ転電セルモノ

五一〇 三月二十三日 在新嘉坡山崎總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五〇九 五一〇 五一

五四四

臣ヨリ總督ニ謝意表彰アリタキ旨珍田伯ヨリ

電請ノ件

第四三号 (三月二十三日接受)

珍田伯ヨリ第一五号

皇太子殿下三月十八日当地御安着午前中總督香取艦上ニ伺候シ殿下英国巡洋艦「ホウキンス」ニ總督御答訪午後香取艦上ニ英国文武官二十八名ニ謁ヲ賜フ十九日御上陸總督ト御同伴植物園御見物總督官邸ニ御少息ノ上日新護謨園御見物二十日再ヒ御上陸總督ノ御先導ニテ博物館御見物二十一日早朝總督ノ「ヨット」ニテ新嘉坡島御周覽船上ヨリ「ジヨウル」王国御見物同船ニテ午餐ヲ召サレ午後帰還セラレ同夜艦上ニ總督外重ナル英国文武官十三名ヲ晚餐ニ招待セラレタリ尚總督ハ十九日夜閑院宮殿下ヲ晚餐ニ招待セリ殿下当地御滞在中總督ハ当方ノ希望ニ応シ殿下警衛方ニ関シ諸般ノ手配ヲ尽シ殿下款待ニ関シ誠意配慮スル所アリ何等遺算ナカリシコトハ本官ノ欣幸トスル所ナリ就テハ香港同様閣下ヨリ同總督ニ対シ謝意表彰方山崎總領事代理ニ御訓令アラシコトヲ請フ
在英大使ヘ転電セリ

第四五号 (三月二十四日接受)

皇太子殿下及閑院宮殿下三月十八日午前八時御到着三月十九日午前御上陸總督ノ案内ニテ市中御見物(三時間)ノ後御帰艦同二十日午前御上陸總督ノ案内ニテ博物館ニ御成在ラセラレ市中御見物(一時間半)ノ後御帰艦同二十一日總督「ヨット」ニテ新嘉坡島御一周(七時間)同二十二日午前九時御機嫌麗シク御出發在ラセラレタリ
御到着ノ朝在留民約八百人特別仕立ノ本邦汽船明治丸ニテ港外ニ奉迎シ御出發ノ際「モーターボート」二十艘ニテ奉送申上ケ管内在留民一同皇太子殿下ノ御無事御発着ヲ祝シ奉レリ
尚詳細更ニ電報ス

五一一 三月二十四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟理事会ニ出席ノ為巴里不在トナルニ
付皇太子殿下仏国御到着ノ時期変更願度旨

田伯ヘ電報ノ件

第四四一号 (三月二十六日接受)

本使發珍田伯宛左ノ通り

五四五

第二号

東宮殿下ニハ最初五月二十一日ヨリ六月一日迄並六月十八日ヨリ同二十六日迄当地御滞留ノ御予定ナリシヲ以テ次回ノ國際聯盟理事会ヲ特ニ本使ノ希望ニ依リ六月六日ヨリ開催ノコトニ取運ヒタル次第ナルカ御電報ニ依レハ当國御訪問ヲ六月上旬ニ御変更相成ルヤニ存セラルル処次回ノ理事会ハ特ニ本使議長タルヘキ關係モアリ理事会ニ出席ノ為六月四日ヨリ十七八日頃迄本使ノ巴里不在ハ止ムヲ得サルニ付殿下御着仏ノ時期ヲ可成五月下旬又ハ六月十八日以後ニ御選定願ハレ間敷ヤ折返シ御返電ヲ請フ
外務大臣在英大使ニ転電セリ

五二二 三月二十九日 縫田領事(コロンボ出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下コロンボニ御安着ノ件

第三号 (三月二十九日接受)

皇太子殿下二十八日午前九時御召艦香取ニテ古倫母ニ御安着錫蘭總督ノ公式訪問ヲ受ケラレタル後御上陸總督ヲ官邸ニ御答訪次デ午後八時總督公式晚餐ニ御臨席相成リ御機嫌麗シク御帰艦被遊タリ

ヲ請フ

五二四 三月三十一日 在ボンベイ縫田領事(コロンボ出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下コロンボヨリカンデイニ行啓ノ件

第六号 (四月一日接受)

皇太子殿下二十九日午前十一時特別列車ニテ錫蘭總督御案内ノ下ニ古倫母御出発約七十哩ヲ隔テタル「カンデイ」へ行啓遊ハサレタリ沿道ノ山水風色ヲ愛テラレツツ午後二時二十分同地御着直ニ同地總督別邸ニ入ラセラレ後 Temple of Tooth ナル仏蹟ヲ尋ネサセラレ同夜御晚餐後 Perahera ト称スル象ノ行列ヲ御觀覽遊ハサレ殊ノ外御輿ニ入ラセラレタル様拜セラレタリ翌三十日午前同地ニ有名ナル Peradeniya 植物園御見物相成リテ御帰還後昼食ヲ開召サレ午後三時十五分同地発特別列車ニテ同地御出発午後六時半御帰還遊ハサレタリ

五二五 三月三十一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下仏國御訪問ノ時期ニ関スル珍田伯

五二三 三月三十日

在ボンベイ縫田領事(コロンボ出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御巡遊区域ヲ英仏二国ニ局限セル

理由ノ説明方ニ関シ珍田伯ヨリ問合ノ件

第五号 (三月三十一日接受)

珍田伯ヨリ第一九号

宮内大臣へ左ノ通

新嘉坡領事宛貴電第三二号ニ関シ御承知ノ通殿下御出発前在英仏伊大使及在蘭白西公使ニ対シ殿下歐洲諸國御巡遊ノ日程ヲ一応電報シ置キタル次第ナルニ就テハ英仏以外ノ大公使ニ於テハ依然殿下ノ御來訪ヲ待チ居ルコトト察セラルル処今回右御巡遊区域ヲ英仏兩國ニ局限セラレタルニ付テハ其ノ儀速ニ是等大公使ニ御通報相成度右御巡遊局限ノ理由ニ関シテハ必ス内外各方面ヨリ彼此質問有之コトト察セラルル処外部ニ対シ貴電御申越ノ如キ理由ヲ以テ説明シ得ザルコトハ申ス迄モナキ次第ナルハ勿論右ニ関シテハ内外共ニ歩調ヲ一ニセザルベカラザル次第ニ付テハ如何ナル理由ヲ以テ之ヲ説明スヘキヤ御考慮ノ上何分ノ儀至急御回電

ヨリノ電報転電ノ件

第四七六号 (四月二日接受)

古倫母発本官宛電報第二号

珍田伯ヨリ第二号

貴電第二号ニ関シ御來示ノ如キ事情アルニ於テハ閣下ノ聯盟理事会御出席ノ儀ハ已ムヲ得ザル儀ナル処一方皇太子殿下御滞英中ノ「プログラム」ハ五月二十九日迄ノ分ハ既に殆ド確定シ今更變更スルコト困難ナル事情アルニ付テハ同夜英國御出発三十日巴里御着ノコトトシ閣下巴里御出発前迄ニ仏國へノ公式訪問ヲ終ヘサセラルル様御配慮ヲ願ヒ閣下御出発後ノ事ニ関シテハ乍遺憾代理大使ヲ煩ハスノ外ナシト存ゼラルルニ付テハ五月三十一日ヨリ仏國公式御訪問ノ儀ニ関シ仏國側ノ都合御問合相成度万々一右期間ニ於テ仏國側ノ都合附キ兼ヌルニ於テハ仏國御訪問ノ儀ハ閣下御帰巴ノ後ニ譲ル外ナカルヘク其節ニハ六月十七八日以後ニ於テ仏國側ノ都合良キ期間御問合セノ上何分ノ儀御回答ヲ請フ尚申ス迄モ無キコトナガラ殿下御渡仏ノ期間如何ニ依リ御滞英中ノ「プログラム」ニ自然變更ヲ加フル必要可有之ニ付本件ニ付テハ林大使トモ隨時御打合アラシムコトヲ請

本電貴電第二号ト共ニ在英大使及外務大臣へ転電ヲ請フ

五一六 四月一日 在ボンベイ縫田領事(コロンボ 出張中)ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ポートサイドニ向ハセラレタル件 (四月二日接受)

第八号 皇太子殿下四月一日午前九時御機嫌殊ノ外麗シク当地御出発「ポートサイド」ニ向ハセラレタリ

五一七 四月二日 在ボンベイ縫田領事(コロンボ 出張中)ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

コロンボニ於ケル皇太子殿下ノ御動静ヲ珍田 伯ヨリ報告ノ件

第一一号 (四月四日接受) 珍田伯ヨリ第二一号

皇太子殿下三月二十八日当地御着午前十時総督御召艦ニ伺候同十一時殿下総督官邸ニ御答訪遊ハサル右ノ為殿下御上陸ニ際シ総督ハ波止場ニ御出迎シ陸上砲台ヨリハ皇礼砲ヲ行ヒ棧橋ニハ英艦Caroline水兵約三十名及音楽隊一隊配置

者ハ絶対ニ出入ヲ許サス殿下ニハ同官邸ニ少憩ノ後総督ノ案内ニテ Temple of Toothヲ御見物晚餐後ニハ同官邸前ノ広場ニテ土人ノ興行物御観覧アラセラル三十日午前ニハ総督及同夫人ノ御案内ニテ「ペラデニア」植物園ニ熱帯植物ヲ御観覧同官邸ニテ午餐ヲ済マセラレ午後特別列車ニテ御帰艦遊ハサレタリ三十一日午前ニハ同シク総督及同夫人ト共ニ古倫母博物館御観覧ノ後郊外ノ海水浴場 Mount Laviniaニ「ドライヴ」セラレ午後ハ「ゴルフ」ノ競技ヲ遊ハサレ夜御召艦ニ於テ総督外十四名ノ重ナル英国官吏ヲ晚餐ニ召サレタリ当地御滞在中殿下ニハ毎日御上陸各般ノ事物ヲ親シク御観覧遊ハサレ頗ル御満悦ノ御模様ナリ 林大使ニ転電セリ

五一八 四月二日 在ボンベイ縫田領事(コロンボ 出張中)ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御滞英中ノ予定ニ付英国接伴員手 配中ナル旨等在英大使ヨリ珍田伯ニ電報ノ件

第一五号 (四月三日接受)

林大使発本官宛電報左ノ通り

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五一八

シアリ君ケ代ヲ吹奏ス殿下ハ同水兵ヲ閱兵セラル棧橋上ノ通路ニハ印度製絨毯ヲ敷キ詰メ通路ノ両側ニハ棕欄其他ノ植木鉢ヲ置キ裝飾シ居レリ棧橋ヲ出テラレ約一箇中隊ノ印度軍儀仗兵及特ニ鹵簿儀仗ノ為 Kandy ヨリ来リシ Moun-ain Rifleヲ閱兵セラレ六頭立ノ馬車ニテ殿下ニハ総督ト共ニ浴道ニ溢レ居レル群集歓呼ノ声ノ裡ニ総督官邸ニ成ラセラル同官邸ニテ暫時御閑話総督夫人ニ謁ヲ賜ハリ御帰艦遊ハサル同夜殿下ニハ閑院宮殿下供奉員十名司令長官及艦隊士官数名ヲ従ヘサセラレ総督官邸ノ晚餐ニ成ラセラル同晚餐ニハ当地英国文武官約三十名列席総督夫人外数名ノ夫人モ出席シ殿下ニ拝謁ス右晚餐ノ為殿下陸上陸及御帰艦ノ際総督ハ自ら波止場ニ殿下ヲ迎セリ翌二十九日午前殿下ニハ供奉員全部ヲ従ヘラレ総督及令夫人ト共ニ特別列車ニテ Kandyニ成ラセラレ同地総督官邸ニ御宿泊遊ハサル同日古倫母御出発ニ際シ棧橋及停車場附近ハ勿論浴道一帶ニ群集列ヲナシテ殿下歓迎ノ誠意ヲ示シ多数ノ警官佇立シテ警護ノ任ニ当リ居リタリ「カンディ」ニテハ同県知事夫妻殿下ヲ停車場ニ出迎ヘ停車場ヨリ総督官邸迄ハ浴道群集ヲ以テ埋メラレタリ又同官邸ハ命令ヲ嚴ニシ「パス」所持者以外ノ

珍田伯へ第一二号

(一)往電第九号ニ関シ御滞在日数ハ約三週間位(貴電第二号)トノコトニモアリ目下右往電ノ「プログラム」ニ依リ接伴員ニ於テ手配中ニ付御含アリタク特ニ(イ)英国政府接遇ノ一週間ニ対シテハ右貴電(三)ノ場所モ大体包含シ居ルノミナラス英国政府側ニテモ既ニ準備ニ着手シタル次第ニ付其儘御承認アリタク(ロ)二十六日ノ日本協会二十八日ノ在留民奉迎会ハ準備ノ都合上前広ニ確定ヲ要スルニ付是又其儘御承認ヲ請フ (二)右往電「プログラム」中ニハ英国名物ノ一タル競馬ヲ含ミ居ラサル処幸六月一日「ダービー」、レース」アリ右御観覧アラセラルル様接伴員ニ於テ手配中 (三)前記貴電(一)ニ関シ右「プログラム」ノ通倫敦御滞在中ハ適當時間ナキノミナラス「ケンブリッジ」及「オックスフォード」御縦覧中両大学ニ於テ一題ツツ通訳ノ時間トモ約一時間位ノ御進講申上クルコト適當ノ機会ト思考シ同大

学教授中ニテ適任者人選手配中ナリ (四)未タ何等申出アリタル次第ニハ之ナキモ右大学ヨリ殿下ニ対シ名誉学位ヲ捧呈スルコトアルヤモ計ラレサル処右ノ

場合ニハ最近当国皇后陛下ニ捧呈シタル前例モアリ御受ケアリテ然ルヘシト思考ス念ノ為予メ申進ス

因閣下並山本御用掛宮殿宿泊及随行 Valets 數ハ兩三名ナル旨侍從職へ通知セリ

本電外務大臣へ転電アリタシ

註1 在英大使宛珍田伯宛第九号ハ前掲三月十九日在新嘉坡山

崎総領事代理宛内田外務大臣宛第三五号

2 珍田伯宛在英大使宛第二号ハ前掲三月十八日在新嘉坡山

崎総領事代理宛内田外務大臣宛第二九号

五一九 四月五日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国政府ハ皇太子殿下ノ御来遊ヲ欣幸トスル

旨申越ノ件

第五一四号

(四月七日接受)

貴電第二六九号ニ関シ

珍田伯宛在仏大使宛第二号ノ次第二從ヒ仏国方ノ都合間合セ置キタル処仏国政府ハ殿下ノ御来遊ヲ欣幸トスル旨及六月一日殿下ヲ大統領ノ午餐ニ御招待申上ゲ度旨申入来レリ就テハ反对ノ御訓令ナキ限り五月三十日殿下巴里御着ノコ

註 人機密送第八八号省略セルガ右ハ古倫母出張中ノ縫田領事

来電第五号(前掲)写ヲ送附シ同電報後段ニ関シ何分ノ儀

回示アリタキ旨要請セルモノナリ

五二一 四月六日

内田外務大臣ヨリ
在ポルトサイド益子領事宛(電報)

皇太子殿下御訪問ノ範圍局限ノ事情珍田伯へ

電報ノ件

第九号

珍田伯へ第一〇号

貴電第一九号ニ関シ

御巡遊ヲ局限セラレタル理由ニ関スル宮内大臣ヨリノ回答左記ノ通尚外部ヨリノ質問ニ対シテハ本電報ノ趣旨ニ依リ各地一様ノ答ヲ為スヘキ旨附加シ在英大使ヲ通シテ在欧各大公使及幣原大使ニ転電シ置ケリ

記

(以下前掲宮内大臣来信秘第一一号「皇太子殿下海外」

ヨリ「局限セラレタル次第ナリ」迄ト同文ニ付省略)

註 珍田伯ノ第一九号電報ハ前掲三月三十日古倫母出張中ノ縫

田領事宛内田外務大臣宛第五号

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五一二 五二二 五二三

トト心得諸般ノ準備ニ着手スベシ

珍田伯在英大使及ゼネヴァへ転電セリ

五二〇 四月六日

牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下御訪問ノ範圍局限ノ事情回答ノ件

宮内大臣官房
文書課 秘第一一号

去月三十一日附人機密送第八八号ヲ以テ御申越ノ趣了承皇太子殿下海外御巡遊ハ最初昨年中ニ旅程ニ御上リアルヘキ予定ナリシトコロ種々ノ事情ノ為ニ御出發三月ニ御延引相成候ニ付テハ御旅行ノ期間モ減縮セラルルコトトナリ從テ最初考慮中ナリシ御旅程ニ變更ヲ加フルノ止ムヲ得サルコトト相成候而シテ英仏ニ於ケル御滞在日程ヲ變更スルコトハ困難ナルノミナラス本邦ニ御帰還ノ時期ハ宮中ノ御都合上延長ヲ許ササル事情有之旁々御訪問ノ範圍ヲ局限セラレタル次第ナリ右及回答候也

大正十年四月六日

宮内大臣子爵 牧野 伸頭(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へ伝達方可然御取計相成度候也

五二二 四月六日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

皇太子殿下御巡遊ノ範圍局限ノ理由ニ付外部

へノ説明方ニ付訓令ノ件

第二二二二号

珍田伯へ左ノ通電報セリ

尚本大臣ノ訓令トシテ皇太子殿下御巡遊ノ範圍ヲ局限セラレタル理由ニ付外部ヨリ質問アラバ該電報ノ趣旨ニ依リ各地一様ノ答ヲ為スヘキ旨ヲ附加シ在欧各大公使及幣原大使ニ転電セラレタシ

以下前掲珍田伯宛往電第一〇号(在ポルトサイド益子領事宛第九号)ヲ転電

五二三 四月十四日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御外遊ノ節伊国へモ御立寄アラセ

ラレタキ旨意見具申ノ件

第一一三三号

(四月十六日接受)

在仏大使宛貴電第二五四号及在英大使宛第二二二二号ニ関シ左記各点御考量仰ギ度ク本件ニ付テハ當時直ニ具申センカ

ト存ジタルモ當時未ダ騷擾アリタル際ニテ其ノ成行ニ付研究熟考ヲ要スト思考シタルニ付今日迄延引シタル次第ニ付御諒承ヲ請フ

(一)御予定御変更ニ関スル貴電ニ依リ拝察スレバ当国ノ形勢ヲ御考慮相成リタルコトト想像セラレタル処既報ノ如ク当国ハ人心ノ動揺未ダ全ク終熄セズ社会主義者ノ気焰尚旺ナルモノアルモ輓近之ニ對抗スル「フアシスチ」(愛国主義秩序維持主義者ノ団体)ノ勢力漸次勃興シ今ハ社会主義者ヨリモ遙ニ優勢ニシテ今回ノ総選挙ニ於テ社会主義者ハ甚ダシク其ノ勢力ヲ失墜ス可キ形勢ニアリ從テ当国政治上ノ位置ハ頓ニ改良セラル可シトノ觀察一般ニ行ハレ上流社会ハ何レモ前途樂觀シ社交上ノ催シノ如キモ昨年ニ比スレバ頗ル盛ナルモノアリ且近来「リラ」ノ為替相場モ亦著シク上騰セリ

(二)今日尚騷擾ヲ見ルハ主トシテ北部伊太利ニアルヲ以テ仏国瑞西等ヨリ当地ニ向フ鉄道線路ニ当ル方面ニハ時ニ依リ騷擾ナキヲ保セザルモ当地及南方ハ先ヅ静穩ナル可シト思考セラル

(三)殿下当国ニ御来遊ノ事ハ本使ニ於テハ非公式ニモ「コン

本電(一)以下ノ全文ヲ電報セリ

五二四 四月十五日 内田外務大臣ヨリ
在蘭国田付公使宛(電報)

在本邦蘭国公使ヨリ皇太子殿下同国御訪問御
取止メ無キ様申出アリタルニ付蘭国外相トノ
会谈ノ経過回電方訓令ノ件

第一一号

四月十三日在京蘭国公使来訪去二月二十六日ヘーグ発電報ニ依レバ貴官ヨリ Confidentiallement ニ蘭国外務大臣ヘ皇太子殿下同国皇室御訪問ニ関シ申入ノ次第アリ同大臣ヨリ皇帝陛下ヘ上奏ノ上御歓迎ノ旨回答シタルニ四月十日発電報ニ依レバ更ニ貴官ヨリ殿下御訪問ノ儀御取止メノ申出アリタル処仮令 officieusement ニ通告セラレタル所トスルモ貴官ノ同意ヲ得テ陛下ニ奏上シタル以上御取止メノ報ハ陛下ニ於カセラレ遺憾ニ思召サルベク殿下ガ大陸ノ他ノ諸国ヲ御訪問セラルルヲ見テハ蘭日両国ノ親善關係ニ顧ミ一同ノ心苦シク感ズル所ナルニ付殿下御訪問ニ関シ日本政府ヘ申入ルル様外相ヨリ電訓アリタル趣申述タリ然ルニ在英林大使ヨリ電報^(註)第八八号予テ内訓ノ次第ニ顧ミスカ

ミット」シタルコトナキモ東京電報其ノ他ニ依リ当国新聞ニ屢々伝ヘラレ一般ニ御来遊ヲ期待シ居ル模様ナリ且当国ハ戦後以来主要同盟国ノ一トシテ何事モ英仏ト相伍スルヲ当然トナシ居レリ從テ殿下ガ英仏ヲ御訪問相成リ当国ニ御立寄ナキコトトナラバ「インプレッション」ヲ生ズル虞アリ

(四)英仏ニ數週間御滞在アリ且御往復トモ当国ノ附近御通過アリツツ当国ニハ全然御立寄無キコトトナリ其ノ理由ヲ説明スルトセハ時日切迫トノミニテハ如何ニヤト思考セラル(五)当国皇帝ハ六月中旬迄ハ多分羅馬御滞在ナルベク其ノ以後ハ離宮ヘ御出アルコトト想像ス

(六)今後当国ノ形勢ニシテ平穩ニ赴キ事態益々改良セラルル場合ニハ御都合ニ依リ英仏ヨリノ御帰途軍艦ニテ当国皇帝御所在地附近ノ港ニ御立寄被遊ルルガ如キ様御模様換御詮議ノ余地ナキモノニヤ甚ダ差シ出デタル儀ナガラ心得ノ為御内示ヲ得バ其ノ含ミニテ尚觀察ノ上更ニ卑見申進ジ度シト考フ

註 四月十八日外務大臣ヨリ本電ヲ宮内大臣送附シ又同日在ポートサイド益子領事宛第一九号珍田伯宛第一五号ヲ以テ

ル行違ハ当方ノ了解シ難キ所ナルニ就テハ蘭国外相ト本件用談ノ経過詳細折返シ電報アリタシ

註 外務大臣二月十七日森林大使宛第八八号省略セルガ右ハ皇太子殿下予定御旅程(其内ニ六月六日「ヘーグ」著トアリ)ヲ通報シ外部ニ発表スベカラズト指示セルモノ

五二五 四月十七日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下蘭国御訪問ニ関シ同国外務大臣ニ
内話ノ経過回電ノ件

第二九号 (四月十九日接受)

貴電第一一号ニ関シ

在英大使電第八五号接手後当国外務大臣ニ面会ノ際談偶々我が皇太子殿下御外遊ノ件ニ涉リ其際本使ハ単ニ大臣内密ノ含ミ迄ニ本使接手ノ情報ニ依レバ我が殿下或ハ当国ヘモ御訪問相成ヤノ望無キニ非ザルガ如シ万一右様ノ場合ニハ御警戒ノコト本使ノ最モ懸念スル所ナルニ付可成ハ今ヨリ予メ相当注意方アリ度旨ヲ述べタルニ同大臣ハ右ハ皇帝ノ御耳ニ入レ差支無キヤト尋ネタルニ付ソハ大臣ノ「デイスクレッション」ニ委ス旨答ヘタリ然ルニ本使巴里ニ滞在

中皇太子殿下ハ種々ノ事情ノ為今回ハ単ニ英仏兩國ノミニ止メ他國御歴訪ハ無之コトニ御治定相成タル趣承知シタルニ付帰任後外務大臣ニ面会ノ上右ノ趣ヲ述ベタル処非常ニ落胆ノ様子相見エ右ハ政府ノ訓令ニ基キタル次第ナルヤト尋ネラレタルニ付元來本件ハ本使限リノ責任ヲ以テ単ニ同大臣内密ノ含ミ迄ニ話置キタルコトニ付本件ニ関シ本國政府ヨリ本使へ何等訓令ノ筈モ無ク單ニ前回内話ノ引続トシテ御話スル迄ナリト答ヘタリ

五二六 四月十八日 在ポートサイド益子領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下埃及御安着ノ件

(欠号)

珍田伯ヨリ第二四号

(四月十九日接受)

殿下予定ノ通四月十五日午前蘇西御安着同地英國領事ノ訪問ヲ受ケサセラル午後御上陸同市及近郊御見物翌十六日蘇西出發昨十七日当地御安着当地英國領事及埃及知事伺候候本十八日特別列車ニテ「カイロ」ニ赴カセラル
在英仏大使へ転電セリ

五二七 四月十八日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

タイムズ紙上ノ日本關係記事及日本皇儲ヲ歡迎スト述ベタル社説等報告ノ件

第四八七号 (四月二十日接受)

大使曩ニ濠洲首相「ヒューズ」氏ノ日英同盟更新演説ニ関シ「タイムズ」ヨリ「インタビュ」ヲ求メラレタル際同首相ノ意見ノ發表ハ有益ナル効果ヲ齎スベク同盟國ナル日本亦凡テノ利害關係者ト協力ヲ為スニ吝ナラズ濠洲ハ遠カラズ日本ノ侵略的意圖ヲ有セザルコトヲ確認スルニ至ルベシトノ趣旨ヲ述ベ猶今回「タイムズ」日本号ノ發刊ニ際シ日本ノ立場ガ政治上産業上正当ニ了解セラレ居ラザルコトヲ指摘シ極東市場ハ時日ノ経過ト共ニ常態ニ復スベキコト日本ハ公正ナル自由競争ノ下ニ世界ノ經濟的改造ニ貢獻セムトスルコト支那市場ニ於テ等分ノ地位ヲ保持スルハ日本ニ取り緊切問題ナルコト等ヲ述ベテ日英兩國ノ親善關係ヲ敘説シ殿下御來英ヲ目前ニ控ヘテ日本号ヲ發刊スルノ時宜ヲ得タルコトヲ祝セル「メッセージ」ヲ与ヘ置キタル処十五日「タイムズ」ハ右前後本使ノ所言ヲ引用シ日本号ノ

五二八 四月二十日 在蘭國田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下白蘭國御訪問ノ場合ハ蘭國ニモ御立

寄アラセラルル様詮議方稟請ノ件

第三〇号 (四月二十一日接受)

三月二十日附書信ヲ以テ特ニ本使ニ宛テタル本邦ヨリノ通信ニ依レバ其ノ通信者ガ然ルベキ筋ヨリ得タル報道トシテ皇太子殿下白耳義皇室御訪問御確定ノ旨ヲ伝ヘ居レリ右ハ在仏大使宛貴電第二五四号ノ御趣旨ト抵触シ居ルヲ以テ素ヨリ信ヲ置クニ足ラザルコトト存ズルモ万一今後如何ナル事情カニ依リ又ハ御旅行ノ御都合ニ依リ前記通信者ノ報ズル如ク御行程御變更ノ場合ニモ立至ル時当國御訪問無之場合ニハ蘭國トノ國交上取返シ付カザル惡結果ヲ生ズベキハ御予想ニ難カラザルコトト信ズ就テハ白蘭國皇室御訪問ノ場合ニハ是非トモ當皇室ヲモ御訪問遊バサル様御詮議方切望ニ堪ヘズ右ハ既ニ往電第七号ニ依リ当方ノ事情疾ク御諒知ノコトト存ズルモ在仏大使ヨリモ予テ蘭國其他歐洲小國御訪問無クトモ白蘭國御訪問ハ差支無カルベキ由上申サレタル次第モ有之趣承知致シ居ルニ付念ノ為更ニ本件御考量ヲ

發刊ガ國際政治並商業上帝國ノ地位ヲ正当ニ了解セシムルニ有力ナル価値ヲ有スベシトノ論評ヲ加ヘタルガ日本号ノ發刊ノ当日「タイムズ」ハ更ニ産業的日本ト題シ東西ノ島國タル日英ノ關係ハ一般ノ予想以上ニ緊密ナリト前提シ經濟生活ノ進歩ト共ニ原料品輸入ノ必要ガ一層其ノ度ヲ増スニ至ルハ當然ニシテ日本又羊毛棉花鉄鉞等ヲ外國ニ俟タザルヲ得ズト為シ更ニ日本生糸業ガ英國ノ紡績業ト匹敵シ而モ其ノ原料ヲ國內ニ生産シ得ルノ利益ヲ有シ居ルコト發達顯著ナル日本ノ造船業及海運業ガ英國ノ力ニ俟ツコト多カリシコトト水力電氣事業上日本ガ最モ有利ノ地位ヲ占メ居ルコト等日本ノ特色ヲ指摘セル一方日本農業方式及地方運輸ノ幼稚ナルコトヲ挙ゲテ進歩ノ未ダ完カラザル点アルコトヲ述ベタル後泰西諸國ノ日本ニ対スル態度ニ言及シ短見者流ハ恐怖ト羨望ノ念ヲ以テ日本ニ対スルモ聰明ナル英國人ハ産業ノ進歩ハ聽テ購買力ノ増進ヲ意味ストノ確信ヲ以テ日本ノ進歩ニ臨ムベキハ吾人ノ信ジテ疑ハザル所ナリト論ジ最後ニ英國人ハ熱誠ヲ以テ日本皇儲ヲ歡迎スベク皇儲ノ御渡英ガ兩國現存ノ友好關係ヲ一層鞏固ニスルハ言ヲ俟タザル所ナリト結ベリ

仰グ次第ナリ

註 田付公使二月五日発第七号省略セリ

五二九 四月二十日 在白国武者小路臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国外務大臣ヨリ皇太子殿下御来白ヲ切望ス
ル旨申出アリタル件

別電 同日在白国武者小路臨時代理公使発内田外務大

臣宛電報第一〇三号

白国皇室及国民皇太子殿下ノ御来白ヲ切望シ居
ル旨具申ノ件

第一〇二号

(四月二十二日接受)

四月二十日朝需メニ依リ当国外務大臣ヲ訪問シタル処白国
皇帝陛下ハ皇太子殿下ノ白国御立寄り切望セラレ正式ニ御
招請方ヲ命セラレタル等既ニ在本邦白国代理公使ヘ帝國政
府ニ対シ右申入方電訓済ナルカ同時ニ在英白国大使ヘモ殿
下御着英ノ節右特ニ申入ルル様訓令シ置ケリ右様ノ次第ニ
テ是非本官ヨリモ特ニ帝國政府ニ電報シ右御決行ヲ見ンコ
トヲ切望スト述ヘラレタルニ付小官ヨリハ先般御訓令ノ次
第モアリ御滞欧日数モ当初ノ御予定トハ非常ニ短縮セラレ

タルコト及御帰朝ハ動カシ難キコト其他然ルヘク説明シタ
ル処同大臣ハ語ヲ改メ当国ハ小国ナカラ大戦ノ關係上御見
学ノ資モ多カルヘク又日本ニ対スル敬虔ト親愛ノ情ハ何レ
ノ国ニモ勝ルモノアリ將又英國ヨリハ単ニ半日程ノ近キニ
位シ居ルニ付何ントカ御都合相附ケラレハ非常ニ欣幸ナ
リト語ラレ更ニ語ヲ継キ当方ニモ經驗アルコトナルカ他国
トノ振合モ多少御懸念アルヘシト臆測スルモ白国ノ大戦上
及地理上ノ特種關係ハ例外ノ御立寄りモ弁明スルニ十分ナ
リト思考スト語ラレタリ依テ本官ハ御申入レノ次第ハ委曲
直ニ本國政府ニ電報スヘキ旨答ヘテ引取レリ

右ニ関シ別電第一〇三号御参照ノ上当方ニ応答振御訓令ヲ
仰ク

(別電)

四月二十日在白国武者小路臨時代理公使發内田外務大臣宛電

報第一〇二号

白国皇室及国民皇太子殿下ノ御来白ヲ切望シ居ル旨具申ノ件

第一〇三号 別電

往電第一〇二号ニ関シ

殿下御来白ノ儀ハ何レヘモ正式ニ申入レサリシニ拘ラス新

聞報道等ニテ白国朝野ヨリ非常ニ翹望セラレタルカ御見合
ノ貴電ニ接シタル以來ハ諸方面ヨリノ問合アル毎ニ御訓令
ノ趣旨ニ依リ可然応答シ居タル次第ナルカ右ハ自然宮内省
外務省辺ヨリ皇帝陛下ノ御耳ニ達シ非常ニ遺憾ニ御思召サ
レタル折柄十数日前華府來電トシテ米國大統領殿下ノ御來
米ヲ招請シタルコト及已ムヲ得サル御事情ニテ其ノ運ヒニ
至ラサル為天皇陛下ヨリ特ニ御親書ヲ送ラレタルコト等一
齊ニ白国新聞紙上ニ報道セラレタル等は等諸事情ヲ総合シ
白国側ヨリ進ンテ正式招請ノコトニ決セラレタルニアラス
ヤト推測セラル

右様ノ事情ニテ白国皇室側ニ於テ殿下御来白ヲ切望セラル
ルノミニ止マラス一般人民側ニ於テモ寄々歓迎ノ目論見ア
リタルモノノ如ク現ニ四月十三日白協会幹部会ノ節(小
官モ招カレテ列席セリ)モ殿下御来白ヲ機トシ日本ニ關係
アル書類美術品ヲ持寄り当市一公会堂ニ展覽會ヲ催シ御台
臨ヲ仰クヘキ旨ノ提案アリ小官ハ御来白ノ儀六ヶ敷旨ヲ説
明シ且御来白ナクトモ近々右ニ関スル一展覽會ヲ開催スル
様態薄シ一同ノ賛成ヲ得タルモ皆頗ル失望ノ色アリタルハ
当然ノ事ニ有之折角再興ノ氣分ニ向ヒタル日白協会ノ發展

ニハ洵ニ遺憾ノ極ト存セラル尚其他新聞社等ニテモ大使館
設置決行セラレタル上ニ御来白ノ事トモナラハ実ニ此上ナ
キ事ナリトテ十分日白兩國ノ親交増進ニ努メントスルモノ
歎カラス此ノ意氣込ミヲ挫折ナカラシムル為如何ナル方法
ヲ講スヘキカ当方ニ於テモ頻リニ腐心中ニ有之之ヲ要スル
ニ何トカ御詮議變更ノ余地アラハ兩國親交上最モ慶賀スヘ
キコトナルカ右御決定ハ其筋ニテ慎重審議ヲ尽サレタルコ
ト勿論ナルヘキニ付如何ニシテモ已ムヲ得サル御儀ナラハ
御名代若クハ御使御差遣相成ルカ或ハ軍艦ヲ当国一港ニ御
派遣相成ルカ其他十分鄭重ナル方法ヲ講セラレ以テ当国皇
室ノ好意ヲ謝セラレ且一般朝野ノ敬意ヲ認メラルル様致シ
タシ此辺ハ素ヨリ御取運ヒ中ノコトトハ拝察スルモ御来白
ニ関スル当国一般ノ期待カ余リニ盛ンナルニ顧ミテ御考
慮ヲ仰ク次第ナリ

五三〇 四月二十一日

在ポートサイド益子領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下カイロ御巡遊ノ次第ヲ珍田伯ヨリ

詳細ノ件

第二九号

(四月二十三日接受)

珍田伯ヨリ第二五号

往電第二四号ニ関シ殿下四月十八日午後三時「カイロ」御安着同地ニ御二泊同二十日午後三時無事御帰艦相成リタリ右「カイロ」御巡遊ノ次第ヲ詳記スルニ四月十八日午前十時殿下御迎ノ為「アレンビー」元帥ヨリ特ニ当地ニ差遣セル同元帥秘書官及陸軍武官御召艦ニ伺候シ右兩人ノ案内ニテ十時二十分運河会社棧橋ニ御上陸坡西土知事出迎ス同棧橋ニハ埃及駐屯英国軍一箇中隊ノ堵列兵アリ殿下御閱兵後十時四十五分発特別列車ニテ御出発午後三時「カイロ」御到着「アレンビー」元帥及「サルタン」ノ代理トシテ差遣セラレタル「サルタン」ノ侍従長出迎ス停車場内ニハ軍樂隊ノ一隊及埃及駐屯英国軍一箇中隊儀仗兵トシテ整列又停車場外ニハ埃及軍一箇中隊ノ儀仗兵アリ殿下ニハ夫々御閱兵後「アレンビー」元帥ト自動車ニ御同乗統監官邸ニ入ラセラレ元帥夫人及統監府ノ文武官数名ニ謁ヲ賜ヒ直ニ元帥ノ御案内ニテ「ピラミッド」御見物御帰邸後同邸内庭園ノ御茶ニ列席同地外交団員夫妻埃及政府ノ主ナル官吏及統監府文武官夫妻ヲ御引見種々御会談アリ同夜元帥官邸ニ公式晚餐アリ殿下ハ閑院宮殿下及供奉員数名ヲ伴ハレ臨席セラレ同

皇太子殿下埃及サルタント会见ノ模様ニ関シ

珍田伯ヨリ報告ノ件

第三一号

珍田ヨリ第二六号

殿下「サルタン」御会见ノ際「サルタン」ハ殿下ノ埃及御訪問ヲ多トシ御微行ノ為タルト且滞在期間短キ為充分御款待出来得ザルコトヲ遺憾トスル旨陳ベタル後歐洲大戦以來日本ト埃及トノ関係頗ル緊切トナリ埃及内ニ於ケル日本商品ノ販路漸次拡張シ来リ現ニ燐寸ノ如キ全国民日本製品ヲ使用シ居ルガ如キ次第ニシテ右親善関係ハ今後益々増進シタク将来好機会モアラバ自ラ日本ヲ訪問シタキ希望ヲ有スル旨ヲ陳ベタリ尚殿下ノ「サルタン」御訪問ハ英国ト埃及トノ関係等ニモ鑑ミ「デリケート」ナルモノアルヤニ思考シタルニ付殿下「サルタン」御往訪及「サルタン」ノ殿下答訪ノ際「アレンビー」元帥列席ノコトニ取計ヒタル次第ナリ

在英大使ニ転電済

夜ハ埃及政府総理大臣大蔵大臣及「サルタン」侍従長並ニ同政府附主ナル英国官吏埃及駐屯英国軍及埃及軍司令官等出席ス翌十九日午前十一時半殿下ハ「アレンビー」元帥ノ案内ニテ「サルタン」ヲ非公式ニ同宮殿ニ御訪問同正午「サルタン」ハ統監官邸ニ殿下ヲ答訪ス午後二時半元帥ノ案内ニテ Polo 競技御見物同所ニ於テ御茶ヲ召サレタル後一先ツ元帥ニ御別レ相成リ「サルタン」ヨリ差遣セル其ノ侍従ノ案内ニテ博物館図書館及 Mahomet Ali ノ Mosque 御見物同夜元帥官邸ニ第二回公式晚餐アリ殿下ハ閑院宮殿下並ニ前夜出席セサリシ供奉員全部ヲ伴ハレ臨席セラルル四月二十日午前十時殿下ニハ元帥ト同乗同官邸御出発停車場ニテ元帥及「サルタン」代表侍従長ニ御告別十時半特別列車ニテ午後三時御帰艦相成リ「カイロ」御出発ノ際停車場内外ニハ同地御着ノ際同様ノ儀仗兵アリ坡西土運河棧橋ニモ同所御上陸ノ際同様儀仗兵アリ殿下閱兵セラレ尚右各地ニ於ケル儀仗兵ハ何レモ連隊旗ヲ捧持シ居リタリ

在英仏大使へ転電セリ

五三一 四月二十一日

在ポルトサイド益子領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

五三二 四月二十六日

内田外務大臣ヨリ
吉田書記官(在ジブラルタル帝
国名譽領事館氣付)宛(電報)

皇太子殿下御訪問ニ関スル在蘭国田付公使来

電要領珍田伯へ通報ノ件

(欠号)

珍田伯へ第一七号

田付公使来電第二九号要領左ノ通

御旅行ノ御都合ニ依リ万一御行程御変更ノ場合当国御訪問無之トセハ日蘭国交上取返シノ付カサル悪結果ヲ生スヘキニ付白国皇室御訪問ノ場合ニハ是非共当国皇室ヲ御訪問遊ハサル様御詮議方切望ニ堪ヘス

五三三 四月二十六日

珍田供奉長(マルタ滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

マルタ御滞在中ノ皇太子殿下御動静ニ関スル

件

第二八号

(四月二十八日接受)

皇太子殿下四月二十四日午前十時「マルタ」御安着満艦飾ヲナセル英国駆逐艦四隻並ニ飛行機一隻港外ニ出迎ス港内ニ於ケル英国軍艦総テ満艦飾ヲナシ居リタリ御着港後間モ

ナク当地総督 Pumer 元帥御召艦ニ伺候次デ地中海艦隊司令長官 Rewbeck 海軍大将英国第四皇子 George 親王殿下(目下地中海艦隊旗艦 Iron Duke ニ候補生トシテ乗組ミ近々埃及土耳其古方面ノ航海ニ上ラセラルル由)訪問アリ右終リテ殿下ニハ供奉員数名ノ扈從ヲ以テ御上陸 Valletta 総督官邸ニ総督ヲ答訪セラル御上陸地点及総督官邸前ニ於ケル儀仗兵ハ古倫母及「カイロ」ト同様次デ殿下ニハ Iron Duke ニ司令長官及 George 親王殿下ヲ答訪セラル午後四時再々御上陸総督ノ案内ニテ「オペラ」御見物午後八時 St. Antonio ノ総督官邸ニ於テ晚餐会アリ殿下ハ閑院宮殿下及供奉員数名ヲ伴ヒ列席セラル当夜ハ George 親王殿下「マルタ」大僧正艦隊司令長官其他当地ノ重ナル文武官二十四名陪席晚餐後「レセプション」アリ二十五日午前当地海軍墓地ニ於ケル日本海軍戦没者追弔式ニ御列席後総督ノ案内ニテ当地左右ノ「カトリック」会堂及 Valletta 総督官邸内ニ於ケル各種武器御見物後 Malta 貴頭紳士ヲ以テ組織セル「マルタ」倶楽部午餐ニ御臨席午後 Saint Antonio ニ於ケル総督官邸ノ園遊会ニ御台臨午後八時総督 George 親王殿下其他十余人ヲ艦上ノ晚餐ニ召サレタリ本二十六日総督副

総督ヲ陪同シ告別ノ為メ来艦伺候英国艦隊司令長官モ同様伺候セリ殿下当地御滞在中総督ハ殿下御警衛ノ点ニ意ヲ用ヒ御上陸ノ都度御召自動車ノ前後ニハ騎馬警官ニテ警衛シ御通行ノ沿道ニハ約十間置位ニ警官ヲ堵列セシメ御警衛上遺憾ナキ誠意ヲ披瀝シテ殿下ノ歓待ニ努メタルコト及当地ニ於テモ埃及同様拳拳御歓待ニ努メタルハ勿論朝野ヲ挙ゲテ御歓迎ノ誠意ヲ表シタルコトハ本官ノ頗ル本懐トスル所ナリ就テハ在英大使ヲシテ「カイロ」及当地両総督ニ対シ深厚ナル謝意御表彰方然ルベク御取計アランコトヲ希望ス
在英仏大使へ転電ス

五三四 四月二十七日 珍田供奉長(マルタ滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下マルタ御出発ノ際ノ模様報告ノ件

第二九号 (四月二十八日接受)

往電第二十八号ニ関シ

「マルタ」御出発ノ際シ港内淀泊中ノ英国軍艦ハ全部満艦飾ヲナシ地中海艦隊ノ重ナル軍艦及陸上礼砲台ヨリハ皇礼砲ヲ発射シ水雷戦隊旗艦ノ率キル駆逐艇ノ一隊及飛行機二隻港外迄御見送りシタリ尚往電第二十八号末段二十六日

酬方訓令ノ件

第六一号

貴電第一〇二号及第一〇三号ニ関シ

宮内大臣ヨリ皇太子殿下ノ御旅程ハ乍遺憾変更相成難キ旨回答アリタルニ依リ右様御承知ノ上先方へ可然応酬アリタシ

五三七 四月三十日 在白国武者小路臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御旅程ニ関シ白国側へノ応酬振

請訓ノ件

第一一五号 (五月一日接受)

貴電第六一号ニ関シ先方へ応酬前左ノ点折り返シ電報アリタシ

一、白国皇帝へノ勅旨ニ対シテハ天皇陛下ヨリ御応答アルコトト拝察スルガ右ハ在本邦白国代理公使へ伝へラルルコトト心得然ルベキヤ

二、何等理由ヲ示サズ若シクハ当国ニ対シテハ殆ド理由トナリ難キ在英大使宛第二二二号ノ主旨ノミヲ繰リ返シ御旅程変更相成難キ趣ヲ応酬スルコトハ此ノ際頗ル工合悪

英国艦隊司令長官告別ノ為伺候ノ際 George 親王殿下モ来艦親シク殿下ニ告別セラレタリ
右追加ス

五三五 四月二十七日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下御旅程変更相成難キ旨回答ノ件

宮内大臣官房 文書 課秘第一七号 (四月二十八日接受)
本月二十五日附人機密送第一三一号ヲ以テ御申越ノ趣了承右ニ関シテハ本月六日附宮内大臣官房文書課秘第一一号ヲ以テ申進置候通り皇太子殿下ノ御旅程ハ遺憾ナガラ変更難相成候条貴大臣ヨリ在白武者小路臨時代理公使へ可然御伝達相成度此段及回答候也

大正十年四月二十七日
宮内大臣子爵 牧野 伸顯(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

五三六 四月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在白国武者小路臨時代理公使宛
(電報)

皇太子殿下ノ御旅程変更相成難キ旨先方へ伝

シク(本官ノ私見ニテハ若シ他国ノ關係上不都合ナクバ
在欧多数ノ親交国ニ対スル振合上其ノ一部ノ御訪問ハ御
都合悪シトテ公式ニ説明スルコトモ一法ト思考ス)就テ
ハ白国代理ヘノ御回答振其ノ他可然忒酬振指示セラレタ
シ

五三八 五月三日 珍田供奉長(ジブラルタル滞在中)
ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ジブラルタル御滞在中ノ皇太子殿下御動靜ニ
関スル件

第三一號 (五月四日接受)

皇太子殿下四月三十日「ジブラルタル」御安着英国駆逐艦
四隻港外ニ御出迎シ港内ノ船艦総ヘテ満艦飾ヲナセリ同日
午前中当地總督海軍司令官及偶々当港ニ碇泊中ノ米国軍艦
司令長官ノ伺候ヲ受ケサセラル今日午後前記諸官御答訪後
總督ノ案内ニテ競馬ヲ御覽遊ハサル同夜閑院官殿下及供
奉員数名ヲ伴ハレ總督官邸ノ晚餐ニ臨マセラル總督御答訪
ノ節御上陸地点及總督官邸前ノ儀仗兵併列等大体従来立寄
タル各地ノ先例ニ同シ五月一日御上陸海軍工廠御見物後英

ハ本使ヨリ殿下ニ御希望言上ノ上是非共御來訪在ラセラル
ル様尽力ヲ請フ旨内話アリタルニ対シ本使ヨリハ右ノ趣旨
伝達申上クヘキ旨答ヘ置キタリ

従来再三同国側ヨリノ申出ト謂ヒ又同大臣ノ語氣ニ照スモ
右白側ノ希望ハ強チ外交ノ辭令ト看做シ難キヲ以テ御渡仏
ノ序ヲ以テ御訪問ノ義可然ヤト思考セラル然ルトキハ自然
伊国ヲモ御訪問遊ハサルヘキコト振合上止ムナキ義ト存セ
ラルルニ付テハ右様御旅程変更相叶フヘキヤ然ラザルニ於
テハ仏国ニ長時日御滞在ノ義ハ隣国皇室ノ好誼ヲ無ニスル
ノ感ヲ与フルコトトナキヲ保セザルヲ以テ其ノ辺御考量ノ
上御滞仏日數ニ變更ヲ加フルノ必要ヲ生スルヤニ思料セラ
ル

右氣付為念申進ス
在仏大使及在白公使ヘ転電セリ

五四〇 五月五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御渡英等ニ言及セルノ一スクリ
フ卿ノ演説内容報告ノ件

第五六二號 (五月七日接受)

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五四〇 五四一

海軍司令官ノ午餐ニ臨マセラレ午後貯水地及旧砲台等御見
物五月二日 Algiers 知事西班牙皇室及政府ヲ代表シテ御
召艦ニ伺候殿下ニハ之ヲ受ケサセラレタル後更ニ御上陸軍
隊分列式ニ臨マセラレ後郊外ヲ自動車ニテ Drive セラレ民
政長官ノ午餐ニ御出席午後ハ總督ノ園遊會ニ御台臨夜ハ艦
上ニ總督以下当地ノ重ナル英国文武官吏及米国司令長官ヲ
召サレ晚餐ヲ催サセラル当地總督モ各地總督同様誠意以テ
殿下ノ警衛並歓待上配慮スル所鮮カラス本官ニ於テモ頗ル
本懐トセル次第ニ付在英大使ヲ經テ謝意表彰方可然御取計
ヲ請フ

在英仏大使ヘ転電ス

五三九 五月三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国側ノ要望ニモ鑑ミ皇太子殿下ノ御旅程變
更ヲ考量方稟申ノ件

第五四七號 (五月五日接受)

二日最高會議ノ為首相官邸ニ參集ノ砌白外相「ジャスパ
ー」氏ハ本使ニ向ヒ皇太子殿下御來遊ノ際白国御來訪ノ義
ハ同国陸下ニ於テモ切ニ御希望在ラセラルル所ナルニ付テ

五月三日 Northcote 卿ハ來英中ノ米国加奈陀実業団ヲ晚
餐ニ招待シ其ノ席上英米間誤解ノ素因ト目スベキ Ireland
公債石油「ヤップ」日英同盟殿下御渡英海軍飛行教官傭
ノ諸問題ニ付一場ノ演説ヲ試ミ(一)殿下ノ御渡英ハ何等ノ不
思議ナク我英國皇太子モ大旅行セラレタル如ク凡ソ青年ニ
亘ラセラルル殿下ガ広ク御漫遊アルコトハ吾人ノ望ム所ナ
リ(二)「ヤップ」ニ対スル日本ノ態度ハ日英同盟ニ負フモノ
ナリトノ想像説流布セラルルモ米国ニ対スル日英ノ結合ハ
アリ得可カラザルコトナリ若シ英國政府ニシテ斯クノ如キ
結合ヲ企ツルモノアラバ英國人民ハ加奈陀濠洲「ニュー、
ジラランド」ト一体トナリ之ニ反對スベシト云フヲ憚カラ
ズ將又(三)飛行教官ニ付テハ彼等ガ失業者ノ仲間タルニ洩レ
ザルト同時ニ最優秀ナル飛行家タルノ事実ニ顧ミ日本政府
ハ教官トシテヨリ優良ナルモノヲ他ニ求ムル能ハザリシナ
ル可シト述べタリ

米「オタワ」ヘ転電セリ

五四一 五月七日 珍田供奉長(ポーツマス滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下白蘭伊三國ヲモ御訪問ノ事ニ詮議

相成度旨具申並請訓ノ件

第三二号

(五月九日接受)

大至急宮内大臣へ左ノ通り御伝達ヲ請フ

(一)在白代理公使発外務大臣宛電報ニ依ルニ白国皇帝陛下ニ於カセラレテハ皇太子殿下白国御訪問方親シク御招待有之タル趣右ニ対シテハ已ニ一応御断リ有之タルトノ事ナルガ林大使来電第五七号ニ依ルニ在英白国大使ヨリ殿下御着英後本件ニ関シ特ニ殿下ニ拝謁シタキ旨申出タル由察スル処大使ハ右拝謁ノ際必ス白国皇帝陛下ノ旨ヲ受ケ殿下白国御訪問方再応招請スルナルベク其際単ニ時日ノ余裕無シトノ理由ノミヲ以テ之ヲ断ルガ如キハ白国御滞在期間ノ長キト仏白間距離ノ近キトニ顧ミ余リニ誠意ヲ欠キタル口実ノ如ク聞エ甚ダシキハ殊更ニ疎外ノ態度ヲ示サントスルガ如キ印象ヲ与フル無キヲ保セス果シテ然ラバ其ノ国交上ニ及ボシ得ヘキ影響ハ小官ノ容喙スベキ限りニ非ズトスルモ殿下ノ御自身ニ於カセラレ頗ル「オークワード」ノ立場ニ立タセラルベキハ小官等ノ痛心惜ク能ハザル所ナリ

(二)当初ノ計画ヲ御変更相成リタル唯一ノ理由ハ伊国御訪問ヲ危険トセル事情ナル処落合大使発外務大臣宛電報第一一

三号ニ依ルニ伊国最近ノ状況平穩ニシテ特ニ危険ヲ感ズベキ事情無之趣又最近伊国ヲ巡視シ来レル竹下中将ニ於テモ落合大使ト同意見ヲ有スルノミナラズ警察ノ取締モ嚴重行ハレ居レリ何等御身辺ニ対スル危険云々ノ如キ杞憂ニ過ギザルベシトノ事ニ有之就テハ自来發生ノ右新事情ニ順応シ此際宮府ニ於テ今一応従来ノ御決定ヲ再考セラレ当初ノ「プログラム」通り白伊トモ御訪問ノ事ニ御詮議相成度切望ニ堪ヘズ

(三)殿下白国御訪問ノ上ハ在蘭公使発外務大臣宛往電ノ次第モアリ此亦慎重御考慮ヲ要スベキト思考ス

(四)殿下白国御巡遊後白伊蘭御訪問相成ルトスルモ特ニ多大ノ時日ヲ要スル次第ニモ非ザルノミナラズ実ハ英国御滞在期間偶然三週間トナリタル処之ニ比シ仏国滞在期間余リニ長ビク事ハ対英感情上面白カラズ去リトテ一度仏国御訪問後英国ニ引返サルル事モ各般ノ事情ニ鑑ミ容易ニ実行シ難シ依テ仏国ニ相当期間御滞在後余裕ノ時日ヲ白国其他(脱)与国ノ御訪問ニ振宛ツル事ハ(不明)四囲ノ事情ニ鑑ミ機宜ノ処置ト存ス

(四)閑院宮殿下ニ於カセラレテモ上記ノ事情ニ鑑ミ且ツ皇太子殿下ニモ折角御渡欧相成リタル以上是非英仏以外ノ諸國御訪問相成ル方然ルベシトノ御意見ニシテ此ノ際当局ニ於テ本件再詮議方上申スベキ旨御沙汰アラセラレタリ

右差シカカレル事情アルニ付テハ御詮議ノ結果在英大使宛大至急御回訓ヲ請フ

五四二 五月八日 在白国安達公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国当局ノ要望ニ鑑ミ皇太子殿下ノ御立寄取

計方稟請ノ件

第一二二号 至急

(五月九日接受)

七日夜帰國セル白国外相ハ八日秘書課長ヲ遣ハシ皇太子殿下ノ暫時ナリトモ当国ニ御立寄遊バサルコトハ当国皇帝陛下ノ最モ熱心ニ御希望アラセララルル御儀ナルニ依リ曩ニ武者小路代理公使ニモ篤ト御依頼シ尚在東京白国代理公使ニモ訓令ニ及置キタル処日本外務大臣閣下ヨリ同代理公使ニ対シ右ハ皇太子殿下ニオカセラレ倫敦御着ノ上御取極メ遊バサルベキ儀ナル旨返答アリタルニ付当国外務大臣ハ倫敦出張中林大使ニ懇願シ尚在英白国大使ニモ訓令シ来リタル

次第ニシテ近来倫敦ヨリ当地ニハ六時間巴里ヨリ当地ヘハ四時間ニテ達スルニ至リ殊ニ皇太子殿下ニオカセラレ仏国戦線御視察ノ際当地ニ御立寄アラセラルル為ニハ往復僅カニ二三時間ニ過ギザルコトニモアリ当国戦後ノ実況ハ是非皇太子殿下ノ御一覽ヲ御願申上度当皇帝陛下ノ御熱望ナルガ上ニ右ハ政府及人民一般ニ於テモ全然同様ナル儀ナレバ本使ヨリ皇太子殿下ニ言上シ右熱望ヲ達成スル様尽力ヲ煩シ度旨續陳セシメタルニ付右ハ今更甚ダ困難ナルヲ感ズルモ兎ニ角政府ニ伝達スベキ旨ヲ答ヘ置キタリ

右ノ如ク当国ニ於テハ皇帝陛下ヲ御初政府人民挙リテ皇太子殿下ノ当国御立寄ヲ熱望シ百方其手段ヲ尽シツツアルニモ不拘遂ニ何等ノ御沙汰ニ接セザル場合ニ於ケル当国失望ノ程度察スルニ余アリ国交ノ将来ニモ影響セザルヤヲ懸念セラルルニ付テハ可相成ハ皇太子殿下ニオカセラレ暫時ナリトモ当国ニ御立寄アラセラルル様御取計相成度謹ンデ稟請ス

在英仏大使へ転電セリ

五四三 五月九日 在英国外務大臣宛(電報)
内田外務大臣宛

皇太子殿下ニ対スル英国ノ政府招宴辞退ヲ申入レタル件

第五七三号

(五月十一日接受)

炭抗夫「ストライキ」未タ解決ニ至ラス最近益々難境ニ陥リ現ニ其ノ為メ本月四日ニ行ハルル管ナリシ「コート」モ中止セラレタル様ノ次第ニテ首相初メ閣員頗ル苦慮シ居ル此ノ際殿下御旅行ノ性質ニモ顧ミ珍田伯宛往電第九号十二日政府主催ノ饗宴ハ其ノ為メ政府側ノ接遇頗ル鄭重ナルコトニモ有之辞退スルコト可然ヤニ思考シ珍田供奉長ト打合ノ上辞退方申入レタル処「カーゾン」卿ハ大ニ我同情の態度ヲ喜ヒ隔意ナキ合議ノ上遂ニ右辞退ヲ諾シ該饗宴ハ見合スルコトトナリ七日公表セラレ当館ニ於テモ夫レトナク右ハ殿下思召ニ出ヅル旨ヲ新聞社ニ説明シ置ケリ(七日)

五四四 五月十日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御来遊ヲ歓迎スル英国各紙論説

大要報告ノ件

第五七八号

(五月十二日接受)

東宮殿下ノ御来遊ニ関シ当地各新聞ハ執レモ熱誠ナル観迎同盟ノ繼續ニ関シ英國政府ハ帝国首相會議開催以前ニ於テ何等の確ナル言明ヲ為スコトヲ得サルノ立場ニアリト論シ更ニ客年聯盟理事会宛日英協同通告ニ論及シ猶ホ最近濠洲及新西蘭首相ノ言明ヲ援用シ最後ニ印度政庁モ亦改訂ヲ希望スルモノト了解セラルル旨ヲ掲ケタリ

五月七日「デーリー、テレグラフ」ハ東宮殿下歓迎ノ辞ヲ掲ケ帝国文化ノ急激ナル発達ヲ叙シ日英両国ノ緊密ナル間柄ニ論及シ日英同盟ノ改訂ニ関シ同同盟ハ平和ノ連繫ニシテ戦争ノ盟約ニアラス之ニ関シ何等疑惑ヲ抱クモノアラハ未タ之ヲ了解セサルノミ炊煙稀薄ナル濠洲ハ人口稠密ナル亜細亞ヲ目スルニ不安ノ念ヲ以テスト雖モ賢明ナル政治家ハ「ヒューズ」ノ説ニ賛シ均シク日英同盟ヲ以テ濠洲ヲ脅威スルモノニアラスト為シ米國ニ於テモ亦同様ニシテ英國ニ対シ好感ヲ有セサル一部政党者流ハ日英同盟ヲ以テ米國ニ有害ナルモノトナセリ惟フニ日英同盟アルカ為メニ日米戦争ニ際シ日英兩國海軍協同スヘシト云フカ如キハ誤モ甚シ素ヨリ日米戦争ノ如キ事態ノ発生ヲ信セサルモノハ独リ吾人而已ニアラスシテ日米兩國穩健者流亦然リ此ノ種ノ杞憂ハ結局日米兩國ノ完全ナル了解ニ依リ之ヲ解除スルコト

ノ辞ヲ掲ケタルカ就中「タイムズ」「ガーディアン」「テレグラフ」等ハ長文ニ亘リ我皇室ト国民トノ關係ヲ叙述シ千古未曾有ノ御来遊ヲ以テ我皇室ノ御鄭重ナル御交誼ニ基クモノト為シ最近帝國文化ノ偉大ナル発達ニ論及シ大戦ノ功績ヲ称揚シテ一般國民ニ対シ極メテ好感ヲ与ヘツツアル模様ニ察セラルル処就中五月七日ノ「タイムズ」ハ其ノ冒頭ニ於テ今回殿下ノ御来遊カ恰モ英國ノ内政困難ナル時局ニ際会セサラムコトハ吾人ノ希望シタル所ナリト雖モ之カ為メ吾人ハ日本皇室カ英國皇室代表者ニ与ヘタル鄭重ナル歡待ニ対シ吾人ノ努力ヲ欠クモノニアラサルコトハ殿下亦意ヲ安ンセラレムコトヲ望ムト述ヘ帝國政府二十年ノ間日英同盟ノ条章ヲ遵守シ其ノ責務ヲ怠ラス大戦ニ際シ連合與國ニ貢献シタル功績ヲ嘆賞シ「ヒューズ」ハ客月「若シ帝國政府ナカリセハ我濠洲ハ大戦ノ初期ニ於テ既ニ破壊ヲ免レサリシ」ト説キタリト述ヘ帝國政府カ其ノ陸軍ヲ大戦ニ参加セシムルヲ得サリシハ其ノ位置戦局ノ舞台ニ遠ク輸送ト兵站ノ至難ナリシニ抛ルモノト論シ今回殿下ノ御来遊ハ素ヨリ政治上何等意義アルニアラズ時恰モ日英同盟改訂ノ時期ニ際会シタルハ全ク偶然ノ事ニ屬スト論シ進ムテ日英

ヲ得ヘク斯クノ如キハ兩國ノ友邦タル英國ノ最モ満足トスル所ナリト論セリ

五四五 五月十日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下白伊蘭三國ヲモ御訪問ノ事ニ御詮議相成度旨珍田伯ノ意向ヲ宮内大臣ニ伝達方ノ件

第五八二号 大至急

(五月十二日接受)

珍田伯ヨリ第三二号
大至急宮内大臣ヘ左ノ通り御伝達ヲ請フ

(一)在白代理公使發外務大臣宛電報ニ依ルニ白國皇帝陛下ニ於カセラレテハ皇太子殿下白國御訪問方親シク御招待有之タル趣右ニ対シテハ已ニ一応御断リ有之タリトノ事ナルガ林大使來電第五七号ニ依ルニ在英白國大使ヨリ殿下御着英後本件ニ関シ特ニ殿下ニ拝謁シタキ旨申出タル由察スル処大使ハ右拝謁ノ際必ズ白國皇帝陛下ノ旨ヲ受ケ殿下白國御訪問方再応招請スルナルベク其ノ際際ニ時日ノ余裕ナシトノ理由ノミヲ以テ之ヲ断ルガ如キハ白國御滞在期間ノ長キト白間距離ノ近キトニ顧ミ余リニ誠意

ヲ欠キタル口実ノ如ク聞エ甚ダシキハ殊更ニ疎外ノ態度ヲ示サントスルガ如キ印象ヲ与フル無キヲ保セズ果シテ然ラバ其ノ国交上ニ及ボシ得ベキ影響ハ小官ノ容喙スベキ限リニ非ズトスルモ殿下御自身ニ於カセラレ頗ル「オークワード」ノ立場ニ立タセラルベキハ小官等ノ痛惜心能ハザル所ナリ

(二) 白国御訪問ニ対スル当初ノ計画ヲ御変更成リタル唯一ノ理由ハ伊国御訪問ヲ危険トセル事情ナル処落合大使発外務大臣宛電報第一一三号ニ依ルニ伊国最近ノ状況平穩ニシテ特ニ危険ヲ感ズベキ事情無之趣又最近伊国ヲ巡視シ来レル竹下中将ニ於テモ落合大使ト同意見ヲ有スルノミナラズ警察ノ取締モ嚴重ニ行ハレ居レリ殿下御身辺ニ対スル危険云々ノ如キ杞憂ニ過ギザルベシトノ事ニ有之就テハ爾來發生ノ右新事情ニ順応シ此際官府ニ於テ今一応從來ノ御決定ヲ再考セラレ当初「プログラム」通り白伊トモ御訪問ノ事ニ御詮議相成度切望ニ堪ヘズ

(三) 殿下白国御訪問ノ上ハ在蘭公使発外務大臣宛往電ノ次第モアリ之亦慎重御考慮ヲ要スベキカト思考ス

(四) 殿下白国御巡遊後白伊蘭御訪問相成ルトスルモ特ニ多大ニ御安着陸下 Duke of York 及^ニ Duke of Comaught 両殿下ヲ始メ首相代理(首相ハ時局ノ為手放シ兼ネタル用務アリ代理ヲ出セリ) Curzon 卿 Beatty 提督 Wilson 將軍 Lord Mayor 其ノ他文武高官ノ御出迎ヲ受ケサセラレ停車場内ニ於テ Guards of Honour 御閱兵ノ後皇太子殿下ハ当国陛下珍田伯御同乘閑院宮殿下ハ Duke of York 殿下本使同乘 Buckingham 宮ニ入ラセラレタリ

五四七 五月十一日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国皇帝陛下ノ歡迎ノ辞ニ対スル皇太子殿下ノ御答辭報告ノ件

第五八五号 (五月十三日接受)

往電第五七二号ニ関シ
殿下御挨拶左ノ通り

唯今皇帝陛下ヨリ御懇篤ナル御言葉拝承シ衷心感謝ニ堪ヘス右ハ必スヤ父陛下及日本国民一般ヲ感動セシムルナルヘシ予ハ陛下ノ御治下ニ在ル英帝国ノ東端ニ寄港シタル以来到処盛大ナル歡迎ヲ受ケタリ右歡迎ニ現ハレタル陛下ノ御好意益深キヲ加フ本日茲ニ両陛下御自身ヨリ更ニ斯ル深厚

ノ時日ヲ要スル次第ニモ非ザルノミナラズ實ハ英国御滞在期間偶然三週間トナリタル処之ニ比シ仏国滞在期間余リニ長ビク事ハ対英感情上面白カラズ去リトテ一度仏国御訪問後英国ニ引返サル事モ各般ノ事情ニ鑑ミ容易ニ実行シ難シ依テ仏国ニ相当期間御滞在後余裕ノ時日ヲ白国其他諸国ノ御訪問ニ振充ツル事ハ此ノ際ノ事情ニ鑑ミ機宜ノ処置ト存ズ

(四) 閑院宮殿下ニ於カセラレテモ上記ノ事情ニ鑑ミ且ツ皇太子殿下ニモ折角御渡歐相成リタル以上是非英仏以外ノ諸国御訪問相成ル方然ルベシトノ御意見ニシテ此ノ際当局ニ於テ本件再詮議方上申スベキ旨御沙汰アラセラレタリ右差シカカレル事情アルニ付テハ御詮議ノ結果在英大使宛大至急御回訓ヲ請フ

五四六 五月十日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下倫敦御安着ノ件

第五八四号 (五月十二日接受)

両殿下ニハ Portsmouth ニ出迎ヘラレタル当国皇太子殿下ト共二九日午後十二時三十分倫敦「ヴィクトリア」停車場

ナル歡迎ヲ受クルニ至ラントハ予ノ予期セサリシ所ニシテ適當ナル感謝ノ辞ヲ述フルニ苦ム今回歐洲見学旅行ノ第一歩ニ於テ風光明媚ナル当国ヲ訪問スルコトハ予ノ最モ欣快トスル所ニシテ日本ニ対スル英国ノ不変ノ友情及交誼ハ日本国民全体ノ深く多トスル所ナリ日英両国同盟国間ニ存スル親交關係ハ善ク時勢ノ試鍊ニ堪ヘ来リ而シテ陛下唯今ノ御言葉ノ如ク今後モ世界平和ノ維持ノ要素トシテ持續セラレンコトハ予ノ最モ満足トスル所ナリ予ノ訪問ノ時機ニ関スル陛下ノ御言葉ニ付テハ感謝ニ堪ヘス但シ予ハ茲ニ学ブ所アルヘシ蓋シ英国国民カ国歩艱難ノ時ニ当リ遂ニ勇氣ト忍耐ニ交ユルニ節制ノ精神及常識ヲ以テシ善ク之ヲ凌クハ實ニ感嘆措ク能ハサル所ニシテ予ハ現下ノ問題カ単ニ一ノ片雲ニ過キス忽チ一過却テ光風霽月ヲ觀ルニ至ランコトヲ誠意希望ス唯今陛下カ先年我国ニ御來遊アリタルコトニ付述ヘラレタル一節ハ真ニ興味ヲ以テ之ヲ拜聴シタリ又予ハ「コンノート」殿下カ屢我國ヲ御訪問アリ御満足ノ由ヲモ拝承シ欣快ニ堪ヘス予ハ又陛下カ予及閑院宮並隨員ニ対シ当国ニ於テ尚家ニ在ル如ク起居セヨトノ御言葉ニ付衷心ヨリ感謝ス之ト関連シ茲ニ申度キハ皇太子殿下カ態々「ポー

ツマス」迄予ヲ出迎ヘラレ款待至ラサルナク為ニ恰モ本国ニ在ルノ感アルコトニシテ右ニ対シテハ此ノ機会ニ於テ予ノ深厚ナル謝意ヲ表彰セントス又陛下ヨリ我父陛下ノ健康ニ付懇切ナル御言葉アリ然ルニ父ノ健康ハ幸ニ最近ニ於テ著シク快方ニ赴キ予ノ今回ノ外遊ヲ允許セラルルニ至レルヲ言明シ得ルコトヲ欣幸トス茲ニ予ハ陛下ノ予ニ与ヘラレタル款待ニ対シ感謝ノ意ヲ表スルニ当リ杯ヲ挙ケテ両陛下ノ御健康ト御幸福トヲ祈ラントス

五四八 五月十二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ白国等へノ御立寄可然旨詮議方
稟請ノ件

第五八七号 (五月十四日接受)

皇太子殿下ヲ「ポーツマス」ニ奉迎シ殿下ニ扈從シテ本使ハ昨九日倫敦ニ帰任セル次第ナルガ過日来自耳義和蘭等ヨリ殿下今回御外遊ノ機会ニ之等諸國へモ是非御立寄相成ル様トノ懇篤ナル招待ノ意ヲ申寄セ来リ早速珍田供奉長ヨリモ電稟ニ及バレタル処殿下御渡仏後多少ノ御余暇モアラセラルル儀ニ之アリ將又御立寄ノ御都合ニモ相成ルニ於テハノ折国境ヲ越エ便宜ノ場所ニテ皇帝ニ御対面アルカ又ハ海上便宜ノ地点ニ御上陸ノ上御往訪ノ順路ヲ選ミ又伊太利ニ御出ノ場合ニハ落合大使発外務大臣宛第一一三号ノ末段ニアル通り御避暑地ニ最寄りノ可然上陸地点迄御進航ノ上御訪問相成等可成御警衛ノ行届ク方法ニ依ル様致度但實際ノ路順日取等ニ付テハ種々事情モアルヘキニ依リ大体前記ノ趣旨ニテ「プログラム」御作成相成度尚蘭國ノコトモ前同様ノコトト御承知相成度以上ハ伺濟

五五〇 五月十二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下歓迎ノ辞ヲ掲ゲタル英紙論說報告
ノ件

第五九〇号 (五月十四日接受)

往電第五七八号ニ関シ

五月八日 Observer ハ殿下歓迎ノ辞ヲ掲ゲ日本ノ進歩及日英同盟ノ歴史ヲ略叙シ同盟継続ニ関シ米國ニハ協約ガ同國ノ安全ヲ脅カスモノナリトテ反对ヲ唱フル或一部ノ論者ア

國際關係上最好マシキ次第ト存ゼラルルニ付テハ右御立寄ノ御詮議ヲ切望シテ止マズ其ノ際ニハ伊太利ニモ御立寄可然本件回答ハナルベク速ニ先方ニ致スノ必要アリ宮内大臣ニ取急ギ御協議相成リ何分ノ儀折返ヘシ御返電ヲ請フ
蘭白及伊へ転電セリ

五四九 五月十二日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

御旅行ノ安全ヲ期待シ得バ皇太子殿下白伊蘭
三國御訪問ヲ実行シ可然旨回訓ノ件

第二九九号 大至急
宮内大臣ヨリ珍田伯へ左ノ通り(第二四号)

外務大臣宛貴電第三二号ノ件ニ付テハ御来示ノ通り最初御警衛上ノ關係ニ基キタルモノナルニ依リ御地ニ於テ最近ノ狀況ニ顧ミ充分御旅行ノ御安全ヲ期待シ得ルニ於テハ白伊御訪問ノコトハ御実行相成可然尤モ御予定以上御帰朝ノ日取ヲ延長スルヲ許ササル御事情ナルニ付此上範圍ノ括マラサル様御配慮相成度而シテ前記國々御訪問ノ目的ハ今回御見学旅行ノ序ニ(前記通り時日ニ限リアルヲ以テ)専ラ其ノ國皇帝ニ敬意ヲ表セラルルニアルヲ以テ仏國戰地御巡視

ルモ取ルニ足ラザル議論ナリトテ之ヲ却ケ若シ右協約ノ下ニ反米的措置ニ出デンカ英帝國ハ忽チ解体ヲ免カレザル可ク海外領土ハ何レモ敢テ米國ニ反抗シテ日本ノ利益ヲ擁護スルコトニ同意スルモノナカル可キハ勿論彼等ハ進ンデ斯カル行動ヲ拒否ス可シ同盟協約ハ元ヨリ継続セラル可キモ其文意ヲ充分正確ニシ聯盟規約ニ抵触セザル様改訂スルノ要アル可シト論ジ同盟更新ノ要旨ハ東西ノ間ニ於ケル公正且名譽アル關係ヲ維持シ人種の偏見ヲ矯正セントスルニ在リ亜細亞國民ト英帝國民間ニ相互ノ諒解ヲ強固ナラシメント欲セバ吾人ハ日本トノ親交ヲ必要トスト結ベリ
九日 Morning Post ハ殿下歓迎ノ辞ヲ掲ゲタル後過般濠洲首相ノ為シタル言説ニ言及シテ右首相ノ言明ヲ以テ獨、濠洲ノ感情ヲ表ハスノミナラズ英帝國ノ感情ヲモ表ハスモノトナシ殿下ヲ以テ同盟國ノ光輝アル代表者タルノミナラズ事態ノ著シク混沌タル現下ニ於テ王政ノ確立ト其ノ貢獻ヲ表ス確証ナリト論ゼリ

五五一 五月十二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國側ノ歓迎ニ対スル皇太子殿下ノ動靜報告

ノ件

第五九二号 (五月十四日接受)

往電第五八四号ニ関シ

東宮殿下 Buckingham 宮ニ入ラルルヤ直チニ皇后陛下ニ拝謁アリ兩陛下ト御屋餐ノ後 Prince of Wales 外大方ノ皇族ヲ訪問セラレ次デ White Hall ノ忠魂碑並ニ Westminster Abbey 内戦死者霊前ニ花輪ヲ手向ケラレタルガ觀衆大概殿下ノ御態度ヲ評シテ莊重ニシテ而モ迫ラレザルモノトナシ深ク感動シタルヲ看取セリ同夜八時十五分宮殿ニ於テ兩陛下ノ御催シニカカル御歡迎ノ宴席ニ臨マレタルガ陪席諸官ノ重ナルモノハ各国大使閣員諸僚宮内官重立チタル陸海軍軍人高級僧侶等及各夫人ナルガ日本人ハ閑院宮殿下ノ外珍田、三浦、竹下、奈良、入江、松井、山本、福田ノ面々ニ加フルニ供奉艦司令長官、參謀長、兩艦長並ニ本使、參事官夫妻陸軍武官夫妻、海軍武官夫妻、吉田書記官ヲ以テシ総員二百有余名ニ達セリ卓上陛下ヨリ歡迎ノ御演說アリ殿下ニ答ヘラレ食後供奉員ノ殘部モ來会シ別室ニ於テ主客歡語時ノ移ルヲ忘レ殿下ニハ是等多數來賓間ニ立チ交リテ其ノ主ナルモノニハ御氣輕ルニ談話ヲ交換セラレ十一時余

過ギ兩陛下ト共ニ入御アリタルマデ終始交歓ヲ絶タレザリキ

第五五二 五月十三日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

在英國白国大使ヨリ皇太子殿下ニ對シ白国御

立寄アリタキ旨言上ノ件

第五九四号 至急 (五月十五日授受)

珍田供奉長ヨリ(第三四号)

宮内大臣ヘ左ノ通り

往電第三二号ニ関シ五月九日「バッキンガム」宮殿ニ於ケル「ステート、バンケット」ノ際在英白国大使ハ皇太子殿下ニ對シ白国上下ノ日本ニ對スル好感情ヲ叙述シタル後同国皇帝陛下ヨリ是非殿下ニ同国御訪問之アリタキ旨言上スヘキ様御下命アリタルコトヲ述ヘ尚白国ハ仏国戦線ヨリ數十分ニシテ達シ得ヘク或ハ他国トノ權衡上白国御訪問ノ義御困難ナル事情アランモ白国ハ仏国戦線ヨリ極メテ短距離ノコトニテモアリ此点ニ於テ白国ハ独得ノ地位ニ在ルコトナレハ短時日ニテモ同国御訪問之アリタキ旨申上ケタルニ對シ殿下ニハ右白国皇帝ノ御好意ニ對シ頗ル感謝スルモノ

ナル旨陛下ニ言上方御依頼ノ後実ハ仏国巡遊後ノ「プロダラム」ニ付テハ目下東京ト協議中ニシテ其結果白国ヲ訪問シ得ルコトトナレハ極メテ仕合ナル旨申述ヘラレタリ在白公使ヘ転電セリ

五五三 五月十三日 在紐育熊崎總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英國御到着ノ狀況ヲ報ゼル紐育ウ

ールド記事報告ノ件

第一六二号 (五月十四日接受)

殿下御着當時四圍ノ狀況ニ関スル当地「ウールド」倫敦通信員 James Gohy (英國人ニシテ先頃迄当地本社ニ働キ居リシモノ)ノ殿下ガ非常ニ御窮屈ナル態度ヲ取ラレ又供奉員等カ余リニ儀式張レル為英國皇族始メ御接待掛ノモノハ興醒メタルガ如ク殊ニ外相「カーゾン」ノ如キハ殿下ニ對シ単ニ一片ノ敬礼ヲナシタルノミニテ其態度甚ダ冷淡ナリ云々ト報ゼリ 在英大使ヘ転電セリ

五五四 五月十三日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五五三 五五四

皇太子殿下ウィンザー宮御訪問英國兩陛下バッキンガム宮殿ニ皇太子殿下ヲ御來訪並外務大臣邸晚餐ノ件

第五九八号 (五月十五日接受)

十日東宮殿下ハ Prince of Wales ト御同列ニテ Paddington 駅ヨリ特別列車ニテ Windsor 宮ニ向ハレ同地ニテ侍從長並ニ「ウィンザー」宮關係諸官ノ歡迎ヲ受ケサセラレ

御屋餐後同宮附属ノ Saint George Chapel ニ詣テラレタルガ僧官ヨリ殿下ニ對シ Garter 勳章御所持ノ日本皇帝ノ御席次ヲ示シ説明アリ次デ東宮殿下ニハ Edward 陛下並ニ Victoria 女王ノ墳墓ニ花環ヲ供ヘラレ同宮殿内ヲ巡遊セラレタル後「ウィンザー」市ニ立寄ラレ同市ノ歡迎辭ニ對シ御答辭ヲ授ケラレ Buckingham 宮ニ御帰還アラセラレタルガ殿下御居間ニ於テ御喫茶中兩陛下突然出御アリ約一時間ニ亘リ殊ノ外ニ御打チ解ケノ御様子ニテ彼此ト御歡談遊バサレタリ同夜ハ外務大臣邸宅ニ於テ同夫妻ノ催ニ係ル歡迎会ニ Prince of Wales ト共ニ臨ツレ晚餐後舞踏ノ余興ヲ觀覽セラレタルガ当夜ハ Princess Alice 並ニ Prince Arthur ノ妹君タル Lady Randy 其他數十名ノ貴族並ニ夫

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五五五 五五六
人参列日本人側トシテハ閑院宮殿下ヲ始メ奉リ珍田伯並ニ
本使之ニ参会セリ

五五五 五月十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下倫敦御到着ノ模様ヲ各新聞報道及
ウォールド紙記事ノ捏造ニ関シ報告ノ件

第六〇二号 (五月十五日接受)

紐育発閣下宛電報第一六二号ニ関シ
殿下当地御着ノ模様ハ各新聞電報ニテ御承知ノ通りニテ当
地各新聞ノ記事モ一樣ニ殿下ノ御若年ナルニ拘ラズ鷹揚迫
ラザル態度ヲ持セラルル事ヲ称揚シ居リ當時御出迎ノ陛下
ヲ始メ他ノ皇族ニ於カセラレテモ打チ解ケタル御挨拶振ニ
御満悦ノ体ニ見受ケラレタリ又「カーゾン」云々ノ如キハ
全然無根ノ事実ニシテ當時殿下ハ陛下ノ御紹介ニテ閣員ニ
一通り握手ヲ賜リタル後陛下ノ御先導ニテ整列ノ儀仗近衛
兵御閱兵アリ終リテ直チニ馬車ニ乗御アリシ次第ニシテ緩
々御閑語ノ暇アラセラレズ該記事ノ為ニスル所アリテ事実
ヲ枉ゲタルモノナル事ハ十日夜同卿邸ノ夜宴ニ殿下御台臨
ノ際極メテ慰懃ニ御款待申上ゲタルニ見ルモ明カナリ尚殿

追フガ如キ有ラユル国際協定ニ反対スルモノナレバナリ若
シ英國ニシテ日本ヲ支援センカ米國並濠洲ハ之ヲ憤ルベク
反対ニ米國並濠洲ヲ援助センカ同様ニ日本ノ機嫌ヲ損スベ
シ太平洋上ニ於ケル覇權ノ争奪ハ英國ガ其ノ一方ニ加担ス
ルトモ到底除去スルコトヲ得ザルナリ英國ガ帝國主義争闘
ノ渦中ニ投ズルガ如キハ相互ノ争ヲシテ益々繁カラシメ之
ヲ長引カシムルモノナリ

日本ノ人口過剰ノ為ニ生ズル種々ノ經濟問題並白哲人種ノ
黄色移民禁止問題ハ何等カ調停ノ途ヲ講ゼザルヲ得ザルコ
ト論ナシ而モ世人ハ徒ラニ此ノ種ノ問題ヲ戦争ニ訴ヘテ解
決スルノ外ナシト放言スルモノアリト雖モ戦争ハ決シテ何
事ヲモ解決スルニ至ラザルコト吾人ノ既ニ辛キ経験ヲ嘗メ
テ知悉スル所ナリ唯有ラユル利害關係ヲ公平ニ討議シテ協
定ニ到達スルコト唯一ノ方策ナリ然レ共斯クノ如キ協定ハ
現在ノ国際聯盟ニ依リテ之ヲ達成スルコト能ハズ蓋シ米露
独ノ加盟セザル国際聯盟ニ公正ヲ求ムルハ之ヲ求ムルモノ
非ナレバナリ此ノ種協定ハ仮令資本主義乃至軍閥者流ニシ
テ之ヲ希望スルモノ少ナカラズトスルモ元來資本主義乃至
軍閥主義ノ下ニ於テハ到底成立スルヲ得ザルベシ鋼鐵黄金

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五五七

五七四

下「ポーツマス」御着ト同時ニ「パブリック、レッヂャー」
通信員ニ謁ヲ賜ハリ後珍田伯同人ヲ引見セラレタルガ其ノ
際ノ印象ナリトテ同人ガ發電前館員ニ内示セルモノニ依レ
バ同人ハ非常ニ好印象ヲ受ケ居ル事明カナルヲ以テ該通信
ト対照セバ「ウォールド」記事ノ捏造ナル事自ラ判明スベ
キ儀ト存ゼラル右念ノタメ
在米大使及在紐育総領事へ転電セリ

五五六 五月十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御渡英ニ関連シ日英同盟二言及
セルデイリー、ヘラルド紙論評報告ノ件

第六〇七号 (五月十五日接受)

往電第五九〇号ニ関シ
当地各新聞ハ既報ノ通り一般ニ真摯ナル態度ニテ東宮殿下
歓迎ノ辞ヲ掲ゲツツアルガ十日ノ Daily Herald ハ稍々其
ノ撰ヲ異ニシ予テ待チ構ヘタル東宮殿下ノ歓迎ハ日英協約
改訂ノ下心ヲ示スモノナリ王者ノ地位ハ今尚詩的勢力ヲ有
スト前提シタル後日英同盟ニ関シ左ノ論評ヲナセリ
吾人ハ同盟ノ更新ニ反対ス之吾人ハ勢力均衡政策ノ旧套ヲ

ノ機關ハ之ヲ發動セシムルコト易ク停止セシムルコト難シ
彼等平和ヲ口ニ高唱スルモ不知不識ノ中ニ自ラ戦争ノ渦中
ニ投ゼントスルモノナリ吾人労働者ハ眞個ノ人類聯盟ニ左
袒スルモノニシテ虚偽ノ国際聯盟ニ賛スルモノニアラズ而
シテ聯盟ヲ欲スルガ故ニ同盟ヲ嫌ハズンバアラズ英帝國々
民ハ白哲人タルト黄色人タルト問ハズ世界同胞ト友誼ヲ
厚ウセムコトヲ希望スルモノニシテ而カモ其ノ最モ愛好ス
ル所ノモノハ平和ニ外ナラズ
之ヲ要スルニ英國ガ日米兩國ノ一方ニ荷担スルハ結局戦争
ヲ近ゾカシムルモノト云ハザルベカラズ

五五七 五月十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

倫敦市会主催ノ皇太子殿下歓迎及英國皇太子
御招待ノ模様報告ノ件

第六〇八号 (五月十五日接受)

十一日東宮殿下ニハ Prince of Wales 御同列閑院宮殿下
ヲ始メ奉リ供奉員ヲ從ヘ公式函簿ニテ宮殿ヨリ Strand
Cheapsideノ御途筋浴道警官堵列ノ間ヲ民間ノ歓迎ヲ受ケ
ツツ進マレ正午過 Guildhallニ臨御倫敦市会ハ旧慣ニ依リ

五七五

殿下ノ御面前ニ於テ歓迎ノ動議ヲ決議シ Lord Mayor ハ倫敦市ヲ代表シテ右歓迎ノ辞ヲ金製ノ箱ニ納メテ殿下ニ捧呈シタリ殿下御答辞ハ万場ノ喝采ヲ呼ビ会衆中御態度ヲ嘆賞スルモノ妙カラザリキ次デ市長並其ノ夫人ノ招待ニ基キ Mansion House ニテ三百ノ來賓ト共ニ昼餐ヲ喫セラレ日英兩陛下ノ御健康乾盃アリ尚市長ヨリ簡單ニ歓迎ヲ叙シ殿下ニ御答札遊バサレタルガ Prince of Wales ノ外 York, Connaught 兩殿下參列セラル倫敦ノ警戒ハ前々日御來着ノ際ト等シク戦後始メテ見ル所ノ評アリ殿下ニハ午後御帰還後宮殿ニ於テ倫敦府会代表者ヨリ歓迎ノ辞ヲ受ケサセラレ之ニ対シ御答辞アリタリ

同夜ハ Prince of Wales ノ御招待ニ依リ閑院宮殿下ト共ニ供奉員ヲ從ヘラン St. James Palace ノ宴会ニ臨マレ打寛ギ御歡語ノ後 Buckingham Palace ニ御帰殿遊バサレタルガ陪賓ハ Duke of Connaught ノ外多数ノ貴族文武大官等七十余名ナリキ

五五八 五月十四日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下繪画館英國議會等御見學ノ件

殿下ニハ十三日午前御館ニ於テ日本協會奉迎人当地代表ヲ引見セラレタル後十一時各供奉員ヲ從ヘ博物館ニ赴カレ圖書室日本繪画室其ノ他御巡視ノ上十二時半英蘭銀行ニ向ハレ總裁ノ御案内ニテ正貨貯藏室等御巡覽後同所ニテ總裁以下重役ト御昼餐ヲ召サレタリ

夫レヨリ群集歡呼ノ内ニ倫敦塔ニ臨マレ寶石ノ間以下各室隈ナク御觀覽アリテ深ク諸武器類ニ御興味ヲ感ゼラレタルヤニ拝察シタリ殿下ニハ此処ヨリ海軍小蒸氣ニテ「テームス」ヲ遡リ Westminster 埠頭ニ御上陸後帰還遊バサレタリ同夜八時半殿下ノ御催ニテ大使館ニ Prince of Wales ヲ主賓トシテ Lloyd George, Balfour, Lord Birkenhead, Chamberlain 及宮内大臣並夫人ヲ御招待アリ食後之等ノ諸官ヲ洩レナク御接待アリタルガ午後十時半ヨリ本使ノ主催ニ係ル Reception ニ於テ英皇儲殿下ト共ニ臨マレ殿下ハ參列諸員ノ重ナルモノニ又 Prince of Wales ハ日本人大部分ニ対シ夫レ々々握手御会釈ヲ賜ハリタリ右「レセプション」ハ在英各國大使支那公使ノ外朝野諸方面ノ(脱)五百名ノ來会者アリ和氣藪々タル会ナリシハ本使ノ光榮トスル所ニシテ夜半ニ至リ漸ク殿下御還啓仰出サレタリ

第六〇九号 (五月十六日接受)

五月十二日殿下ニハ早朝兩陛下ノ御見送ヲ受ケラレ宮殿ヨリ「チェスターフィールド、ハウス」ニ移ラレタリ正午大使館員帝國武官其他ニ謁ヲ賜リ御昼餐後閑院宮殿下ヲ初メ奉リ供奉員ヲ從ヘラレ National Gallery ニ向ハレ館長ノ出迎ヲ受ケサセラレ各室ヲ御巡覽ノ上英、仏、蘭、西等各派ノ繪画ヲ御觀覽アリ種々御下問アリタルガ夫ヨリ議會ニ赴カレ先ヅ下院議事御聴取ノ後議長及同夫人ト共ニ御喫茶ノ上更ニ上院ニ臨マレ「カーゾン」卿ノ歓迎ヲ受ケサセラレ偶洪牙利条約法其他ノ諸法案勅許通告ノ古風ナル手続ヲ變ハセラレ午後五時半帰館アリタリ

五五九 五月十四日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下博物館英蘭銀行等御見學殿下主催
ノ大使館ニ於ケル英國皇太子諸大官御招宴並
林大使主催接見宴ニ関シ報告ノ件
(五月十六日接受)

第六一四号

五六〇 五月十四日 在瑞西国有吉公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御來遊ニ関スル新聞紙記事ニ付

報告ノ件

第四四号 (五月十六日接受)

Zuricher Zeitung ハ五月十三日ノ紙上ニ倫敦通信員ノ報道トシテ皇太子殿下ノ御來遊ニ関シ大要左ノ通り記述セリ日英同盟改訂問題解決セラレザル迄ハ今回ノ御訪問ハ一種ノ感アルヲ免カレ得ザル可ク是故ニ少シク奇異ノ感アルモ日本政府ハ自カラ進ンデ今回ノ御訪問ガ何等政治上ノ意味ヲ有セザル旨ヲ發表セリ該同盟ノ改訂ハ之ヲ國際聯盟規約ニ適合セシムルヲ要シ又濠洲及ビ「ニュー、ジラランド」ノ首相ガ留保ヲ為シタルモ兎ニ角改訂ニ賛意ヲ表シタルニ依リ其望大ナルニ至レリ但シ加奈陀南亞弗利加殊ニ米國ニ対シ氣兼ス可キ種々ノ事情アルガ故ニ閑院宮殿下ノ御同行及ビ珍田伯ノ隨從アルニセヨ政治問題ノ討議ハ細心ノ注意ヲ以テ避ケラルベシト信ゼラル

尚 Bund 紙ハ同日ノ紙上ニ皇太子殿下ノ御着英ヲ機トシ日英同盟ノ改訂ニ関シ一般的批評ヲ試ミタリ

在英大使へ転電セリ

五六一 五月十四日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛親電及之ニ対ス

ル御答電通報ノ件

附属書一 五月十日英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛親電写
二 右ニ対スル御答電写

宮発第二四九号

皇太子殿下今般英国ヲ御訪問アラセラレタルニ際シ英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下へ寄セラレタル親電並之ニ対スル御答電別紙写ノ通りニ候条此段及御通知候也

大正十年五月十四日

宮内大臣子爵 牧野 伸顕(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へ通知方可然御取計相成度此段及御依頼候也

(附属書一)

五月十日英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛親電写
皇太子殿下御訪英ニ関スル件

陛下ハ殿下最初ノ外遊トシテ殿下ノ我国ヲ訪問セララルルコトヲ聴許シ以テ朕ニ著大ノ光荣ヲ附与セラレタリ而シテ殿下ノ当地ニ来航セララルルニ当リ我国ノ外領各地ヲ訪問セラレタルハ朕ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ朕ハ諸事ニ意ヲ注ギ殿下ノ当地滞留ヨシテ能ク愉快ナラシメンコトヲ努力トシテ朕ハ殿下今回ノ訪問ニ依リテ幸ニ貴我兩國ヲ結合スル友誼ノ連鎖益々鞏固ヲ見ルニ至ランコトヲ期待ス

シヨージ

日本国皇帝陛下

(附属書1)

英国皇帝陛下ノ親電ニ対スル御答電写

His Imperial Majesty The Emperor

to

His Majesty The King George.

Nothing could be more welcome to the Empress and Myself than the telegram in which Your Majesty tells me in such kind and cordial terms of the satisfaction with which the visit to the British Dominions of My dear Son is regarded by Your

The Emperor of Japan,

Tokio.

I wish to tell Your Imperial Majesty with what pleasure the Queen and I and My people welcomed Your dear Son the Crown Prince on his arrival in London yesterday. You have shown a very signal honour in allowing him to make his visit to this country the first in his foreign tour and I am glad that he has been able in journeying here to call at some of the various outposts of My Empire. I know that everything will be done to make his stay amongst Us as enjoyable as possible and I trust that this visit may strengthen the ties of friendship which so happily unite Our two countries.

GEORGE R. I.

(右和訳文)

英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

朕及皇后並我國民ハ陛下ノ親愛セララルル皇太子ヲ如何ニ歡喜シテ昨日倫敦ニ迎ヘタルカハ陛下ニ報センヲ欲ス

Majesty, by Her Majesty the Queen, and by the British people. I am indeed appreciative of Your message and in common with My whole people am much touched by the true friendship evidenced in the warmth as well as he brilliance of he reception which the Crown Prince has met with throughout his tour in all parts of Your Majesty's Empire, culminating in the deeply stirring and gratifying kindness with which he has been received in Your Capital. The forethought which made it possible for My Son to be welcomed at Portsmouth by His Royal Highness the Prince of Wales was a cause of particular pleasure to Us, and I am certain that Your Majesty's aspiration will be fulfilled, and that this visit will do much to draw our two nations still closer together in that happy friendship which rests on personal knowledge and goodwill.

YOSHIMITO

(左訳文)

天皇陛下ヨリ英国皇帝陛下宛御答電ヲ

我親愛スル皇子カ貴国ノ版図ヲ訪問シタルニ対シ陛下及皇后陛下並英国国民ニ依リテ懐抱セラルル歎喜ヲ表スヘキ陛下ノ懇篤慰懃ナル電報ハ朕及皇后ノ無上ナル欣快トスル所ナリ

陛下ノ德音ハ朕深く之ヲ尊重ス我皇太子カ貴国ノ首都ニ於テ受ケタル優遇款待ハ其極ニ達シ各地ヲ巡遊スルニ当リ到ル処ニ於テ我皇太子ニ与ヘラレタル迎接ノ熱誠及善美ニ依リテ証セラレタル至誠ノ友情ハ我国民ト共ニ朕ノ感激ニ堪ヘサル所トス

我皇太子カ「ポーツマス」ニ於テ貴国皇太子殿下ノ迎接ヲ辱ウスルコトヲ得タル陛下ノ高慮ハ朕及皇后ヲシテ特ニ愉快ヲ感セシムルノ因ヲ為シタリ

朕ハ陛下ノ期待セラルル所必ス実現スヘキコトヲ信シ且ツ我皇子ノ訪問ハ相互ノ諒知及親善ニ依リテ生スル友誼ノ裡ニ貴我両国ヲシテ一層輯睦ナラシムルニ裨益スル所多カルヘキコトヲ疑ハス

御名

英国皇帝陛下

五六二 五月十五日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御渡英ニ関スル華府新聞紙ノ報

道報告ノ件

第二七八号 (五月十六日接受)

皇太子殿下英国御訪問ニ関シ当地方新聞ハ連合通信又ハ各新聞特派員通信トシテ英国ニ於ケル殿下歓迎ノ模様ヲ記述シ殿下御渡英ニ関連シ日英同盟更新ヲ論ゼル「テレグラフ」「オブザーバー」紙等ノ社説ヲ引用セル電報ヲ掲載セル外今日迄御渡英ニ政治的意義ヲ附シタル記事論説甚ダ少ナキ処「パブリック、レジャー」ハ本月九日第一面ニ殿下ノ御写真ヲ載セ「ポーツマス」香取艦上ニ於テ引見ヲ賜ハリタル同紙倫敦特派員 Ackerman ノ電報ヲ掲載セル処殿下ヨリ米國新聞社員ヲ引見セラレタル事実並殿下ノ御挙止ハ極メテ良好ナル印象ヲ与ヘタルモノノ如ク深く感激セル語調ヲ以テ右御引見ノ模様ヲ詳報セリ
在英、仏大使へ転電セリ

五六三 五月十五日 在紐育熊崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御渡英ニ関スル紐育新聞社説要領
報告ノ件

第一七〇号 (五月十六日接受)

東宮御渡英ニ関スル五月十三日新聞社説要領左ノ通り

Sun

吾人ハ日本皇太子ノ御渡英ハ何等格別ノ意味ナシト云フ英國側ノ説ヲ信ズ日英同盟ハ多年存在シ何等米國ヲ目的トスルモノニアラズ裕仁殿下ハ自ラ日本国民ノ友誼ト眞助ヲ英国民ニ致スノ使節ト称セラル此ノ使節ハ両国民親善ヲ増進スベク之如何ナル国民間ニモ望マシキコトナリ日英同盟ハ濠洲民ニ向ッテ日本移民ニ対スル保障ヲ与ヘタリ日英間ニ存スル斯クノ如キ相互ノ容認ト信頼ニシテ日米間ニ保持セラレバ日米間ノ難題モ解決ニ難カラズ云々

Public Ledger

世界全国平和ノ上ヨリ日本皇太子ノ米國御訪問ガ延期セラレタルハ遺憾ノ至ナリ何トナレバ今回ノ御旅行ニ於テ受ケサセラレタル御印象ハ必ズ御親政ノ折ニ影響スル所アルベク又上院ハ王族ニ対シ自然ノ好奇心ヲ有シ英国皇太子ヲ歓迎シテ大イニ同殿下ヲ敬愛スルコトナレリ蓋シ我賓客タ

リシ人ニ対シ好感ヲ持ツハ吾人ノ習慣本能ナリ兎ニ角殿下親シク我米國ノ広サ大サ資源等潜在セル国力ヲ見ラルルヲ得バ日本ノ将来ノ治者タル殿下ニ裨益スル所大ナリシナラシ
在英大使電報在米大使郵報

五六四 五月十五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オックスフォードニ於ケル皇太子殿下ノ御動

静報告ノ件

第六一九号 (五月十七日接受)

十四日殿下ニハ閑院宮殿下ヲ初メ奉リ各供奉員ヲ従ヘラレ午前九時十五分御出門 Paddington 駅ヨリ特別列車ニテ Oxford ニ向ハセラレ 大学副総長ノ出迎ヲ受ケサセラレ図書室並各分科大学御巡覽ノ後午后一時 Rector's House ニ於テ御昼餐ヲ召サレ同大学在学中ノ邦人学生十四名ノ代表者ニ謁ヲ賜ヒ書冊ノ献上ヲ受ケサセラレタリ次デ短艇競争ヲ御覽アリ四時四十分「オックスフォード」発六時二十分御帰館遊ハサレ又同夜 Daly's Theatre ニテ Musical Comedy Sibyl 御覽アリ予定ノ「プログラム」ナリシタメ場内觀衆

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五六五 五六六
三分ノ一ハ日本人ナリキ

五六五 五月十六日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下御渡英ニ関スル紐育ウォールド紙
記事大要報告ノ件

公第一八六号 (六月二十日接受)

大正十年五月十六日
在米

特命全權大使男爵 幣原 喜重郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

皇太子殿下御渡英ニ関スル新聞記事報告ノ件

皇太子殿下御渡英ニ関シ紐育「ウォールド」ハ五月八日殿
下ノ御写真ヲ掲ケ同月七日倫敦發特電トシテ大要左ノ如キ
記事ヲ載セタリ

日英同盟更新問題ハ皇太子殿下御到着ト共ニ一般衆目ヲ集
ムルニ至ルヘシ殿下ノ英國御訪問ハ其名目如何ニ拘ラス日
英同盟ニ関シ人氣ヲ集ムルノ目的ヲ以テ時機ヲ選定シタル
モノナリ六月開催セラルヘキ帝國會議ノ主眼ハ英帝國ノ間
ニ各領地ノ主張ニ適ヒ且米國ヲ敵視セサル諒解ヲ求ムルニ

茶時過グル迄庭園逍遙總理ト欲談ヲ交ヘラレタ刻御帰京
アリタリ

五六七 五月十七日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

在英國蘭國公使珍田伯ヲ來訪シテ皇太子殿下

蘭國御訪問ノ儀ニ付懇談シタル件

第六二二号 (五月十八日接受)

珍田伯ヨリ宮内大臣ヘ左ノ通り

五月十六日在英國蘭國公使來訪蘭國皇室及政府ニ於テハ殿下
蘭國御訪問ノ儀曩ニ在蘭本邦公使ヨリ内々聞込ミタル次第
モアリ必ズ御來訪ノ事ト信ジ喜ビ居タル処最近ニ至リ右御
取止メニ相成リタルヤノ趣伝聞シ頗ル失望シ居ル次第ナリ
実ハ輓近日蘭國交著シク敦厚ヲ加ヘ來レル今日殿下御來訪
ハ益々兩國親交關係ヲ促進スベキニ反シ此ノ際愈々御沙汰
止ミニ相成ルガ如キ場合殊ニ隣接白國御訪問サルニ拘ラ
ズ蘭國ヲ除外セラルルガ如キ場合ニ於テハ自然反對ノ結果
ヲ生ズルニ至ルベク兩國ノ親交ニ鑑ミ甚ダ遺憾ニ堪ヘザル
儀ニ付是非殿下蘭國御訪問ノ事ニ尽力有之タキ旨縷々申陳
ベタリ同公使ハ本官当地在任時代ヨリ親交ノ間柄ニモアリ

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五六七

五八二

在リ加奈陀ハ今日迄ノトコロ日英同盟更新ノ希望ニ乏シク
濠洲及「ニュー、ジラランド」ハ日本ノ移民ニ留保ヲ附シ
テ改訂ニ賛成ス又「ヤップ」問題ハ結局日英同盟更新ノ論
争ヲ左右スヘキヤモ知レス從テ英國ハ同盟更新ノ論議ニ先
チ日本ニ対シ「ヤップ」ニ於ケル同國ノ利權ヲ規定ノ字句
ヨリ寧ロ其ノ精神ニ從ヒ解釈シ以テ同島ニ關スル紛争ヲ解
決スヘキ必要アルヲ力説スヘキヤモ知レスト伝ヘラル
右新聞記事切抜相添此段及御報告候也

註 切抜省略

五六六 五月十七日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

皇太子殿下少年團ヲ御檢閲ノ件

第六二〇号 (五月十八日接受)

十五日午前殿下ニハ閑院宮殿下ヲ始メ奉リ各供奉員ヲ從ヘ
Crenford ニ赴カレ同地ニテ少年義勇團長以下各將校ノ出
迎ヲ受ケサセラレ正装セル同團各部隊ノ御檢閲アリタル後
各種ノ競技ヲ御覽遊バサレ簡單ナル御挨拶アリ次第義勇隊
本部ニ御立寄りノ上午後一時總理大臣別荘 Chequers ニ御
到着同所ニテ首相家族其他二三閣員本使等ト昼餐セラレ喫

頗ル淡白ニ所見ヲ披瀝シタルニ付本官ニ於テモ打チ解ケタ
ル態度ヲ以テ之ヲ迎ヘ殿下今般ノ外遊ニ關シテハ一時歐洲
諸國御歴訪ノ事ニ内々決定セルモ其後國內各般ノ事情ニ依
リ本邦御出發期日延期シ然カモ一方御來朝ノ期日ハ依然九
月中ト確定シ居ルヲ以テ御滯遊期間尠カラズ短縮シタル結
果不得巳今回ノ歐洲御巡遊ハ之ヲ英仏二國ニ局限セラルル
事ト相成タル次第ナルガ最近接受ノ内訓ニ依レバ我が政府
ニ於テハ爾來熟慮ノ結果当方事情ノ許ス限リ出來得ルダケ
時日ノ遺練リヲ行ヒ英仏以外ノ諸國(蘭國ヲモ含ム)ヲ御
訪問相成ルベキ事ニ決定シタル事情ヲ内話シタル処同公使
ハ大ニ安心ノ体ニテ右ノ次第早速非公式ニ政府ニ内報スベ
ク女皇陛下始メ國民拳ゲテ必ズ殿下ヲ御款待申上グベキ旨
申述ベタルニ付實ハ前述ノ通り短時日ヲ遺練リシテ蘭國御
訪問ノ事ニ決シタルハ専ラ陛下ニ敬意ヲ表セムトスルノ誠
意ニ出デタル次第ナルヲ以テ御滯在期間ハ自然短時日タラ
ザルベカラザル事情ハ充分御諒解相成リタキ旨ヲ陳ベ又本
邦一部人士ノ間ニハ殿下今回ノ御外遊ニ際シ懸念シ居ル向モ有
リ來ル事アルベキ御身辺ノ危險ニ關シ懸念シ居ル向モ有之
次第ナルガ蘭國御訪問ノ際斯カル懸念無之カルベキヤト尋

五八三

ネタル処蘭国内ニハ何等朝鮮人アルヲ聞カズ又御身辺ノ警衛ニ関シテハ政府ニ於テ最善ヲ尽スベキハ証言スルニ躊躇セザル所ナリト答ヘ尚蘭白蘭ノ關係ニ言及シ兩國ノ間ニ區別ヲ立ツル不利ヲ切言シタリ將又御訪問ノ期日ニ関シ同國皇室ノ御都合ニ関スル推問ニ對シテハ何時ニテモ歡迎スベキ旨答ヘタルニ付林大使發在自公使宛(同電第六二四号トシテ転電ス)往電第一二三号ノ次第アリ旁々六月二十日前後ナレバ当方ノ好都合ナルベキ旨申述ベ置キタリ要スルニ在英大使發外務大臣宛第六二五号ノ通り殿下白蘭御訪問ニ決シタル以上蘭國ヲ除外スル事ハ到底出来難キノミナラズ蘭國ニ於ケル事情ニ照ラシ危險ヲ予期スベキ理由ヲ認メザルヲ以テ前述ノ通り応答シタル次第ナリ就テハ外務大臣ヨリ在蘭公使ニ對シ必要ノ訓令ヲ發スル様御取計相成リタシ尚時日切迫ノ場合ニ付別電ノ通り(英國發蘭國宛電報第六二号)本官ヨリ直接田付公使ニ電報シ置キタルニ付右併セテ御含ミヲ請フ

在白公使宛電報第一二三号ト共ニ在伊伊各大使及在蘭白各公使ニ転電セリ

註 別電在英國大使發在蘭國公使宛電報第六二号省略

場ニ臨ムル Duke of York モ同所ニ先着殿下ヲ御迎ヘ斯クテ殿下ニハ格納庫並ニ作業場等御覽アリ御昼餐後爆彈投下其他各種ノ飛行競技ヲ觀覽遊バサレタリ次デ殿下ニハ Greenwich 天文台ニ向ハセラレ各種ノ設備機械等限無ク御觀覽ノ後同所海軍大学医学校其他ヲ御巡視ノ上同大学ニテ晚餐ヲ召サレ十時半御帰還アリタリ

五七〇 五月十八日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ伊國御訪問ノ期日及巡路等ニ関スル件

第六三五号 (五月二十日接受)

在英大使發在伊大使宛電報第三〇一号

珍田伯ヨリ

外務大臣發林大使宛第二九九号ニ関シ同大使發大臣宛第六二三号及第六三六号ニテ已ニ御承知相成ルベキ通り殿下白蘭御訪問ノ事ニ内定セル処御旅行ノ都合上伊國御訪問ハ之ヲ最後トシ目下ノ処七月二十日頃御訪問ノ事ニセラレタキ積リナルガ同國御訪問ニ際シテハ其ノ帝都タル羅馬ハ是非御目ニ懸ケタク又殿下ニハ同國皇帝御訪問ト併セテ法王

五六八 五月十七日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下白蘭御訪問決定ヲ在英國白蘭大使

ニ通報シタル件

第六二五号 (五月十八日接受)

貴電第二九九号ニ関シ

在当地白蘭大使ヨリ殿下白蘭御訪問ノ件ニ関シ殿下ニ拜謁ヲ求メ来レルモ殿下ニハ昨今頗ル御多忙ニシテ右拜謁ニ適当ノ時日無之タメ五月十五日日本使命ヲ受ケ同大使往訪愈々白蘭御訪問ノ事ニ決定セル旨通報シタリ同大使ハ大イニ満足シ白耳義皇室ニ於カセラレテハ六月十日ヨリ六月十五日迄ニ白蘭御訪問相成リ度キ旨申出デタリ 在伊伊各大使及在蘭白各公使ニ転電セリ

五六九 五月十八日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ケンリー飛行場及天文台等御見學

ノ件

第六三四号 (五月十九日接受)

十六日午前殿下ニハ閑院宮殿下御同列「ケンリー」ノ飛行

庁ヲモ御訪問相成リタキ思召ニ付皇帝御訪問ノタメ不得已北方ニ赴カルトスルモ何ノ道羅馬ニハ御出デ相成ラザルベカラズ特ニ閣下發大臣宛第一一三号第二項ニ依ルモ南部ノ旅行北方ヨリモ安全ナルヤニ察セラレ旁御安寧ノ見地ヨリ「ネーブルス」ニ御上陸直チニ羅馬ニ赴カセラレ同地ニ於テ伊國皇帝御訪問ノ事ニ御取計ヒ得レバ極メテ好都合ト存ズル処前記期日ニ於テ同皇帝ニ羅馬ニ御出御方相願ヒ得ベキヤ実ハ殿下ニハ御巡遊ノ範圍拡大セルト本邦ニ御帰着相成ルベキ時期確定シ居ル關係上伊國御滞在期間頗ル短時日タラザルベカラザル次第ニモ有之ナルタケ前記ノ通り御取計相願度キ次第ナルモ万一困難ニシテ北方御避暑地ニ御往訪ノ必要アリトセバ如何ナル巡路ニ依リ何日頃御往訪方然ルベキヤ其筋ヘ御問合セノ上御回電ヲ請フ 尚申ス迄モ無キ事ナガラ伊國御旅行中御警衛方ニ関シテハ充分ノ手配ヲ尽シ遺算無之様当路ニ御依頼置キヲ請フ 在仏大使ヘ転電セリ

五七一 五月十八日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ白蘭伊各國御訪問決定ニ付右各

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五七二 五七三

五八六

国皇室ノ都合問合方外務大臣ヨリ関係大公文

ニ訓令スル様珍田伯ヨリ宮相ニ依頼ノ件

第六三六号

(五月二十日接受)

珍田伯ヨリ宮内大臣へ

外務大臣発在英大使宛電報第二九九号ニ関シ考慮ノ結果愈々白、蘭、伊国ヲモ御訪問ノ事ニ取計ラフ事ニ決定シタル処右諸国御訪問ノ時期ニ関シテハ時日切迫ノ折柄ニモアリ林大使発在在、蘭公使及在伊大使宛電報(白へハ林大使発電報第一二六号蘭へハ同大使発第六二号伊国へハ同大使発第三〇一号)ノ通り本官ヨリ直接右各国駐劄大使、公使ヲ經テ各皇室ノ都合内々何方依頼シ置キタルモ公然右都合問合セ方外務大臣ヨリ關係大使、公使ニ対シ必要ナル訓令ヲ發セラルル様然ルベク御取計ヲ請フ
在伊蘭白各大公使ニ転電セリ

五七二 五月十八日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英國陸軍ノ諸施設ヲ御見学並林大使主催晚餐會ニ関スル件

第六四一号

(五月十九日接受)

タリ

五七四 五月十九日 珍田供奉長ヨリ
牧野宮内大臣宛(電報)

皇太子殿下スコットランド地方へ御旅行ノ件

(五月二十三日宮内省ヨリ接受)

皇太子殿下昨日倫敦御發蘇格蘭地方御旅行ノ途ニ上ラセル閑院宮、珍田、林、三浦、竹下、奈良、山本、戸田、沢田、扈從ス午前九時「キングススクロース」停車場御發特別列車ニテ「ケンブリッジ」御著各「カレッヂ」御覽H. R. [Tanaka]ノ講話「皇室ト臣民トノ關係」ヲ聞食サレ副總理主催ノ午餐會ニ御臨席後皇太子殿下同大学名誉博士(J. I. D.)ヲ受ケサセラル次デ「ネースリー」ニ赴カセラレ寺院御覽夕刻「トリニティー」「カレッヂ」ニ於テ校長等ト晚餐ヲ俱ニセラレ午後十一時「ケンブリッジ」御發今朝午前九時半「エディンバラ」御安著兩殿下御機嫌益麗ハシ今後倫敦御帰着マテ御動靜電報ハ総テ外務大臣へ転報ヲ請フ

五七五 五月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國上下ノ皇太子殿下欲待振ニ対スル謝意表

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五七四 五七五 五七六

十七日午前殿下ニハ閑院宮殿下ヲ初メ奉り供奉員ヲ從ヘラレ郊外Aldershotノ陸軍衛戍司令部ニテ長官ノ御出迎ヲ受ケサセラレ軍隊御檢閱諸種ノ作業訓練並ニ兵器廠等ヲ御巡覽アリ御昼餐後Sandhurstノ陸軍士官學校次テCamberleyノ陸軍大学御歴訪ノ後夕刻御帰還遊ハサル同夜八時半Clarendon Hotelニ於テ本使ノ催シニ係ル晚餐會ニ臨マレタルカ来會者ハ外務内務大藏陸軍商工部ノ諸大臣參謀總長Wilson 元帥 Methuen 元帥ヲ初メ文武官並ニ財界教育界有力者等主客合セテ九十余名ニシテ來客中殿下ヨリ親シク御言葉ヲ賜ハレル者尠ナカラズ十一時還啓在ラセラル

五七三 五月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ケンブリッジ大学御見学ノ件

第六四五号

(五月二十一日接受)

十八日午前殿下ニハ閑院宮殿下並供奉員ヲ從ヘラレKings-ton 駅ヨリ特別列車ニ依リ「スコットランド」ヘ向ケ御出發ノ途次先ヅCambridgeニ立寄ラレ各分科大学御參觀皇室ト人民トノ關係ニ付テノ講議ヲ御聴取ノ上J. I. Dノ学位ヲ受ケサセラレ同夜「エディンバラ」ニ向ハセラレ

明ヲ本邦各紙ニ執筆方取計ハレ度旨稟申ノ件

第六四八号 至急 (五月二十一日接受)

皇室ヲ初メ英國上下ノ殿下御款待振ハ洵ニ遺憾ナキ次第ナリト拝察スル処右ニ対シテハ一般日本國民トシテ亦相当感謝ノ意ヲ表シ居ルコトヲ英國ハ勿論中外ニ反響セシムルハ當ニ兩國國交ノ為ノミナラス國民トシテノ品位ヲ維持スル上ニ於テ極メテ必要且ツ適切ノ施措ナルヤニ思料セラルルニ付テハ相成ルヘクハ殿下三十日御退英ノ当日当地新聞ニ到達スルノ余裕ヲ取り都下各新聞ヲシテ一斉ニ右ニ関シ筆ヲ執ラシメ其ノ梗概ヲ広ク各國ニ通信セシムルコトヲ得ハ頗ル好都合ト存ス(要領當館へモ電報ヲ請フ)右可然御取計ヲ請フ
殿下打解ケテノ英國人トノ御對話振ト御聰明ヲ具体化シ且ツ修飾ナキ御態度トハ特ニ人心ヲ収メラレ新聞雜誌等拳ツテ御徳ヲ稱シ日英親交ヲ愈深カラシメタル事実ハ特ニ本邦操觚者ニ指摘シ置カレタシ

五七六 五月二十日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ白国御訪問ノ日取ニ関スル件

五八七

第六五一号

(五月二十二日接受)

殿下白国御訪問ニ関シ在英白国大使ヨリ白国皇帝六月十五日ヨリ御旅行ノ答ニ付殿下ノ御訪問ハ六月十日乃至十五日ナラバ好都合ナル旨申出アリ詮議ノ結果殿下ニハ六月十日比律悉到着ノ御思召ナル旨同大使へ回答セリ
在仏白蘭へ転電セリ

五七七 五月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在本邦白国公使宛

白国皇帝陛下ヨリ我皇太子殿下ノ同国訪問方

御招待ニ対シ回答ノ件

人普通第二七号

以書簡致啓上候陳者我皇太子殿下御旅行ノ途次貴国御訪問ノ義貴国皇帝陛下ニ於テ御希望セラルル旨天皇陛下へ転達方貴国外務大臣ヨリ電訓アリタル趣ヲ以テ客月二十七日附第27625号書簡ヲ以テ貴国臨時代理公使貴下ヨリ御申越ノ趣致敬承候天皇陛下ニ於テハ貴国皇帝陛下ノ御厚志ヲ感謝被遊今般皇太子殿下ニ対シ貴国御訪問ノ義御沙汰アラセラレ候ニ付右貴国政府へ申入方在白安達公使へ電訓候条右様御承知相成度此段謝意申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向

第一五五号

(五月二十五日接受)

本使發在英大使宛電報第六四号

貴電第三〇一号ニ関シ

珍田伯へ左ノ通り

二十一日外務大臣ニ面会シ七月二十日頃殿下御来伊ノ思召シアラセラルルコトヲ告ケ伊国皇帝御都合方依頼シタルカ大臣ハ殿下最初ノ御外遊ニ際シ当国御来遊ノコトハ或ハ御見合トナルヤモ知レストノ話モ聞キ居リタルカ今回愈々御来遊トナリタルコトハ伊国ノ皇室ニ於テ御満悦御歡迎アラセラルヘキハ勿論伊国一般ニ甚タ喜フ所ナルハ必然ナリ陛下ハ目下「サルジニヤ」島行幸ノ為メ御不在中ナレトモ早速電報ニテ御都合御伺ヒスヘシ

可成ハ羅馬ニテ御会见ノコトニ致ス様考慮スヘキカ例年ノ例ニ依リ七月二十日頃ハ北方「ピザ」附近ノ離宮へ行幸アラセラルル次第ナリ若シ左様ノコトトモナラハ同地最寄ノ港へ御上陸ノコトトセラレナハ如何猶ホ宮中ノ御都合確メタル後更ニ詳細打合せヲ為シタシ殿下御来伊ニ関シテハ充分御旅情ヲ慰メ奉ル様努ムヘク特ニ御安全ノ保護ニ関シテハ充分ノ手段ヲ尽スヘキニ付御承知アリタシト答ヘタリ

テ敬意ヲ表シ候 敬具

五七八 五月二十一日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ蘭国御訪問ニ関シ大至急回訓方

稟請ノ件

第三九号 (五月二十二日接受)

在英大使並ニ珍田伯ヨリ累次ノ電報ニ依リ御承知相成ルベキノ通り皇太子殿下蘭国御訪問ノ儀ハ最早動シ難キ状勢ト相成本使又珍田伯ノ電照ニ基ツキ目下夫々蘭国当局ト内交渉ヲ重ネツツアル次第ナルガ本件ニ関シ閣下ノ御訓令ナキ限り公然ノ通知ヲ差控へ居ル処殿下御滞蘭日程作成上其他ニ関シ本使ヨリ公然ノ通知ナキ限り何かト決定上支障ヲ受ク且ツ時日漸次切迫ノ折柄本件大至急何分ノ御回訓アリタシ
本電珍田伯へ転電済

五七九 五月二十一日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊国皇帝ノ御都合等ニ関シ伊国外務大臣ト面

談ノ次第報告ノ件

羅馬法王(脱)皇室ノコト決定ノ後可然筋ヨリ法王庁ト打合セラレタシ尤モ予メ伊国政府へモ通告シ置クコト可然猶ホ二十一日「リオンジ」大僧正来訪ノ筋殿下御来伊ノ有無問合セ居リタルニ付多分七月二十日頃御来伊アルヘキ模様ナリト語り置キタリ
大臣へ転電ス

五八〇 五月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在本邦伊国大使宛

皇太子殿下伊国御訪問ニ付伊国皇室ノ御都合

問合方在伊国大使ニ訓電セル旨通報ノ件

人普通第二二号

以書翰致啓上候陳者天皇陛下ヨリ目下歐洲御見学中ノ皇太子殿下ニ対シ今般貴国皇室御訪問ノ儀御沙汰アラセラレ候ニ付貴国皇室ノ御都合問合方在伊落合大使へ電訓候条右様御承知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

五八一 五月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在本邦蘭国公使宛

皇太子殿下蘭国御訪問ノ儀ニ関シ通報ノ件

人普通第三七号

以書翰致敬上候陳者我皇太子殿下貴国御訪問ノ儀ニ付先般御来訪ヲ得候次第有之候処天皇陛下ニ於テ貴国皇室並ニ政府ノ御厚志ヲ感謝被遊今般皇太子殿下ニ対シ貴国御訪問ノ儀御沙汰アラセラレ候ニ付右貴国政府へ申入方在蘭田付公使へ電訓候条右様御承知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

五八二 五月二十二日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下蘭国御訪問ニ関スル政務局長トノ

会谈要領報告ノ件

第四〇号 (五月二十三日接受)

本使発在英大使宛第八号

珍田伯へ

二十一日外務大臣差支ノ為政務局長ト会谈要領左ノ通り

(一)当国皇帝ハ六月十五日ヨリ二十二日迄ノ間ニ於テ殿下御歓迎ハサルヘキ旨前夜在英蘭国公使ヲ経テ閣下ヘ電報濟ノ由ナリ十五日殿下御入国ノ事更ニ念ヲ押シタルニ寧ロ好都合ナリト云ヘリ

臣トノ談話要領報告ノ件

第四一号 (五月二十五日接受)

在英大使宛第九号

珍田伯へ

在英大使宛電第八号ニ関シ二十二日接到大臣訓令ニ基キ二十三日皇太子殿下蘭国御訪問ノ件ニ関シ閣下ヨリ累次御電報ノ趣旨ニ従ヒ公文ヲ携ヘ外務大臣ニ面会政務局長モ列座対談要領左ノ通り

(一)右公文通知ニ対シ外務大臣ハ既ニ非公式ニ本使ニ通知セル如ク殿下ノ御来訪ハ皇帝ニ於テ最モ歓迎遊バサル所ナリト言ヘリ

(二)殿下御迎接「プログラム」ニ就テハ目下陛下ニ於テ御考案中ニテ明日ハ何トカ御沙汰アルベキニ付水曜日ニハ確トシタル何分ノ儀本使ニ通知スル事ヲ得ベシトノ事ナリ

(三)右ノ次第ニ付目下ノ処確定「プログラム」作成シ得ザルモ在英大使来電第六七号第一項同第七〇号ノ御趣旨ニ従ヒ協議ノ結果殿下御入国第一日ハ宮中御接待第二日モ多分同様ナラン(或ハ第三日ニ亘ルヤモ計リ難シ)此ノ両日両殿下トモ多分王宮(又ハ離宮)ニ御宿泊其後ハ公式

(二)在英大使来電第六七号第一項ニ関シテハ本使未タ内田外相ヨリ何等ノ訓令ニ接セス從テ当国ニ対シ殿下御訪問ニ関シ公然未タ何等ノ手續ヲ取ラサルモ当方ヨリ公然ノ通知ヲ俟チ皇帝ニ於テモ殿下御接待「プログラム」御治定相成ルヘク其ノ上ナラテハ其ノ他ノ「プログラム」ハ決定シ難シトノコトニ付予テ閣下ヨリ宮内大臣へ御電請ノ次第モ之アリ本使ヨリモ本日外務大臣へ別電第三九号ノ通り電報シ置ケリ就テハ来週ニ入ラハ政務局長ト協議シ「プログラム」作成ニ着手シ得ヘシト存セラルルニ付在英大使宛電第六号ノ件並殿下当国御滞在御予定日数御電報ヲ得ハ好都合ナリ

五八三 五月二十三日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下蘭国御訪問ノ予定等ニ関シ外務大

(三)同電第三項ニ関シテハ是又当方ヨリノ公文通知ヲ俟チテ決定スルコトナルヘシ
尚往電第五号「ロツテルダム」へ軍艦回航ノ件ハ御同意ナレハ水路及港内水深等ハ御申越次第更ニ精細取調御通報スヘシ

御接待御辞退ノ上本館ニテ御休養(外務大臣ヨリハ右御辞退後モ当方ノ希望ニ依リテハ蘭国政府ニ於テ万事取賄フベキ旨申出アリタルモ本使限ニ於テ之ヲ謝辞シタリ御含置ヲ請フ)

(四)両殿下王宮内ニ御宿泊ノ場合供奉員数名ハ御随従サルルヲ得ンモ大部分ハ旅宿住ナルコト
(五)第三日及第四日外務大臣晩餐会及本使晩餐会続イテ夜会(但公使館手狭ニ付旅館)招致人員ハ外交団蘭国官憲中重ナルモノ且ツ「プリンズ、コンソート」ノ御台臨ヲ仰グコトヲ得可シトノコトナリ

(六)「ロツテルダム」御巡視ハ政府ニテ御案内申上グルコト
(七)御旅館ハ閣下モ御承知ノ「スケブニンゲン」海浜旅館然ル可シト外務大臣ヨリ推奨スル所アリ本使ニ於テモ同感ナリ目下時機尚早ク旅客モ少ク御休養ニハ最適当カト存ズ同地夏季ハ本月中旬ヨリ開始セラルルモ七月ニ入ラザレバ盛時期ニ達セズトノコトナリ尚御警固ノコトニ付テハ海牙同様御懸念ニ及バスト保証セリ

(八)皇太后へ(脱)
在白公使へ転電セリ

五八四 五月二十五日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ受ケラレタル欽待ニ対シ日本政
府ノ謝意ヲ英國政府ニ申入レタル件

第六七〇号 (五月二十七日接受)

貴電第三一四号ニ関シ二十五日本使「カーゾン」卿ニ面会
謝意申入レタル処殿下ノ何等殊更ニ修飾セラルル所ナク而
モ自然ニ度ニ当レル御風格御言動ハ当国上下ニ甚ダ良好ナ
ル印象ヲ与ヘタル旨ヲ述ベ折角当国政府ニ於テ御接遇申上
ゲタル甲斐アリシヲ欣幸トスル旨答ヘタリ尚本使ガ其他ノ
諸方面ヨリ聞取リタル所ニ依ルモ当国人ハ右「カーゾン」
ノ言同様殿下ノ御態度ヲ称揚スルニ一致ス

五八五 五月二十六日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

倫敦御帰着後ノ皇太子殿下ノ御動靜ニ関シ報
告ノ件

第六八〇号 (五月二十九日接受)

二十六日殿下ニハ午後七時半倫敦ニ御帰着閑院宮殿下ヲ初
メ奉リ各供奉員ヲ從ヘラレ同夜 Hotel Cecil ニ於ケル

第一五八号 (五月二十七日接受)

本使発在英大使宛電報第六八号

珍田伯へ

往電第六七号ニ関シ

伊国外務大臣ヨリ二十六日附書翰ニテ伊国皇帝陛下ハ七月
二十日頃日本皇太子殿下ノ御訪問ヲ喜ンデ御受ケ遊バサル
ル旨聖令ニ依リ本使ニ通報ス右ノ御訪問ガ羅馬ニ於テ行ハ
レ得ルヤ或ハ季節ノ関係上從來外国君主ノ訪問ニ屢々其例
アリシガ如ク「ピ」市ノ夏季御滞在地ニ行ハレベキヤハ追
テ通報スベシト回答シ来レリ

大臣へ転電ス

五八七 五月二十九日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英國皇室官民及在留官民ノ御見送
ヲ受ケ英國ヲ御出発ノ件

第六八一号 (五月三十日接受)

二十八日殿下ニハ既報ノ通り軍事參議院代表者ノ祝辞ヲ受
ケサセラレタル後 British and Foreign Bible Society
及 Y. M. C. A. 及 British Empire Union 並 Salvation
一三 皇太子裕仁親王歐洲諸国訪問一件 五八七 五八八

Japan Society ノ奉迎会ニ臨ヤセラレタルガ Duke of
York ヲ初メトシ海軍大臣 Lord Lee 衛生大臣 Alfred
Mond 仏国大使伊国大使白国大使等來会者約六百名ニ達シ
同協会未曾有ノ盛会ナリキ席上理事会長ハ殿下奉迎ノ辞ヲ
述ベ東宮閑院宮並 Prince of Wales, Duke of York
各殿下ヨリ本会ノ Patron タルノ御承認ヲ得タル旨披露ア
リ殿下ヨリ一場ノ御挨拶アリ海軍大臣モ亦往電第六七七号
ノ如キ演説ヲ為シタリ二十七日早朝「イートン」御遊覧ノ
後両陛下ニ御暇乞ノ為メ「バッキンガム、パレース」ニ赴
カレ宮中ニテ午餐ノ饗応ヲ受ケセラレタル後「コンノー
ト、ルームス」ニ於ケル海軍記念日祝賀会ニ御臨場アリ市
中徒歩御遊覧ノ後 Regent Park ニ於ケル在留臣民ノ奉迎
周遊会ニ臨マレタリ会スル者八百ヲ數フ同夜ハ大使館ニ於
テ英國側接伴人ヲ主トシテ大使館領事館關係各員ニ対シ御
晩餐ヲ賜ハリタリ

五八六 五月二十六日 在伊国落合大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

伊国皇帝陛下ハ皇太子殿下ノ御訪問ヲ快諾ノ
旨外務大臣ヨリ通報越ノ件

Army 等代表者ヲ接見セラレ午後ハ日本人会奉迎会ニ御臨
御アラセラレタリ二十九日午前 Surrey ノ Golf-links ニ臨
マレ競技ヲ御覧アリ一旦御帰還ノ上午後二時半皇帝陛下ヲ
始メ奉リ Prince of Wales 及 Duke of York 両殿下其
他宮内外務陸海軍省等代表者在留官民ノ御見送りヲ受ケサ
セラレ御機嫌麗ハシク特別列車ニテ Victoria 停車場ヲ御
出発 Portsmouth ニ向ハセラル

五八八 五月三十日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御健壯ニテ英國御訪問終了ニ付可
然執奏方稟請ノ件

第六八三号 (五月三十一日接受)

宮内大臣へ左ノ通り

殿下ニハ首尾ヨク英國訪問ヲ終ヘサセラレ今三十日早暁御
機嫌麗シク「ポーツマス」港ヲ御出發遊バサレタリ連日ニ
亘ル諸所ノ御巡覽公私歡迎饗宴等寸暇モアラセラレザリシ
ニ拘ラズ益々御健壯ニ亘ラセラレ且英國皇室並ニ到ル所官
民ノ熱誠ナル欽待ヲ受ケ上下ニ深甚ナル好印象ヲ残サレ茲
ニ仏国御訪問ノ途ニ上ラレ閑院宮殿下モ亦愈々御健壯ニ亘

ラセラルルハ本使ノ祝賀措ク能ハザルトコロナリ可然御執奏ヲ請フ

五八九 五月三十日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下英国御出発ノ際英国皇帝陛下等へ
ノ御挨拶振珍田伯ヨリ報告ノ件

第八二六号

(六月二日接受)

珍田伯ヨリ

皇太子殿下英国御滞在中ノ御動静ニ関シテハ在英大使発外務大臣宛累次ノ電報ニ依リ詳細御承知ノ通りナル処五月二十九日倫敦御退京ニ際シ英国皇帝陛下ニハ Prince of Wales 及 Duke of York ヲ從ヘサセラレ殿下御見送リノタメ親シク停車場ニ来ラセラレ(同陛下ニハ皇太子殿下停車場ニ御到着前ニ停車場ニ至リ殿下ヲ御待受ケ致シタシトノ思召ナリシニ付時間等詳細打合せヲナシ右思召ノ通り取計ヒタリ)御別レニ臨ミ実ハ日本天皇陛下ヨリ御懇篤ナル御親電ニ接シ感佩ニ堪ヘズトテ其内容御詳述ノ後何レ右御親電ニ対シテハ早速答電ヲ発スル積リナルガ今回殿下御訪問ニ際シ親シク款待スルノ機会ヲ得タル事ハ頗ル欣幸トス

五九〇 五月三十一日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

蘭国皇室ニ於ケル皇太子殿下歓迎予定表ヲ蘭

国側ヨリ送付越シタル件

(六月二日接受)

第四七号

本使発在仏大使宛電報第一八号

珍田伯へ

蘭国皇室ニ於ケル東宮殿下御歓迎方ニ関シ De Bylaudt 伯(「グラン、マレシヤル、ド、ラ、クール」)ヨリ三十日附ヲ以テ左ノ「プログラム」ヲ送付シ来リ殿下ノ御嘉納ヲ仰ギタキ旨申越シタルニ依リ可然御手続ノ上委細御回報仰ギタシ

(一)六月十五日午後五時御一行「アムスターダム」中央停車場御著

同五時十五分王宮へ御著皇帝陛下御迎接

同八時王宮ニ於テ diner gala

(二)十六日午前十時半殿下閑院宮殿下及ビ「プリンス、コン

ソート」御同列ニテ Asser 金剛石細工場御見物

午後零時半王宮ニ於テ déjeuner de famille

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 五九〇 五九一

ル所ニシテ殊ニ之ニ依リテ単ニ日英兩國間ノミナラズ兩皇室間ノ親善關係ヲ一層鞏固ナラシメタル事ハ自ラ信ジテ疑ハザル所ナリト仰セラレタリ(特ニ兩皇室ナル語ニ重キヲ置カレタリ)之ニ対シ皇太子殿下ヨリ右父陛下ヨリノ電信ハ確ニ其真情ヲ披瀝シ居ラルルモノト信ズ実ハ自分ニ於テモ御存知ノ通り年少何等經驗無キニ顧ミ英国訪問ニ対シ少カラス懸念ニ堪ヘザリシ処幸ニ貴陛下並皇后陛下ハ兩親ノ如キ真情ヲ以テ御款待相成リタメニ英国滞在中恰モ自国ニ在ルガ如キ感ヲ以テ諸般ノ視察ヲ遂ゲ得タル事ハ頗ル満足シ居ル所ニシテ殊ニ陛下ノ言ノ如ク自分訪問ノ結果兩國間ノミナラズ兩皇室間ノ關係ヲ幾分ニテモ鞏固ナラシメ得タリトセバ実ニ望外ノ幸ナリト御答ヘアリタリ尚 Prince of Wales ニハ皇太子殿下ノ御滞在短カカリシ事ハ頗ル遺憾トスル所ナリト惜別ノ情ヲ披瀝セラレタルニ対シ皇太子殿下ニハ Prince of Wales ニ於テ将来東洋方面ニ御行啓相成リシ時我が国ニモ御來訪ノ事トモナラバ我が皇室及政府ハ勿論国民拳テ熱誠款待致スベキ旨(脱)

右宮内大臣へ御伝達ヲ請フ

同一時四十五分「プリンス、コンソート」御同列ニテ馬車御散策 (promenade en voiture)

次デ王室美術館御見物及同所ニ於テ御茶

同五時頃海牙ニ向ヒ皇太后宮殿ニ於テ diner de famille

同十時兩殿下及「プリンス、コンソート」御同列ニテ外務大臣主催ノ夜会へ御台臨

(三)十七日午前九時半馬車御散策森ノ宮殿及平和宮御見物

正午兩殿下「プリンス、コンソート」主催ノ déjeuner

ニ御臨席終テ「プリンス、コンソート」御同列自動車ニ

テ「ロッターダム」御出行 Mairie 主催ノ下ニ港

御見物次デ市役所ニ於テ御茶

午後七時半海牙王宮ニ於テ diner 食後皇帝陛下兩殿下

へ御訣別

(四)十八日午前十一時兩殿下王宮御退去

外務大臣及在白大使へ転電セリ

五九一 五月三十一日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

天皇皇后兩陛下ヨリ英国皇帝皇后兩陛下宛御

札電写送付ノ件

附屬書 五月二十七日天皇皇后兩陛下ヨリ英國皇帝皇后
兩陛下宛御札電写

宮内大臣官房 課官発第二八四号 (五月三十一日接受)
文書 皇太子殿下英國御滞在中受ケサセラルタル御款待ニ対シ天皇
皇后兩陛下ヨリ同國皇帝皇后兩陛下へ御發送ノ御札電別
紙写ノ通ニ候条此段及御通知候也

大正十年五月三十一日

宮内大臣子爵 牧野 伸顯 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長ノモ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書)

五月二十七日天皇皇后兩陛下ヨリ英國皇帝皇后陛下宛御札電

写

Their Majesties the King and the Queen,

LONDON.

Now that Our Son the Crown Prince is leaving
Your Majesty's land, I beg to tender this expression
of most profound appreciation both on My own ac-
count and on that of the Empress.

In permitting the Crown Prince to travel thou-
sands of miles abroad, We could not, as father and
mother, avoid feeling deep anxiety. But through
Your Majesties' great kindness, such cordial treat-
ment was accorded Him both at the ports of call,
in Your capital and during His travel in the country
that He enjoyed a journey most pleasurable and
safe. We do not know how adequately to express
Our gratitude to You.

Our Son had never before attended state func-
tions or assisted at public occasion; and in this re-
gards, too, We were not quite free from uneasiness.
We are filled with joy, however, to learn that by
the gracious consideration shown by Your Majesties
the fraternal companionship of His Royal Highness
the Prince of Wales and the great good will accord-
ed by Your officials and the general public, He was
enabled to have experiences at once interesting and
instructive.

We make no doubt but that the Crown Prince
has derived from His journey unique benefit for
His own study and instruction. If his visit has in
any measure added to the cordiality of the relation-
ship between Our two countries it will not only
prove a real international service, but will exercise
a fortunate influence on the future intercourse of
Our realms.

YOSHIIHITO

(右和文)

天皇皇后兩陛下ヨリ英國皇帝皇后兩陛下宛御親電

今ヤ我皇太子陛下ノ版図ヲ辞セントスル此機ニ際シ朕及皇
后ノ意中ヲ披瀝シテ茲ニ感謝ノ意ヲ表セントス

皇太子ヲシテ数千里ノ外ニ旅行セシムルコトハ父トシ又母
トシテ深く懸念シタル所ナリ然ルニ寄港地ニ於テ又貴國帝
都ニ於テ或ハ貴国内旅行ニ於ケル等総テニ対シ兩陛下ノ非
常ナル厚意ニ依リ予想外ノ優遇ヲ与ヘラレ愉快且安全ナル
旅行ヲ為スコトヲ得タルニ対シテハ感謝ノ意ヲ表スヘキ辞
ヲ得ルコト能ハサル所ナリ

皇太子カ公席ニ臨シ又公会ニ出席スルコトハ今回ヲ以テ嚙
矢トス從テ此事ヲ焦慮シテ止マサリシモ兩陛下ノ優渥ナル
高慮及皇太子殿下ヨリノ親愛ナル交誼並貴國官民ノ多大ナ
ル同情トニ依リ興味豊富ニシテ訓育ニ資スヘキ多大ノ經驗
ヲ得タルハ朕カ無上ノ欣幸トスル所ナリ
皇太子今回ノ旅行ハ其見學上他ニ望ムヘカラサル多大ノ利
益ヲ得タラント必セリ又此訪問ニ依リ貴我兩國間ノ親善
ヲシテ一層深厚ナラシムルコトヲ得タリトセハ国际上ニ裨
益スル所多大ニシテ尚且將來兩國ノ国交上ニ及ホス効果ノ
尠カラサランコトト確信ス

大正十年五月二十七日

御 名

英國皇帝皇后兩陛下

五九二 六月二日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國ニ於ケル皇太子殿下ノ公式御訪問ノ模様
報告ノ件

別 電 同日在仏國石井大使宛内田外務大臣宛電報第八
三六号

仏国大統領ノ歓迎辞ニ対スル皇太子殿下ノ御答
辞報告ノ件

第八三五号

(六月三日接受)

珍田伯ヨリ

五月三十一日夜仏国側接待員及ビ随員一部ト共ニ大使館邸
ニ於ケル大使主催非公式宴会ニ臨マセラル
六月一日午前十時大使官邸ニ於テ大使館員平和条約実施委
員国際連盟陸海空軍代表及ビ其随員並在欧海陸駐在武官一
同ヲ御引見次デ午後零時四十分御出門閑院宮殿下石井大使
其他ノ供奉員御帯同「エリゼー」宮ニ大統領ヲ御訪問アラ
セラレ大統領ニ親シク御面接ノ上大勲位菊花章御奉呈アリ
引続キ大統領及ビ大統領夫人主催ノ午餐ニ臨マセラル(午
餐ニハ当日ノ随員一同内閣議長及ビ諸大臣下院議長、Gof-
fre, Foch, Pétain, Fayolle, 四元帥駐日仏国大使 Claudel
等列席セリ)席上大統領ハ熱誠ナル歓迎ノ辞(往電第八一
一号)ヲ述べ日仏間ノ揺ギナキ友情ニ言及シタルニ対シ殿
下ノ御答辞アリ(別電第八三六号)御機嫌麗ハシク御帰館
アラセラレタリ五時三十分答礼トシテ大統領ノ来訪アリ右
ニテ公式御訪問ヲ終ラセラル

(別電)

六月二日在仏国石井大使発内田外務大臣宛電報第八三六号
仏国大統領ノ歓迎辞ニ対スル皇太子殿下ノ御答辞報告ノ件
第八三六号 別電 (六月三日接受)

大統領閣下

余ガ仏蘭西ニ来遊スルニ関シ閣下ノ鄭重ナル歓迎ノ辞ヲ恭
クシタルハ余ノ深く感謝スル所ニシテ此ノ熱心ナル御歓迎
ハ日仏両国ノ国交成立以來揺ギナカリシ両国間ノ友情ヲ更
ニ証明スルモノト思考ス今次未曾有ノ大戦争中日仏両国ハ
協同目的ノ為メ正義及自由ノ理想ノ下ニ相提携シ以テ其ノ
国交益々親密トナルヲ見タルガ日本国民ガ仏蘭西国民ニ対
シテ抱ケル尊敬歎賞ノ念ハ仏蘭西将卒ノ武烈犠牲ノ精神ノ
發揮セラルルヲ見テ一層強メラレタリ幸ニシテ余ハ本日仏
国並ニ文化ノ華トシテ宇内ニ知ラレタル明媚ナル巴里ノ都
ヲ訪問スルヲ得タリ而シテ又此ノ地ニ其ノ牢平不屈ノ精神
ヲ以テ吾人共同ノ勝利ヲ確保シ以テ世界平和ノ基礎ヲ磐石
ノ安キニ置ケルト卓拔セル政治家及光輝アル軍人ト相見ユ
ルハ余ノ最モ光榮トスル所ナリ不日余ハ思出多ク且ツ光榮
アル戦場ヲ目ノ当リ見物スル予定ナルガ旅行ノ折余ノ得ル

教訓ノ大ナルベキヲ期待スルト共ニ堅実勤勉ナル仏国民ガ
如何ニ其ノ荒廢ノ跡ヲ復旧シ希望ト平和ノ裡ニ新ナル繁榮
ノ基礎ヲ据エツツアルカヲ見タルコトヲ樂ミトス

茲ニ仏国政府ノ懇篤ナル御接待ニ対シ满腔ノ謝意ヲ表スル
ト共ニ大統領閣下並ニ夫人ノ健康ヲ祝シ更ニ仏蘭西ノ隆盛
ト繁榮ノ為メ盃ヲ挙ゲントス

五九三 六月四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

巴里市主催皇太子殿下歓迎会ノ模様報告ノ件

第八四一号

(六月六日接受)

三日午後三時巴里市役所ニ於テ市ノ盛大ナル歓迎会アリ先
ヅ市役所「ノーブルトウ」ニ両殿下御署名アリ次デ議事堂
ニ於テ議長及「セーヌ」県知事歓迎演説ニ次デ皇太子殿下
ノ御答辞アリ式終リ別室ニ於テ数番ノ余興アリ更ニ別室ニ
於テ立食ノ宴アリ五時半御帰館遊バサル同夜海軍大臣官邸
ニ於テ公式晩餐会アリ盛大ナル宴会ノ後大臣夫妻ノ御案内
ニテ両殿下及本邦側陪賓ヲ「オペラ」ニ招待シ大統領席及
其隣席ニ分坐シ幕合ニ大臣夫妻ハ「オペラ」座長ヲ招キ其
案内ノ下ニ楽屋一切ヲ御覧ニ入レ右終リテ「オルケストラ」

ニ於テ君ガ代ヲ奏スルヤ満場ノ觀衆起立敬礼ヲナシ樂終リ
テ歡呼拍子場内ニ轟キ其反響ハ無限ノ感動ヲ与ヘタリ夜半
御機嫌麗シク御帰館遊バサル

五九四 六月四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

巴里ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

第八三九号

(六月七日接受)

珍田伯ヨリ

六月一日午前十一時 Soldat incognito 墓ニ御参詣在ラセラ
ル陸軍省官房次長 Prianx 中佐(陸軍大臣代理) Eugène
Bereaux 氏(文部大臣代理) 巴里衛戍総督 Ber doulat 将
軍仏国側接待官並駐在本邦文武官帝國在留民同所ニ参集シ
テ殿下ノ御着ヲ俟チ奉ル來觀者墓所ノ附近ニ群集シテ塔ノ
如シ殿下ハ閑院宮殿下御同伴石井大使及供奉員ノ一部ヲ從
ヘサセラレテ墓所ニ御参拜花輪を捧ゲ祭文ヲ御朗誦遊バサ
ル午前十一時在留民御引見午後二時外国人御接見終ツテ午
後三時更ニ御出門「エッフェル」塔設計者「エッフェル」
氏ノ御案内ニテ「エッフェル」塔ニ上リ巴里市ノ全景ヲ御
覽遊バサル午後八時石井大使夫妻主催ノ在仏英米伊西「ブ

ラジル」蘭ノ各大公使及外務省員招待宴ニ御臨席遊バサル
右宴会了リタル後「フォッシユ」元帥夫妻ノ主催セル「ユ
ニオン、アンテルアリーエ」ノ慈善音楽会へ御台臨在ラセラ
ル同会ニ於テハ非常ノ好意ヲ以テ右御台臨ヲ御迎へ申上ゲ
タリ

五九五 六月六日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下砲兵学校等ヲ御見学ノ件

第八五〇号

(六月八日接受)

六月四日東宮殿下「フォンテーヌブロー」ニ向ハセラルル
国側ヨリハ特ニ「ペタン」元帥ヲ選ビテ当日ノ御案内役ト
ス午前十時四十分砲兵学校御着御閱兵ニ次デ重軽砲ノ操砲
教練体操馬術等興味ヲ以テ台覽遊バサル右終リテ「ホテル
サヴォア」ニ於テ御昼食「ペタン」元帥砲兵学校長「デュ
ーマ」中將同校幹事及随員一同ニ御陪食ノ榮ヲ賜フ午後
三時「シャトー」ニ於ケル「ナポレオン」百年祭ニ御台臨
遊バサル「フォッシユ」元帥在「フォンテーヌブロー」ノ
衛戍部隊ヲ率ヒテ同祭典ニ列シ日仏国歌奏樂裡ニ殿下ヲ迎
へ奉ル数番ノ余興御台覽後「シャトー」ノ各室ヲ御巡覽ア

ト記シ此言葉ハ実ニ軍国主義者ノ予言ヲ覆スモノナルコト
殿下ハ英国皇太子ト同ジク幾分極悪キ御風ニ在シマシ居タ
ル処人ノ愛敬ヲ受ケサセラルルヤ必セルコト御年二十ニモ
拘ハラズ其御誠実ト御愛想アルコト本員ノ御面会ノ砌ハ一
切ノ格式ヲ斥ケ打解ケテ米国殊ニ米国大学ニ特別ノ御興ア
ラセラルルコトヲ物語リアリタルコトヲ記セリ
外務大臣へ転電セリ在米大使へ暗号ノ儘郵送セリ在米大使
へ郵報アリタシ

五九七 六月九日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ヴェルサイユ宮殿等御見学ノ件

第八六四号

(六月十一日接受)

珍田伯ヨリ

六月八日 St.Cloud ヲ経テ Versailles 宮ヲ御參觀遊ハサル
(閑院宮殿下御同行供奉員五名随行)午前十時半 Versailles
御著「セイヌ」県知事 Juillard 及 Versailles 宮殿博物館
長 Darate ノ御迎ヲ受ケサセラレ同館長御案内ノ下ニ対独
平和条約調印室タリシ「鏡ノ間」及 Galerie des Batailles
ヲ始メ各室内ノ絵画地図等詳細ニ御見物アラセラルル当日宮

ラセラレ「ナポレオン」ノ故事ニ多大ノ感興ヲ引カセラレ
タル模様ニ拝察シタリ午後七時巴里へ御帰還遊バサル

五九六 六月七日 在紐育熊崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下仏国御訪問ニ関スル紐育ヘラルド

紙記事大要報告ノ件

第一九一号

(六月八日接受)

本官発在仏大使宛(第九号)

在貴地紐育「ヘラルド」動モスレバ排日的ナルコトニ関シ
テハ既ニ御往復ノ次第モアリタル処今回皇太子殿下仏国御
訪問ノ記事ハ極メテ友好的ニシテ大要左ノ通り
五日巴里発

殿下ハ国際関係ニ関シ一切ノ接見ヲ避ケラレタルニモ拘ラ
ズ特ニ本通信員ヲ御引見アリタルガ殿下ハ米国ニ対シ最モ
友好的ナル御意図ニ満タサレ居ラルルヲ拝察セリト冒頭シ
殿下ノ御談話トシテ米国民特ニ米国大学ニ親シク接セラル
ル希望アリタルガ時日ノ許サザルハ遺憾ナリ将来其機会ア
ランコトヲ望ム貴紙ヲ通ジテ日米両国ハ常ニ正義ノ為ニ協
力スベキコト我ガ希望ナリト伝ヘラレテ可ナリトアリタリ

殿後方ノ噴水全部ヲ一時ニ発水セシメテ殿下ノ御覽ニ供シ
タリ(噴水三十分間ノ発水費二万法ナリト)引続キGrand
「Triano 宮御參觀ノ上「トリヤノン、パラス、ホテル」ニ
テ午餐ヲ遊バサレ特ニ「セーヌ」県知事及博物館長ヲ御招
待相成リタリ午後二時「ホテル」御出発王朝時代ノ Jende
Paume 遊戯場ニシテ革命当時憲法議會宣誓式ノ举行セラ
レタル古建築物(現ニ Versailles 市中ニ博物館トシテ残レ
リ)ヲ御見物相成リ中央ニ立テル Bailly ノ塑像ヲ指シテ
同憲法議會議長タリシ事ヲ殿下御自身供奉ノ者ニ御説明ア
ラセラレ遊戯場ノ周圍ニ在ル多数半身像ノ中 Mirabeau
及 Robespierre ノ像ハ特ニ興味ヲ以テ御覽遊バレタリ斯
クテ午後三時半御機嫌麗ハシク巴里御帰還ナラセラルル午後
九時随員一同ヲ從ヘテ「オペラ」ニ台臨遊バサル「オペ
ラ」幹部ニ於テハ殿下ノ為特ニ当日ノ「プログラム」ヲ変
更シ Rébecca, Castor et Pollux, Silvia 等華カナル演技
ヲ台覽ニ供シ奉リ(脱)六月九日大使館員及警護ノ役ニ当
リタル軍人ニ午餐ヲ賜ヒタル外別ニ御催シ無シ午前ハ市中
御散策御買物遊バサル

五九八 六月十日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ジョッフル元帥ヲ首脳トスル軍事使節ヲ日本

ニ送ル意向アル旨ブリアン首相表明ノ件

第八七六号

(六月十二日接受)

去一日大統領午餐会ニ於テ「ブリアン」総理大臣ハ皇太子殿下トノ御談話ニ於テ仏国政府ハ「ジョッフル」元帥ヲ首脳トスル軍事使節ヲ日本ニ送ルノ意アルヲ申上ゲ殿下ハ斯ル名将ヲ頭トスル仏国使節ヲ本邦朝野ノ満足ヲ以テ歓迎スル所ナルベシト御答ヘ遊バサレタリ

本使ノ晩餐会ニ於テ「ブリアン」ハ再び本使ニ「ジョッフル」元帥日本行ニ言及シタルニ依リ本使ヨリ本邦有志ノ間ニ仏国哲学ノ泰斗「ベルグソン」氏ヲ招聘スルノ希望アル旨ヲ告ゲタルニ(往電第八号参照)果シテ然ラバ「ベ」氏ヲモ元帥一行ニ加フルモ差支ナシト云ハレタルニ付本使ハ二三ヶ月前右希望ヲ本使ヨリ「ベ」氏ニ通ジタル際「ベ」氏ハ和蘭外四ヶ国ニ先約アリトテ今年ハ東洋ニハ行ク能ハザル旨ヲ答ヘラレタルガ若シ元帥一行ニ加フルヲ得バ好都合ナルベシト述ベ置キタリ

所ナリ

六〇〇 六月十一日

在仏国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下武府御安着白国皇帝陛下御出迎宮

中正式晩餐宴ノ件

第一五〇号

(六月十三日接受)

珍田伯ヨリ

皇太子殿下六月十日午後五時「ブラッセル」御安着白国皇帝陛下ハ皇太子殿下及宮内大臣ヲ従ヘサセラレ停車場ニ御出迎相成殿下御同列ニテ宮殿ニ入ラセラル同夜宮中ニテ正式晩餐アリ殿下ニハ閑院宮殿下ノ外供奉員一同ヲ従ヘ御臨席白国側ニテハ皇帝皇后兩陛下皇太子殿下内親王殿下ノ外各省大臣宮内大臣ヲ初文武官吏百十名ニ達ス席上皇帝陛下ハ我皇太子殿下ニ対シ日本ガ大戦中協力シタルコトヲ感謝セラレ我国ノ比類無キ歴史ヲ叙述セラレタル後殿下ガ御知見ヲ広ムル為遠ク外遊ノ途ニ上ラレタルヲ壮ナリトシ白国ガ戦争ノ残害ノ後ヲ受ケ尚且文化経済其他各般ノ進展ニ付努力スベキニ依リ日本帝国ニ於テモ協力シテ将来益々兩國ノ親交ヲ増進セラレンコトヲ希望セラレ殿下並ニ御一行ノ

次デ八日新任大使「クロードル」氏ハ殿下御渡来ノ為大統領ノ命ニ依リ赴任ヲ延期シタルモ十月初ニハ本邦ニ着任シテ「ジョッフル」一行ノ到着ヲ待ツ筈ナリト語り同行ニ仏国文化ノ代表トシテ「ベルグソン」氏ノ外美術家ヲモ加フル為奔走スベシト語レリ

五九九 六月十日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下白国ニ向ハセラレタル件

第八七九号

(六月十一日接受)

十日正午皇太子殿下閑院宮殿下ト共ニ供奉員一同帯同特別列車ニテ自国ニ向ハセラレ大統領特ニ武官長ヲ遣ハサレタル外警視總監「セーヌ」県知事市会議長儀式局長其他多数ノ見送アリタリ
殿下当地第一次ノ御滞在ハ茲ニ安全ニ且ツ万事都合ヨク済セラレタル次第ナルカ殿下カ仏国官民ニ親シク接近セラルルノ日ヲ重ヌルニ從ヒ同官民ノ歓迎ハ一日熱誠ヲ加ヘ且ツ単ニ仏国官民ヨリ尊敬セラルルノミナラス遂ニソノ愛好セラルル所トナリテ殿下ノ御使命ハ十二分ノ御成功ト申上クルノ外ナク帝室ノタメ及ヒ国家ノタメ慶賀措ク能ハサル

滯白ガ永ク愉快ナル記念ヲ存センコトヲ希望セラレタル後改メテ今上天皇陛下ノ御治世ノ益々御隆昌ナランコトヲ祈ル旨ヲ以テ結バレタルニ対シ殿下ハ白国民ノ熱誠ナル歓迎ト皇帝陛下ノ御好意トヲ感謝セラレタル後日白国交ノ深厚ナルヲ述ベラレ白国文化ノ日本ニ及ボシタル影響ノ甚大ナリシヲ説キ戦時中白国民ノ努力奮闘セラレタルヲ称揚シ將來日白国交ノ益々敦厚ナランコトヲ望ム旨ヲ述ベラレ盃ヲ挙ゲテ皇帝ノ辞ニ酬イラレタリ

六〇一 六月十二日

在仏国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大使館昇格ニ付白国皇帝陛下ニ拝謁ノ件

第一五一号

(六月十三日接受)

貴電第七七号六月九日朝接到宮中ノ都合ニ依リ十日午後七時参内館員帯同大礼服ニテ皇帝陛下ノ拝謁ヲ賜ハリ該電報原紙ヲ捧呈シタルニ陛下ハ之ヲ御受納アラセラレ日本国皇帝陛下ニ於カセラレ令般当国ニ大使ヲ任命シ給ヘル御好意ヲ深謝セラレ本使ノ引続キ大使トシテ当国ニ駐紮スルコトトナリ且恰モ皇太子殿下ノ御来白ト時期ヲ同シクスルヲ大ニ欣幸トセラル旨等御言葉ヲ賜ハリ終リテ「レオポー

ル」大授章ヲ親授セラレタリ

六〇二 六月十四日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答電字送付ノ

件

附屬書 五月二十九日英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答
電字

宮内大臣官房
文書 課 宮発第三〇四号

皇太子殿下英国御滞在中受ケサセラレタル御款待ニ対シ天
皇皇后両陛下ヨリ同国皇帝皇后両陛下へ御発送ノ御礼電ニ
対シ別紙写ノ通り御答電有之候条此段及御通知候也
大正十年六月十四日

宮内大臣子爵 牧野 伸顕 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へモ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書)

五月二十九日英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答電写

His Imperial Majesty the Emperor,

Tokio.

The Queen and I are most grateful for the very kind message received from Your Imperial Majesty and the Empress on the eve of the departure of Your dear Son from this country. I have just taken leave of him and I can assure You that His Imperial Highness quits our shores with the regret and best wishes of all classes with whom he has been associated and in whom he has inspired feelings of interest and regard. We all trust that he has been as happy among us as we have been to receive him and that whatever insight he has gained of our national life and institutions may prove a helpful experience and conduce to the strengthening of the friendly relations of our two houses and of that mutual understanding so happily existing between the Japanese and British nations.

GEORGE R. I.

(右和訳文)

英国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答電写

宮内大臣官房
文書 課 宮発第三〇三号

皇太子殿下仏国御滞在中受ケサセラレタル御款待ニ対シ天
皇陛下ヨリ同国大統領閣下へ御発送ノ御礼電別紙写ノ通り
ニ候条此段及通知候也
大正十年六月十四日

宮内大臣子爵 牧野 伸顕 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書)

六月十一日天皇陛下ヨリ仏蘭西共和国大統領閣下宛御礼電写
我皇子ノ貴国ヲ辞スルニ臨ミ崇高ナル貴国ニ於テ辱ウセル
款待ニ対シ茲ニ謝意ヲ閣下ニ致スハ特ニ朕之ヲ欣幸トス連
盟国ノ勝利ヲ収ムルカ為五ヶ年ニ亘リテ奮闘シタル勇敢ナ
ル貴国民ニ接シジョッフル、フォッシユ、ペタン諸元帥ノ
如キ名声赫々タル士ニ会シテ我皇太子カ貴重ナル多大ノ経
験ヲ得タルハ朕ノ疑ハサル所ナリ尚今回ノ機会ハ從來貴我
両国間ニ存在スル友誼ノ關係ヲ発揚シ且之ヲシテ愈鞏固親
密ナラシムルニ裨益シタルコト尠ナカラスト信スルハ朕ノ
欣喜ニ堪ヘサルナリ此機ニ際シ朕ハ閣下ニ対シテ至誠ノ友

陛下ノ親愛セラルル皇太子殿下ノ当国ヲ出発セラルルニ際
シ陛下並皇后陛下ヨリ懇篤ナル德音ニ接シ朕及皇后ハ感謝
ニ堪ヘサルナリ朕ハ今ヤ恰モ殿下ト分袂シタル所ニシテ殿
下カ其交際セラレタル各階級及殿下ニ依リテ友情ト尊敬ト
ノ感念ヲ鼓吹セラレタル各階級ニ於ケル人士ノ惜別及祝福
ノ裡ニ当地ヲ辞セラレタルハ朕之ヲ陛下ニ確保ス又殿下ハ
吾人カ殿下ヲ迎接シタル歡喜ニ同シキ愉快ヲ以テ吾人ノ間
ニ消光セラレ且我國民ノ生活及設営ノ觀察ニ依リテ殿下ノ
学知セラレタル所ハ蓋シ有益ノ經驗タルコトヲ得ヘク尚貴
我両帝室間ニ於ケル友誼ノ關係及日英両国間ニ幸ニ現存ス
ル親善ノ連鎖ヲシテ益々鞏固ナラシムルノ資タランコトハ
吾人ノ信シテ疑ハサル所ナリ

ジョージ

日本国皇帝陛下

六〇三 六月十四日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

天皇陛下ヨリ仏国大統領閣下宛御礼電写送付

ノ件

附屬書 右御礼電写

情ヲ表ス

大正十年六月十一日

御名

仏蘭西共和国大統領閣下

(右本文)

Monsieur le Président de la République Française,

Paris.

Au moment où mon fils quitte la France, il m'est particulièrement agréable de vous remercier, Monsieur le Président, de l'accueil qu'il vient de recevoir dans votre noble patrie. Ce fut certainement pour le Prince Héritier une émouvante et précieuse expérience de se trouver au milieu du vaillant peuple qui a soutenu cinq ans de batailles pour le triomphe des Alliés et de rencontrer d'aussi illustres personnages que les Marechaux Joffre, Foch et Pétain. Je me félicite d'autant plus de ces circonstances qu'elles auront servi à manifester et à resserrer encore les liens d'amitié qui unissaient

追テ珍田供奉長ハ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書I)

六月十一日白国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

(六月十三日接致)

Sa Majesté l'Empereur,

Tokio.

Je tiens à dire à Votre Majesté combien je suis heureux de recevoir Son Auguste Fils et de témoigner à la noble nation japonaise, amie et alliée, la sincère sympathie de la Belgique. Mon fils et moi sommes très touchés de la haute distinction que Votre Majesté lui a conférée.

ALBERT

(右本文)

白耳義国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電

貴国皇太子ヲ我国ニ迎ヘ我友邦ニシテ聯盟国タル崇高ナル貴国々民ニ対シ茲ニ白耳義国ノ至誠ナル友情ヲ表彰スルハ朕ノ深ク欣幸トスル所ナル旨ヲ陛下ニ声明ス
尚陛下ヨリ朕ノ皇子ニ貴重ナル勳章ヲ贈与セラレタルニ対

déjà nos deux pays; et je suis heureux de vous adresser en cette occasion, Monsieur le Président, l'assurance de ma parfaite amitié.

YOSHIMITO



六〇四 六月十六日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

白国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛及天皇陛下ヨリ

白国皇帝陛下宛御親電写送付ノ件

附屬書I 六月十一日白国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親

電写

II 六月十四日天皇陛下ヨリ白国皇帝陛下宛御答

電写

宮内大臣官房 文書課第三〇七号 (六月十七日接受)

皇太子殿下白国御訪問ニ付同国皇帝陛下ヨリ天皇陛下ハ奇セラレタル御礼電並天皇皇后両陛下ヨリ同国皇帝陛下ハ御發送ノ御礼電別紙写ノ通りニ候条此段及御通知候也

大正十年六月十六日

宮内大臣子爵 牧野 伸顕(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

シ朕及皇子ハ感謝ニ堪ヘサルナリ

アンブール

日本国皇帝陛下

(附屬書II)

六月十四日天皇陛下ヨリ白国皇帝陛下宛御答電写

Sa Majesté le Roi des Belges,

Bruxelles.

A l'occasion de la visite à Bruxelles de mon fils, Votre Majesté a bien voulu m'envoyer un télégramme cordial dont je La remercie vivement. Au début du voyage du Prince Héritier en Europe, Votre Majesté a bien voulu l'inviter à visiter votre beau pays: l'Impératrice et moi, nous nous réjouissons d'apprendre que mon fils est l'objet d'un accueil chaleureux de la part de Votre Majesté, de Sa Majesté la Reine, de Son Altesse Royale le Duc de Brabant, et de la nation belge.
Pendant cinq ans et dans les plus douloureuses circonstances, Votre Majesté a dirigé, avec une fer-

meté admirable, l'inflexible vaillance de son peuple. Aussi suis-je certain que mon fils acquerra une précieuse expérience au cours de son séjour auprès de Votre Majesté et au milieu de la nation belge. Cet événement contribuera à cimenter plus solidement encore les relations amicales qui existent entre nos deux pays.

En faisant des vœux ardents pour la prospérité de la Maison Royale et de la noble nation belge, l'Impératrice et moi adressons de tout coeur à Votre Majesté et à Sa Majesté la Reine, tous nos remerciements, ainsi que l'assurance de notre amitié sincère.

YOSHIMITO

(右和文)

天皇陛下ヨリ白耳義国皇帝陛下宛御答電

我皇子ノ比律悉訪問ニ際シ陛下ヨリ懇篤ナル電報ニ接シ感謝ニ堪ヘス我皇太子ハ歐洲旅行ノ発途ニ方リテ陛下ヨリ明媚ナル貴国ヲ訪問スヘキ寵招ヲ辱ウシ今ヤ陛下、皇后陛下、皇太子殿下並貴国民ヨリ慰懃ナル欲待ヲ享クルノ報ヲ

皇太子殿下ハ別電第一五三号ノ御旅程ヲ了ヘサセラレ十五日午後十二時二十分官民多数ノ御見送ノ中ニ御機嫌麗シク蘭国ニ向ヒ御出発遊バサレタリ

(別電)

六月十六日在白国安達大使発内田外務大臣宛電報第一五三号

皇太子殿下白国御滞在中ノ御動靜報告ノ件

第一五三号

(六月十八日接受)

皇太子殿下白国御滞在中ノ御動靜ノ大要左ノ通り

殿下ハ十一日午前十一時「ザヴィアー」県先帝御陵御参拝遊バサレ正午同離宮ニ於テ随員並ニ館員一同ト共ニ皇帝皇后両陛下御催ノ昼餐会ニ臨マセラレ両陛下並ニ皇太子殿下内親王殿下其他ト御昼餐ヲ共ニ遊バサレタル後皇帝陛下ト御同列ニテ「サンカントネル」公園ニ於ケル「イゼール」附近ノ戦争「パノラマ」ヲ御參觀ノ上「コンゴ」博物館ニ成ラセラレ御帰休午後七時四十五分白国皇太子ト御同列ニテ首相邸ノ晩餐会ニ臨マセラレ同夜十時ヨリ同ジク当国皇太子ト御同列ニテ市長主催ノ「レセプション」ニ御臨場遊バサレタリ

十二日午後九時裁判所御訪問後「ウォタール」ノ古戦場

聞キ朕及皇后ハ欣喜措ク能ハス

陛下ハ国家最モ多難ナリシ時局ニ際シテ五ヶ年ニ亘リ断乎トシテ勇敢不撓ナル貴国民ヲ指揮セラレタリ我皇子カ陛下ニ見エ且此国民ニ接シテ貴重ナル經驗ヲ得ヘキハ朕ノ疑ハサル所ナリ今回ノ機会ハ貴我兩國間ニ現存スル友誼ノ關係ヲシテ益々鞏固親密ナラシムルニ裨益センコト必セリ朕ハ茲ニ貴皇室並崇高ナル貴国民ノ隆昌ヲ懇禱シ併セテ朕及皇后ノ熱誠ナル謝意ヲ陛下及皇后陛下ニ致スト共ニ至誠ノ友情ヲ表ス

大正十年六月十四日

御名

白耳義国皇帝陛下

在白国安達大使ヨリ

六〇五 六月十六日

内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下蘭国へ向ヒ御出発ノ件

別電

同日在白国安達大使発内田外務大臣宛電報第一

五三号

皇太子殿下白国御滞在中ノ御動靜報告ノ件

第一五二号

(六月十七日接受)

ヲ御視察記念塔上ニ於テ一時間余ニ亘リ「ビーブイック」將軍ノ説明ヲ御聴取遊バサレ「ウォタール」戦争「パノラマ」御覽ノ後御帰休午後二時両陛下及皇太子殿下ト御同列「サンカントネル」公園内ニテ開催ノ白国特産馱馬共進会ニ臨マセラレ同夜当大使館新館ニ於テ当国皇太子ノ外宮中政府及政界ノ顯著ナル名士ヲ御招待晩餐会ヲ催サレ次デ同十時ヨリ新館ニ於ケル本使主催ノ「ソアレー」ニ臨マセラレ当国朝野ノ名士ノ外各国大公使ナド数百名ニ御挨拶アラセラレタリ斯克テ同夜ヲ以テ宮中ヲ御辞退遊バサレ

「ホテル、アストリア」ニ移ラセラル

十三日戦跡御視察ノ為午前八時御出発同十時「オステンド」着同地ヨリ自動車ニテ「ニューポール」ニ赴カレ同所ニテ御昼餐引続キ「ラムスカペル」「ペルヴィズ」等ヲ経テ「デイクスミュード」ニ至リ白国戦死者ノ墳墓ニ花束ヲ捧ケラレ「イーブル」「ブルージュ」等ノ最モ悲惨ヲ極メタリシ戦跡ヲ Biebuyck 將軍ノ説明ニ依リテ御覽ノ上「ブルージュ」ヨリ汽車ニテ午後十時四十分御帰府遊ハサル前

記「イーブル」ハ英軍ノ四年有半引続キ最モ苦戦シタル所ナルヲ以テ同所ヨリ英国皇帝ニ電報ヲ以テ御挨拶ラセラ

レタリ

十四日午前九時四十分発同十時半「アンヴェルス」着同市長御訪問ノ後「ランチ」ニテ港内各所御見物船内ニテ同地方朝野ノ名士ノ催ニ係ル御昼餐ニ臨マセラレタル後「ノートルダム」寺院御參觀午後五時御帰府後直ニ当市日白協会ニ臨マセラレ市長 Gofinet 男ノ挨拶 Broqueville 伯及 Otlet 氏ノ演説アリ殿下ヨリ一場ノ御挨拶アリタル後館内日本部ノ陳列品ヲ御覽遊ハサレタルカ同日来会セラレタル者千三百余人ニ及ヘリ次テ御帰還ノ途次宮中ニ成ラセラレ皇帝陛下ニ御対顔御告別ノ御挨拶ヲ申上ケ御帰還遊ハサレタルカ午後三時皇帝陛下ハ更ニ親シク御旅館ニ成ラセラレ御告別ノ御挨拶在ラセラレ十五日ハ独逸ヨリ割讓シタル新領土ニ御幸セラルルコトニ確定シ居ルニ付御名代トシテ皇太子ヲ停車場ニ御見送セシムヘキ旨御話アリタリ同夜八時 Hotel Astoria ニ於ケル本使主催ノ宴会ニ臨マセラレタリ来会者百八十六名当国国務大臣内閣員其ノ他普ク朝野ノ名士ヲ網羅セリ本使ヨリ一場ノ挨拶ヲ為シ次テ首相及 Strau 氏之ニ答フル所アリ盛会ヲ極メタリ

第一五三号

六〇六 六月十六日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下アムステルダムニ御安着ノ件

第五五号

(六月十七日接受)

皇太子殿下ニハ六月十五日午後五時「アムステルダム」御安著停車場ニ御出迎ヘノ当地「プリンス、コンソールト」ト御同列ニテ御宿泊所ニ充テラレタル宮殿ニ成ラセラレ殿内階上ニ於テ女皇陛下ニ御会見御挨拶御交換ノ後(脱)官同道「バルコン」ニテ宮殿前広場ニ於ケル群集ノ歓呼ヲ受ケサセラル停車場ヨリ宮殿ニ到ラルル沿道ニハ従来各地ニ見ザル多数ノ民衆列ヲナシ歓呼シテ殿下ヲ奉迎セリ

六〇七 六月十七日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

蘭国ニ於ケル皇太子殿下歓迎会ノ模様報告ノ件

第五六号

(六月十九日接受)

珍田伯ヨリ

蘭国女皇陛下ニハ六月十五日夜「アムステルダム」宮殿ニ於テ Dinner Gala ヲ催サル席上陛下ニハ蘭語ヲ以テ殿下ノ

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六〇六 六〇七

六月十五日午后十二時二十分殿下ハ白国皇太子其他官民多数ノ見送ノ内ニ蘭国ニ向ヒ御出発アラセラレ本使及ヒ武者小路ハ「ローゼンダール」迄御見送申シ上ケタルニ御機嫌此上モナク麗シク拜セラレタリ

尚二十日和蘭ヨリ御帰仏ノ際ハ非公式ニテ当国 Marine ニ御立寄 Merusie 大僧正ノ御案内ニテ「ルーヴァン」大学独軍焼打「リエージュ」戦跡ヲ御見物遊サレ同日薄暮御着巴ノ御予定ナリ

殿下当国御滞在中ハ皇室ハ申スニ及ハス到ル所官民熱誠ヲ以テ御歓迎申上ケ殊ニ白国官憲ハ周到ナル注意ヲ以テ殿下御視察ノ便ヲ計リ御身边ノ御警戒ノ如キモ務メテ外観ニ現レサル様用意周到ヲ極メタリ尚殿下ノ御態度御挨拶振ナト総テ白国皇帝陛下ヲ始メ奉リ官民一同ノ齊シク感賞スル所ニシテ当国各新聞モ亦筆ヲ揃ヘテ白国民全体感謝ノ念ト賞讃ノ情トヲ大書シ居リ且ツ我カ皇室ノ淵源及ヒ国体ノ世界無比ナルコトニ関シ皇帝ノ御乾益ノ辞ニ基キ詳述セラレ当国一般ノ人々モ亦普ク之ヲ知り尊敬感服ノ誠意ヲ有スルニ至リタルハ兩國国交上本使ノ頗ル欣幸トスル所ナリ

蘭国訪問ハ同国上下挙ツテ歓迎スル所ニテ昨年同国艦隊ガ日本ニ於テ熱誠ナル歓迎ヲ受ケタル後茲ニ殿下ノ来訪ヲ受クルハ日蘭兩國間ニ存スル友情ノ表彰ト見ルヲ得ルノミナラズ之ガ為兩國間友情ハ一層敦睦ヲ加フルニ至ル可シトノ趣旨ヲ以テ殿下歓迎ノ辞ヲ述ベラレタルニ対シ殿下ニハ邦語ヲ以テ右ニ対シ一応ノ感謝ヲ述ベタル後我皇租蘭國ノ國是ヲ定メラレテ以来日蘭ノ国交益々敦睦ヲ加ヘ陛下治世ノ下ニ益々發展シツツアル極東蘭領印度ハ日蘭兩國善隣關係ヲシテ益々密接ナラシメツツアリ茲ニ親シク来リテ蘭國々情ヲ視察シ得ルコトハ特ニ歡喜スル所ニシテ兩國々交ノ將來益々深厚ナランコトヲ希望スルモノナリ云々ノ趣旨ヲ述ベラレタリ(因ニ右陛下歓迎ノ辞及殿下答辭ハ前以テ翻譯ヲ交換シ置キ宮廷ノ慣習上其席上ニ於テハ外國語ニ之ヲ通訳セズ)六月十六日殿下ニハ Prince Consort ノ御案内ニテ「アムステルダム」金剛石工場ヲ御見物宮中ニ於ケル Déjeuner de famille ノ後同市博物館ヲ御觀覽同市役所ニ於ケル市ノ歓迎会ニ臨マレタル後特別列車ニテ午後六時海牙御着同地御宿所ニ充テラレタル宮殿ニ入ラセラル皇太后宮殿ニ於テ晚餐ノ後外務大臣主宰ノ夜会ニ臨マセラレタリ

六〇八 六月十八日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ハーグ及ロッテルダム御見物ノ件

第五七号 (六月十九日接受)

珍田伯ヨリ

六月十七日殿下ニハ「プリンス、コンソール」ノ御案内ニテ当地森ノ宮殿及平和宮殿御見物宮中ニテ Déjeuner de famille ヲ召サレタル後自動車ニテ「ロッテルダム」市御訪問同市長ノ案内ニテ港内御見物後市役所ニ於ケル同市歓迎会ニ臨マレタ刻「ヘーグ」ニ御帰還同夜宮中ニテ女皇陛下及皇太后陛下御出席ノ晩餐会ニ臨マレ翌十八日午前十時皇帝及皇太后両陛下ニ御告別微行ニ入ラセラレ御宿所ヲホテル、デ、ザンド、ニ移サレタリ

六〇九 六月二十日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

蘭国ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

第五九号 (六月二十二日接受)

皇太子殿下ニハ十八日朝蘭国皇帝並皇太后両陛下ニ御告別ノ上同十一時宮中御退出予定ノ如ク Hotel des Indes ニ

入ラセラル同日午餐ハ両殿下トモ公使館ニ於テ召サレ午後

東宮殿下ハ「アムステルダム」動物園ヲ御觀覽遊バサレ同日夕ハ両殿下 Scheveningen Palace Hotel ニ於ケル本使ノ晩餐会ニ御台臨遊バサル同夕ハ蘭国皇太子殿下モ参会セラレ主客ハ蘭国政府各大臣其他政府部内高官ヲ主トシ宮中高官以下接伴官及供奉員等ヲ合セ七十名余終ツテ晩餐ニ招待セザリシ蘭国側官吏並貴紳及当地外交団ヲ招待シテ夜会ヲ開キ両殿下共至極御満足ニ拝セラレタリ出席者約二百名十九日皇太子殿下ハ閑院宮殿下ヲ其御宿 Castel Wassenaar ニ御訪問次デ同御宿ニ於テ両殿下御会食遊バサレ終ツテ同旅館ニ近接セル Van Ommen 氏別宅ニ成ラセラレ邸内ヲ御散歩アリ御茶ヲ召サレタル後御帰還同夕ハ Hotel des Indes ニ於テ蘭国宮内高官及首相外相並接伴官主客三十四名ニ晩餐ヲ賜ハル殿下御滞蘭中上下ノ歓迎ハ熱誠ヲ極メタリ委細郵報

六一〇 六月二十日 在白国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国皇室及官民ノ皇太子殿下御款待振報告ノ件

第一五四号 (六月二十二日接受)

(本電ハ十四日發電ノ筈ナリシモ行違ヒニテ發電遅延シタルヲ以テ可然御取計ヲ請フ)

珍田ヨリ宮内大臣へ

皇太子殿下当国御著以来皇室並ニ官民ノ厚キ御待遇ヲ受ケラレ殿下ノ御評判モ殊ニ宜シク当国皇后ハ山本大佐ニ向ハレ「殿下宮中御滞在中ハ Tout a fait charmant ナリシ故右序デノ節貴皇后陛下へ伝ヘラレタシ」ト御話アリタリ愈々明日蘭国へ御出發ニ付今日午後六時御告別ノ為皇帝ヲ御訪問遊ハサレタル処午後七時皇帝ハ殿下ノ御宿所へ御答問アリ其ノ節我両陛下へ左ノ如ク御伝言ヲ御依頼遊バサレタリ

「今般皇太子殿下閑院宮殿下御同伴白国ヲ御訪問遊バサレタルハ自分政府並ニ国民ノ深ク感謝スル所ニシテ此ノ機ニ際シ自分並ニ皇后ヨリ天皇皇后両陛下ニ最深厚ナル友情ヲ表シ且ツ貴皇室ノ幸福ト日本国ノ繁榮ヲ切ニ希望スル旨御伝言アリタシ」
右奏上ヲ願フ

六一一 六月二十一日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

天皇陛下ヨリ白国大統領閣下へ御發送ノ御札

電ニ対シ同大統領閣下ヨリ御答電ノ件

附屬書 六月十三日發右御答電

宮内大臣官房
文書課 官發第三一二号

皇太子殿下白国御滞在中受ケサセラレタル御款待ニ対シ天皇陛下ヨリ同国大統領閣下へ御發送ノ御札電ニ対シ別紙寫ノ通御答電有之候条此段及御通知候也
大正十年六月二十一日

宮内大臣子爵 牧野 伸頭(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へモ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書)

六月十三日白国大統領閣下ヨリ天皇陛下宛御答電
(六月十四日接受)

A Sa Majesté l'Empereur du Japon,

Tokio.

Je remercie très sincèrement Votre Majesté de

L'aimable télégramme qu'Elle a bien voulu m'adresser à l'occasion du séjour de Son Altesse Impériale le Prince Hirohito. C'est avec joie que la France a accueilli l'Héritier d'un empire avec lequel elle désire voir se resserrer les liens d'amitié que de nombreuses années de rapports confiants et la fraternité des armes ont déjà établis entre nos deux pays. Très heureux que le Prince ait emporté de Son premier passage en France un agréable souvenir, je profite avec empressement de cette circonstance pour vous adresser la nouvelle assurance de ma cordiale amitié.

A. MILLERAND

(右和訳文)

六月十三日仏蘭西共和国大統領閣下ヨリ天皇陛下宛御答電写
裕仁親王殿下ノ我国ニ滞在セラルルニ際シ陛下ヨリ懇篤ナル電報ヲ辱ウシ茲ニ予ノ至誠ナル謝意ヲ致ス仏国ニ於テ貴国皇太子ヲ歓待シタルハ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ而シテ仏国ハ多年ニ亘リ貴我相共ニ信頼シタル關係並戰友ノ情誼ニ依リテ既ニ兩國ヲ結合スル友情ノ益々親睦ヲ加フヘキコトヲ

ン」大佐ノ説明ヲ御聴取遊ハサレ次ニ「リエージュ」市長ノ歡迎会ニ御臨場御挨拶ノ御令旨等アラセラレタル後御帰車被遊タルニ市庁ト停車場トノ間約半里幾万ノ群衆堵ヲ為シテ歓呼シ殿下ヲ迎ヘ奉リタルハ古老モ未タ見サル所ナル由斯クテ午後五時三分仏国々境ニ御到着被遊タルニ付御告別申上タルニ両殿下共(脱)来絶エ間ナキ御活動ニ係ラス毫モ御疲労ノ御様子ナク御機嫌極メテ麗ハシク拝セラレタリ

六一三 六月二十三日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

第九三八号 (六月二十四日接受)

珍田伯ヨリ

二十二日午前「セーヴル」国立陶器製造所御參觀同製造所長ノ御案内ノ下ニ陶器製造ノ現状並ニ陶器陳列所ヲ台覽遊ハサレ午後九時五十分「レスト」停車場特別列車ニテ「ストラスブルグ」「メッツ」「ヴェルダン」地方ノ巡遊ノ途ニ上ラセラル(戦地御誘導ノ任ニ当レル「ペタン」元帥同參謀仏国側接伴員並供奉員一部扈從ス(脱)二十五日夕刻

希望シテ止マス尚殿下カ初メテ我国ヲ訪問シ好記念ヲ取得セラレタルハ予深ク之ヲ欣喜トス予ハ此機ニ際シ重ネテ陛下ニ誠実ナル友情ヲ表ス

ア、ミルラン

日本国皇帝陛下

六一二 六月二十一日 在仏国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国御再訪ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告

ノ件

第一五五号 (六月二十二日接受)

皇太子殿下ニハ閑院宮殿下御同列珍田伯以下供奉員一同ヲ率イラレ蘭国宮廷列車ニテ二十日午前九時四分ヲ以テ同国国境「エスケム」駅ニ御着本官武者小路及白国接伴員四名其他ノ奉迎ヲ受ケサセラレ十時「マリイヌ」駅ニ於テ「メルシエ」大僧正御陪乗「ルーヴァン」市ニ於テ約半時間御降車同大学焼打ノ跡ヲ訪ハセラレ市民教授及学生多数ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケサセラレタル後同大僧正ニ御告別相成十二時半「リエージュ」市ニ約二時間半御降車大戰開幕ノ古跡「ロンサン」要塞ニ赴カレ右戦争ニ偉功アル「ナンセ

ノ予定

六一四 六月二十四日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下ノ白国及蘭国御訪問ニ付天皇皇后
兩陛下ヨリ白国皇帝陛下宛御礼電ニ対スル御
答電写並蘭国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電
及之ニ対スル天皇陛下ノ御礼電写送付ノ件

- 一 右白国皇帝陛下御答電写
- 二 右蘭国皇帝陛下御親電写
- 三 右天皇陛下御礼電写

宮内大臣官房 課 宮發第三一九号 (六月二十四日接受)

皇太子殿下白国及和蘭国御訪問ニ付天皇皇后兩陛下ヨリ白国皇帝陛下へ御發送ノ御礼電ニ対スル御答電並和蘭国皇帝陛下ヨリ天皇陛下へ寄セラレタル御親電及之ニ対スル御礼電別紙写ノ通りニ候条此段及御通知候也

大正十年六月二十四日

宮内大臣子爵 牧野 伸頭(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長ニ伝達方可然御取計相成度候

(附屬書一)

六月十六日白国皇帝陛下発天皇陛下宛御答電写

(六月十八日接受)

Sa Majesté l'Empereur,
Tokio.

La reine et moi sommes particulièrement touchés du gracieux télégramme de Votre Majesté. Le Prince Impérial nous a quittés laissant dans tout le pays les plus heureux souvenirs. Puisse-t-il avoir senti dans l'accueil du peuple belge toute son amitié, son admiration et sa gratitude pour la noble et puissante Nation Japonaise. La reine envoie à l'Impératrice un affectueux message et j'y joins mes hommages respectueux.

ALBERT

(右和訳文)

白耳義国皇帝陛下発天皇陛下宛御答電

朕及皇后ノ陛下ヨリ懇篤ナル電報ヲ辱ウシ感激惜ク能ハス
貴国皇太子殿下ノ全白耳義国ニ最モ愉快ナル記念ヲ殘シテ

貴国皇太子殿下ニ親シク接スルヲ得タルノ朕ノ甚タ欣幸ナ
スル所ナリ尚陛下ノ訪問ノ朕ニ多大ノ歡喜ヲ与ヘ朕ノ永ク
其好記念ヲ忘レサルハシ

アルベル

日本国皇帝陛下

(附屬書II)

六月二十一日天皇陛下発蘭国皇帝陛下宛御答電写

A Sa Majesté la Reine,

La Haye.

Acceptant avec plaisir l'aimable invitation de Votre Majesté, mon fils s'est rendu dans Votre pays où il a été l'objet d'un accueil chaleureux de la part de Votre Majesté de Son Altesse Royale le Prince Consort et de la nation hollandaise. La Hollande et le Japon sont liés par la plus ancienne amitié et jadis c'est Votre pays qui a le plus contribué à introduire la civilisation occidentale au Japon; le peuple japonais garde de cette influence un souvenir reconnaissant; et c'est un bonheur pour les deux pays de voir

我国ヲ辞セラレタリ尚貴国民ニ対シテ白耳義国民ノ懐ケル
至深ノ友情及崇敬並感謝ノ意ハ我国民ノ致セル歡待ノ裡ニ
殿下ノ之ヲ感知セラレタラント希望ニ堪ヘサル所ナリ皇
后ノ茲ニ貴国皇后陛下ニ対シテ友情ヲ致シ朕モ亦皇后陛下
ニ至高ノ敬意ヲ表ス

アルベル

日本国皇帝陛下

(附屬書II)

六月十八日蘭国皇帝陛下発天皇陛下宛電報写

(六月十九日接受)

Sa Majesté l'Empereur,

Tokio.

Je tiens à exprimer à Votre Majesté combien j'ai été heureuse de faire la connaissance du Prince Héritier et le très vif plaisir que m'a causé Sa visite dont je garderai excellent souvenir.

WILHELMINA

(右和訳文)

和蘭国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電

aujourd'hui la Hollande et ses possessions entretenir avec le Japon des relations économiques plus suivies que jamais.

Je suis certain qu'il fut infiniment agréable pour le Prince Héritier d'être reçu par Votre Majesté en même temps que très précieux pour lui de séjourner dans Votre beau pays et d'entrer en contact avec la civilisation propre des Pays-Bas. Je ne doute pas que cet événement ne contribue à resserrer encore les relations amicales qui existent entre nos deux pays.

En remerciant Votre Majesté de Son télégramme que nous venons de recevoir, et en formant des vœux ardents pour la prospérité de la Maison Royale et de la noble nation hollandaise, l'Impératrice et moi adressons de tout coeur à Votre Majesté ainsi qu'à Son Altesse Royale le Prince Consort l'assurance de notre gratitude et de notre amitié sincère.

YOSHITOMO

(中訳文)

天皇陛下ヨリ和蘭国皇帝陛下宛御答電

我皇子カ陛下ノ寵招ヲ欣諾シテ貴国ヲ訪問シ陛下及皇婿殿下並貴国民ヨリ懇切ナル款待ヲ受ケタリ貴我両国間ハ往古ヨリ友誼ノ關係ニ依リテ結合セラレ貴国ハ昔時我国ニ泰西ノ文化ヲ紹介スルニ至大ナル貢獻ヲ為セリ我国民ハ其徳ヲ頌シテ常ニ感謝ノ念ヲ失フコトナシ又近時貴国及其領土ト我国トノ間ニ最善ナル經濟關係ヲ見ルニ至リタルハ日蘭兩國ノ為ニ慶賀ニ堪ヘス

我皇太子ハ陛下ノ迎接ヲ辱ウシタルヲ欣喜シ且明媚ナル貴国ニ滞在シテ親シク貴国ノ文化ニ接シ以テ多大ノ裨益ヲ得タルハ朕ノ疑ハサル所ナリ尚今回ノ機會ハ貴我両国間ニ現存スル交誼ヲシテ一層鞏固親密ナラシムルニ与ツテ力アルヘキコトヲ確信ス

朕及皇后ハ茲ニ陛下ノ電報ヲ感謝スルト共ニ貴皇室並貴国民ノ隆昌ヲ懇禱シ併セテ陛下及皇婿殿下ニ至誠ナル謝意ト友情トヲ表ス

大正十年六月二十一日

御名

和蘭国皇帝陛下

六一五 六月二十四日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ蘭国御訪問ニ関スル同国ノ新聞

論調報告ノ件

別電 同日田付公使宛内田外務大臣宛電報第六一号

第六〇号 (六月二十六日接受)

本使発在仏大使宛電報貴大臣御参考迄ニ左ノ通り転電ス

第四三号

珍田伯へ

東京殿下蘭国御訪問ニ関スル当国新聞論調一部曩ニ在白大使宛第一七号ヲ以テ申進ジ置キタル処其ノ後更ニ別電第四号ノ通り当国ノ新聞論調アリ御参考迄電報ス

殿下今回ノ御来訪ヲ衷心ヨリ歓迎スル事ハ日蘭兩國旧来ノ關係ヲ叙述シ此ノ關係ガ今後愈々發展セン事ヲ切望スル事
和蘭及蘭領印度ニ於ケル対日危惧心ハ漸次一掃サレツツアル事及中立国中和蘭ノミガ殿下ノ御来訪ヲ恭ウシタル事ヲ
光榮トスルノ念ハ五新聞ヲ通ジテ毫モ変リ無シ依テ各新聞
中特ニ目立チタル点ノミ要訳ノ上別電ヲ以テ電報ス
外務大臣へ転電セリ

(別電)

六月二十四日在蘭国田付公使宛内田外務大臣宛電報第六一号

皇太子殿下御訪蘭ニ関スル蘭国新聞論調報告ノ件

第六一号

本官発在仏大使宛電報貴大臣御参考迄ニ転電ス

第四四号別電

珍田伯へ

六月十四日 Nieuwe Courant

蘭領印度ハ地理的關係ヨリ日本ト善隣關係保持ノ必要ヨリ此ノ点ニ於テ已ニ殿下今回ノ御訪問ハ深甚ノ意味ヲ要スルモノナルベク特ニ日本将来ノ皇帝タルベキ皇太子ガ蘭国ト親シク個人的關係ヲ結バルル事蘭国ニトリテハ特別ナル意義ヲ有スルモノト言フベク両国民從來ノ協力ハ将来極東洋ニ於ケル平和維持ノタメ傾注セラレ其ノ美果ヲ收ムルニ至ラン事ヲ切望スト論ゼリ

同日 Vaderland

蘭国艦隊ガ日本ニテ受ケタル如キ熱心ノ歡迎ヲ殿下ニ対シ当国ニ於テナシ得ル事ハ疑ヒ無キ能ハザルモ両国ノ善良ナル關係ヲ切望スル念ハ決シテ日本人ニ譲ラズ吾人ハ日本ノ

華麗ナル美術並ニ文明ヲ樂シミ西洋ニ優ルモノアル東洋文明ノ指導者ヲ崇拜スルニ至レリトテ大イニ日本ヲ称揚セリ
Nieuwe Rotterdamse Courant
同日一般庶民ト接触スル事少ナカリシ皇儲ガ異国訪問ニ依リ得ル処豊富ナルベキハ言ヲ待タズ日本ト同盟国ナル英国ニ於テハ之ニ依リテ其ノ外交政策ヲ支持セント試ムベシト論ゼリ

同日 Algemeen Handelsblad

日本ノ美術及ビ其ノ国民性ヲ陳ベ日本人ハ西洋人ヨリモ優秀ナリト称揚シ日蘭兩國ハ蘭領印度ニ依リ善隣ノ關係アルガ故ニ隣邦ノ代表トシテ殿下ヲ歓迎ス現今國際聯盟ハ尚各人種間ノ善良關係ヲ保持増進センタメニハ前途多大ノ努力ヲ要スル時ニ当リ殿下ノ御訪問ハ其ノ価値更ニ加倍スルモノナリト論ゼリ

六月十五日 Het Nieuws Van den Dag

一九二〇年時ノ殖民大臣ガ蘭領印度ニ於テ日(不明)ナシト云ヘル事大阪毎日ガ日本ハ侵略的ニ非ズ単ニ新シキ市場ヲ求ムルモノナリトノ社説等ヲ引キ恐日思想ノ謂レ無キ事ヲ陳ベ近時日蘭兩國親善關係ノ肝要ナル事ヲ説キ更ニ政治

上日本ニ関シ國際聯盟精神ノ信仰者各國民ノ權利擁護者タルヲ望ムモ之亦期待ニ背クモノニアラザルベシ此ノ場合 Grotius ヲ生ミタル蘭國ハ必ラズヤ日本ニ加担スルナルベシト結ベリ
外務大臣ヘ転電セリ

六一六 六月二十四日 珍田供奉長(メッツ滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下アルザス方面戦線御視察ノ件

(六月三十日接受)

皇太子殿下ニハ予定ノ通り六月二十二日夜巴里御出発「アルザス」方面ノ戦線御視察ニ向ハセラレ同二十三日午前一時「ストラスブルグ」御着同地駐在「アルザス、ローレン」總督ノ出迎ヲ受ケサセラレ同總督及ビ巴里ヨリ殿下ニ同行セル「ペタン」元帥ノ案内ニテ同地郊外ノ練兵場ニ於テ歩騎砲兵ノ練兵御見物後總督官邸ノ午餐ニ臨マル午後同ジク總督及ビ元帥先導ノモトニ同地大学御觀覽後小艇ニテ「ライン」河ヲ下ラレ近郊御見物夕刻「ストラスブルグ」御発同夜九時半無事「メッツ」ニ御到着仏国政府ノ提供セ

以上何レモ珍田伯ニ電報済尚伊国皇帝陛下ヨリ皇太子殿下ニ対シ「若シ殿下ニ於テ羅馬ニ非公式滞在中モ尚引続キ「クイリナーレ」王宮ニ御滞留アラセラルコトヲ御受諾相成ラバ甚ダ欣幸トス」ベキ旨申出ラレタルニ付早速右ニ対スル殿下ノ思召ヲ伺ヒ度御安全ノ点ヨリ拝察シ殿下ニ於テ右皇帝陛下ノ申出ヲ御受ケ遊サルル様致度旨本使ノ意見ヲ附シテ供奉長ニ電報シ置キタリ尚供奉員全部ノ旅館乗物等全部伊国政府ニ於テ配慮スル趣又艦隊ノ将校兵卒ノ羅馬見学等ニ付テハ伊国海軍省側ニ於テ相当歓待ノ準備中ナリ

六一八 六月二十八日 在仏国松田代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下伊国御訪問予定ノ確定セル分報告

ノ件

第九七四号 (六月二十九日接受)

在伊大使発本使宛電報第九八号
珍田伯ヘ左ノ通り

殿下御来伊ニ関シ其後確定セシ「プログラム」左ノ通り
十二日午前七時「ナポリ」御出発同十一時又ハ十一時三十分羅馬御着停車場ニ御出迎ノ伊国皇帝陛下ト御同乗「クイ

ル旅館ニ入ラセラレタリ
「ストラスブルグ」市ニ於テハ殿下御通過ノ沿道各家屋日仏国旗ヲ掲揚シ民衆群ヲ為シ歓呼シテ殿下ヲ歓迎セリ
右宮内大臣ヘ伝達ヲ請フ

六一七 六月二十五日 在伊國聯合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ伊国御訪問ニ関スル予定ニ付報告ノ件

第一八一号 (六月二十六日授受)

皇太子殿下伊国御訪問ニ関シ伊国側ト打合セノ結果今日迄決定セル「プログラム」不取敢左ノ通り申進ス
七月十一日「ナポリ」御着接伴員ノ御出迎ヲ受ケサセラレ御召艦内ニ御一泊ノ上翌十二日朝七時同港御出発宮廷列車ニテ同十一時羅馬御着停車場ニ御出迎ノ伊国皇帝陛下ト御同乗「クイリナーレ」王宮ニ赴カセラレ陛下ノ御催シニ係ル非公式午餐ニ御臨席(多分同夜公式ノ宮中御宴会アル筈)十二日ヨリ十四日迄三日間公式ニ同王宮ニ御滞在十五十六両日ハ非公式ニ御滞在十七日宮廷列車ニテ羅馬御出発同日「ナポリ」御着十八日同港御出発ノ事ト相成ルベシ

リナーレ」王宮ニ赴カセラレ陛下ノ催サルル非公式午餐ニ御臨席(多分同夜公式ノ宮中御宴会アル筈)
十二日ヨリ十四日迄三日間公式ニ同王宮ニ御滞在
十五十六両日ハ非公式ニ御滞在
十七日宮廷列車ニテ羅馬御出発同日「ナポリ」御着
十八日御出発ノコトト相成ルヘク
尚伊国皇帝陛下ヨリ皇太子殿下ニ対セラレ「若シ殿下ニ於テ羅馬ニ非公式御滞在中モ尚引続キ「クイリナーレ」王宮ニ御滞留アラセラルコトヲ御受諾相成ラハ甚ダ欣幸トス」トノ御旨ヲ仰出シアリタリ

就テハ左記ノ諸点ニ関シ折返シ何分ノ儀御回電アリタシ
一、「クイリナーレ」王宮ニハ両殿下以外ニ尚供奉員六名迄ノ設備アル趣ナル所右王宮滞在ノ供奉員ハ巴里ノ例ニ準シ入江、土屋、及川、浜田、松井及福田ノ六氏ト心得可然ヤ尚右ノ外従者若干名ニ対スル設備アル趣ナルニ付テハ当該従者ノ人名御回電アリタシ

二、非公式御滞在中モ引続キ王宮ニ御滞在ノコトニ関スル伊国皇帝陛下ノ御申出ハ御安全ノ点ヨリト拝察シ殿下ニ於テ御受諾相成ル様致タキモ此点如何ニ取計フヘキヤ

三、伊国勲章ニ関シ皇太子殿下ハ末々御所持ナキモ閑院宮殿下ハ既ニ「アヌンチャター」ヲ御所持ノコトト拝察ス右相違ナキヤ

四、艦隊側ヨリ殿下ニ扈從シ宮廷列車ニテ「ナポリ」ヨリ羅馬ニ來ルモノアリヤ及若シ有リトセハ其人名御回電アリタシ

「プログラム」全部ハ兩三日中ニ確定ノ模様ニ付直ニ電報スヘシ供奉員全部ノ旅館及乗物ハ再三貴意ノアル所ヲ申出タルニ係ラス全部先方ニテ其経費ヲ負担スヘシトノコトナリ尚本使ヨリ外務大臣ニ対シ今日迄確定ノ「プログラム」ヲ不取敢電報シ置キタリ

六一九 六月三十日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ソルボンヌ大学等御見学ノ件

第一〇〇二号 (七月二日接受)

珍田伯ヨリ六月二十八日午前「サンクルー」万国度量衡事務局御参観午後三時「ソルボンヌ」大学へ台臨アラセラル校門ニテ「アッペール」総長以下大学側ノ御出迎受ケサセラレ直ニ「サロン」ニ入御総長ノ歓迎ノ辞ニ対シ一場ノ御

答辞アリ別室ニテ茶菓ノ餐心ヲ受ケサセラレタル後総長ノ御案内ニテ大講堂図書館研究室等ヲ御参観アラセラレ次テ礼拝堂「シヤペル」ニ於テ大学出身戦死者記念碑前ニ花環ヲ掲ケラレタリ

同礼拝堂ニハ「カルヂナル、リシユリユ」ノ墳墓安置セラレアリ同所ニモ成ラセラレ種々総長ノ説明ヲ御聴取ノ上午後四時御帰還アラセラル

六二〇 七月一日 在蘭国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下蘭国御滞在中ノ御動靜ニ関シ報告

ノ件

公第三三号 (八月二十五日接受)

大正十年七月一日

在蘭

特命全權公使 田付 七太(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東宮殿下蘭国御滞在中御動靜經過報告ノ件

本件報告別冊一部差進候間御査閲相成度此段申進候 敬具

東宮殿下蘭国御滞在中御動靜經過

六月十五日東宮殿下御入蘭ニツキ本使ハ奉迎ノ為メ同日朝二見書記官並ニ通訳トシテ水田書記生及島田留学生帯同蘭白国境駅「ローゼンダール」迄出張此日幸ニ数日来ノ曇天ハ俄ニ好晴ニ變ゼリ停車場ニ於テ蘭国側接伴官海軍中將「ブライスワイリ、リス」海軍大佐「スロイス」陸軍騎兵大佐「ヘームストラ」男(閑院宮殿下接伴官)及陸軍中尉「サボルニン、ローマン」諸氏ト会同一同大礼服ニテ御迎へ申上ぐ午後二時七分殿下御一行ハ(兩殿下以下供奉員全部大礼服)予テ白邦迄差廻シ置カレタル蘭国宮廷列車ニテ御到着アラセラレ本使ハ直ニ御召列車ニ伺候シ御機嫌ヲ奉伺シタル上蘭国接伴官ヲ兩殿下ニ御紹介申上ぐ十分間ノ停車場中殿下ハ「プラットホーム」ニ下リ立タセラレ新聞雜誌写真班ニ撮影ヲ許サレ午後二時十七分一同御召列車ニ陪乘同地ヲ発シ「ロツテルダム」海牙經由「アムステルダム」ニ向フ汽車「アムステルダム」市ニ近ゾク時二十一発ノ皇

礼砲殷々タルヲ聞ク午後五時「アムステルダム」中央停車場ニ着スルヤ駅内ニアリタル蘭国軍樂隊ハ我国歌ヲ奏ス皇配殿下ハ海軍中將ノ大礼装ニテ停車場迄御出迎アリ東宮殿下及閑院宮殿下ト御挨拶ノ上三殿下ハ直ニ「プラットホー

ム」ニ整列シタル堵列兵ヲ閱兵セラレ終ツテ皇配殿下ハ御出迎申上ゲタル蘭国外務大臣以下宮中府中ノ高官「アムステルダム」市高級吏員及「ロツテルダム」帝国名誉領事「デ、ヨング」同副領事「ファン、フリート」ヲ兩殿下ニ御紹介セラレ皇太子殿下ハ亦供奉員ヲ皇配殿下ニ御紹介アラセラレ尚同時ニ「アムステルダム」帝国名誉領事「ベッカー」等ニモ拜謁握手ヲ賜フ途中迄御出迎セザリシ当館々員並ニ留学生等ハ全部「アムステルダム」停車場ニ於テ奉迎セリ

東宮殿下ハ皇配殿下ト六頭立第一公式馬車ニ御同乗珍田伯陪乘第二馬車ニハ閑院宮殿下接伴官「ブライスワイリ、リス」中將陪乘前後ハ儀仗兵警護ノ下ニ直ニ「アムステルダム」王宮ニ向ハレ五時二十分同王宮ニ御着停車場王宮間途筋ハ奉迎ノ一般民衆ヲ以テ充サレ殆ド立錫ノ地ナク御馬車通過スルヲ見ルヤ盛ニ声ヲ放チテ之ヲ迎フ殿下ハ閑院宮殿下及皇配殿下ト共ニ彼我兩國武官ヲ從ヘ王宮前ニ整列シタル堵列兵ヲ閱兵セラレタル後王宮ニ進マル皇帝陛下ハ王宮階上入口ニテ殿下ヲ迎接セラレ兩殿下ニ御挨拶後陛下ハ殿下ニ近待ノ高官ヲ御紹介アリ殿下亦陛下ニ供奉員ヲ御紹介

アリタル後陛下ハ東宮殿下ノ御手ヲ執ラレ閑院宮殿下ト共ニ王宮広場ニ面シタル「ヴェランダ」ニ出御同広場ニ麿集セル一般奉迎民衆ニ御会釈ヲ賜ハリ民衆ハ歓呼ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ当夜ハ東宮殿下及閑院宮殿下並ニ供奉員中竹下中將山本大佐及土屋待從ハ王宮止宿ノコトトナリ其他ノ供奉員及本使等ハ一応宿泊所タル「ブラックス、ゾーレン、ホテル」ニ引キ取ル

十五日夜ハ午後八時ヨリ「アムステルダム」王宮大会堂ニテ「ディネ、ドガラ」(皇帝陛下及皇配殿下御主催)アリ東宮閑院兩殿下御台臨珍田伯以下供奉員全部本使以下公使館高等官全部及在「アムステルダム」帝国内名譽領事列席ス蘭國側ハ政府各大臣宮内高官列席シ又當國駐劄各國公使館長モ招宴セラレ参會者男子ノミニテ婦人ハ僅ニ陛下ノ「ダーム、ドノール」三名ノミニテ全部合計百二名ナリ陛下ハ自ら皇太子殿下ノ御手ヲ取ラレ宴席ニ御誘導宴央ニシテ皇帝陛下ハ左ノ如キ歡迎ノ御挨拶アリ

朕ノ國都ニ殿下ヲ迎フルハ朕ノ甚ダ欣ブ所ニシテ蘭國々民モ亦朕ト共ニ殿下ノ來訪ヲ深ク感ズル所ナリ昨年蘭國東印度艦隊ガ貴國ヲ訪問シテ帝國政府及日本國民ヨリ熱

敦睦ヲ加ヘ彼我ノ交通ハ益々頻繁ト為リ殊ニ況ンヤ陛下治世ノ下ニ益々進歩發達ヲ為シツツアル極東蘭領印度ト我國トノ關係ハ兩國善隣關係ヲシテ益々密接ナラシムル次第デアリマス今ヤ遠ク來テ陛下ノ美ナル國土ヲ踏ミ多幸ナル民情ヲ視察スルノ機會ヲ得タルハ歡喜ノ至リデアリマス余ハ永ク此行ヲ記念シ日蘭兩國交情ノ益々深厚ナランコトヲ冀フ所デアリマス

茲ニ盃ヲ舉ゲ恭シク陛下ノ厚キ寵遇ヲ感謝シ陛下ノ万歳ヲ祝シ併テ皇室ノ隆盛ヲ祈リマス

(陛下ノ御挨拶ハ蘭語(別紙甲)^(省略)ヲ以テナサレ殿下ノ御答辭ハ邦語ヲ以テナサレ何レモ他國語ノ通訳ヲ附セズ但シ陛下ノ御挨拶ノ仏訳(別紙甲)^(省略)ノ二)及邦訳ハ已ニ數日前本使ノ手ヲ經テ殿下ノ台覽ニ供シ又殿下ノ御挨拶仏訳(別紙乙)^(省略)モ前以テ當國外務當局ノ手ヲ經テ陛下ニ差出シ置キタリ)

右陛下ノ御乾盃ニ際シ樂隊ハ我國歌ヲ奏シ又東宮殿下ノ御乾盃ニ際シテハ蘭國々歌ヲ奏セリ宴會中山本大佐ハ陛下ト殿下ノ後方ニ直立御通弁申上グ宴終リテ別室ニ退キ珈琲ヲ喫ス珈琲中本使ハ列席蘭國高官及外交団ヲ東宮殿下ニ御引

誠ノ歡迎ヲ受ケタル後今茲ニ殿下ヲ迎フルニ當リ殿下ノ來訪ハ數百年ニ亘リ曾テ渝ハルコトナカリシ兩國關係ニ依リ成果ヲ得タル誠意友情ノ新シキ一ノ表章トシテ之ヲ迎ヘザルヲ得ズ

殿下ノ聖訓ナル皇祖父ノ賢明ニシテ榮譽アル治世ノ下ニ肇メラレタル光輝アル日本史上ノ昭代ハ其賜モノノ一トシテ曾テ出島ニ於テ結バレタル關係ヲシテ益増進發達セシムルコトヲ得セシメタリ而テ朕ハ之ニ依リ確信ス殿下ノ朕ノ國土ニ止マラルルニ當リ日蘭兩國ノ交情ガ一層ノ敦睦ヲ加フルニ与ッテ大ナル力アルベキヲ

朕ハ茲ニ切ニ天皇陛下ノ安康ヲ祈ルト共ニ殿下ノ為メニ乾盃ス

之ニ對シテ殿下ハ下記ノ答辭ヲ述ベラル

予ハ陛下ノ只今予ニ賜ハリタル御懇切ナル御言葉ニ對シ感謝ニ堪ヘマセヌ我國ニ於ケル西洋文明ノ先導者トシテ數世紀ニ亘リ日本上下ノ間ニ深キ印象ヲ与ヘタル蘭國ノ首都ニ於テ親シク陛下ニ謁シ得タルハ予ノ最モ欣幸トスル所デアリマス

我皇祖父開國ノ國是ヲ定メラレテ以來日蘭ノ國交ハ益々

キ合ハセ申上ゲ殿下ハ各人ニ對シ短時間ノ御會話ヲ賜ハリ一同感激少カラズ殿下ニ於カセラレテモ至極御満足ニ在ラセラレタル様拜シタリ十一時頃皇帝陛下ハ東宮殿下ノ御手ヲ取ラレ閑院宮殿下及皇配殿下ト共ニ御退席來客從テ漸次王宮ヲ拜辭ス

十六日ハ午前十時供奉員一同及本使等王宮ニ到リ十時半東宮殿下閑院宮殿下及皇配殿下以下供奉員及本使等一同「フロックコート」絹帽接伴官一同ハ軍服ニテ自動車二分乗王宮ヲ出デ「アッセル」金剛石細工場ニ至ル自動車走程約三十分沿道兩側ハ奉迎ノ民衆ヲ以テ埋リ御召自動車及供奉員等ノ乗用自動車ノ通過スルヲ見ルヤ民衆帽ヲ舉ゲ手ヲ振り歡声止ムトキナシ就中最モ人目ヲ惹キタルハ拜觀者中常ニ前列ニ堵列セル幾千ト知レザル小学児童ガ無邪氣ニ而カモ熱誠ヲ籠メテ万歳ヲ唱ヘ手ヲ振り足ヲ踏ンデ歡迎シタルコトナリ特ニ此日近來稀ニ見ル快晴ナリシカバ群衆一層ノ數ヲ増シタルノ感アリ「アッセル」工場ニ於テハ工場所有者「アッセル」氏同工場入口ニ於テ殿下ヲ迎ヘ自ら各般説明ノ任ニ當リ場内各種機械ノ運轉及既ニ磨キ上ゲタル各種ノ金鋼石ヲ台覽ニ供ス正午頃同所ヲ出デ一同再ビ自動車ニテ

王宮ニ帰ル沿道奉迎ノ盛ナルコト来路ト異ナラズ
 十六日午後零時半王宮ニ於テ *déjeuner de famille* アリ皇
 帝陛下東宮殿下閑院宮殿下及皇配殿下ノミ同一食卓ニ着カ
 レ珍田伯以下供奉員一同接伴官及日本使等ニハ別席ニ於テ
 「マレシヤル、ド、ラ、クール」ノ食卓ニテ午餐ヲ賜フ席
 上主人役タル「マレシヤル、ド、ラ、クール」「ボレル」
 氏ノ挨拶アリ珍田伯之ニ答ヘ謝辞ヲ述べラル当日夕刻海牙
 入市ハ大礼服ノコトトナリ且ツ午後ノ更衣ノ余暇ナキヲ以
 テ一同大礼服ニテ午餐ニ列シ引続キ殿下市中御巡覽ニ扈從
 ス昼食後午後一時四十五分三殿下ニ扈從シ供奉員一同接伴
 官及日本使等自動車ニテ王宮ヨリ「アムステルダム」市中
 ヲ駆走ス自動車走程約一時間ニシテ王立美術館ニ至ル沿道
 両側民衆ノ歡迎盛ナルコト午前ニ異ナラズ美術館ニ於テハ
 各種ノ絵画及古器物等御觀覽ノ上別途ニ依リテ株式取引所
 ニ向ハル沿道ノ歡迎例ニ依リテ盛ナリ株式取引所ニ於テハ
 臨時市長「ヘルトホ」氏玄關ニテ殿下ヲ御迎ヘ申上ゲ所内
 広場ニ於テ(別紙丙号)^(省略)歡迎辞ヲ仏文ニテ朗読シ之ニ對シ
 テ殿下ハ別紙(別紙丁号)^(省略)ノ趣旨ノ御答辞ヲ邦語ニテ
 述ベラレ本使右仏文ヲ朗読シテ御通訳申上ゲタリ右式辭御

交換後殿下ハ在「アムステルダム」各國領事「アムステル
 ダム」市高級吏員市會議員及商業會議所員等ニ握手ヲ賜ヒ
 終ツテ三鞭酒及御茶ヲ召サレ同所御退出直チニ「アムステ
 ルダム」中央停車場ヨリ「ウトレヒト」經由海牙ニ向ヒ御
 出発アラセラル時ニ午後五時ナリ御發車ニ先チ殿下ハ閑院
 宮殿下及皇配殿下ト共ニ例ノ通り彼我武官ヲ從ヘ「プラッ
 トホーム」ニ整列シタル堵列兵ヲ閱兵セララル軍樂隊ハ終始
 我國歌ヲ吹奏ス

午後六時過汽車ハ海牙「スターツ」停車場ニ着ス汽車停車
 場内ニ入ラントスルヤ軍樂隊ハ先ヅ喇叭ヲ以テ本邦軍隊式
 ノ君ガ代ノ譜ヲ吹奏シ殿下「プラットホーム」ニ御下車ア
 ルヤ更メテ樂隊式我國歌ヲ吹奏ス殿下ハ停車場ニ御迎申上
 ゲタル蘭國官憲及海牙市高級吏員並ニ在「ロッテルダム」
 帝國名譽領事及副領事等ニ握手ヲ賜ヒ又「アムステルダ
 ム」停車場ニ於ケルト同様停車場ニ於ケル堵列兵ヲ閱兵セ
 ラレタル後皇配殿下ト御同列ニテ四頭立御馬車ニ召サレ海
 牙王宮ニ向ハル行列「アムステルダム」ノ時ノ如シ沿道兩
 側奉迎者密集シ極メテ敬虔ノ態度ヲ以テ御行列ヲ迎フ馬車
 王宮ニ達シ殿下ハ又王宮前ニ整列シタル堵列兵ヲ閱兵セラ

レ王宮ニ入ラセラル一同階上迄御伴シ王宮へ御止宿ノ我兩
 殿下ニ隨從スベキ竹下中將山本大佐及土屋侍從ノ外ハ供奉
 員一同宮廷ヨリ指定ノ旅館「ホテル、デ、ザンド」ニ引キ
 取ル

十六日午後七時半東宮殿下並ニ閑院宮殿下ハ皇太后宮殿へ
 御參向皇太后陛下へ御對顔引続イテ同宮殿ニテ皇太后陛下
 御主催ノ *Dinner de famille* ニ御列席遊バサレ皇帝陛下モ
 御參列ノ様拜承ス別ニ珍田伯以下供奉員一同ハ海牙王宮
 「マレシヤル、ド、ラ、クール」ノ食卓ニ於テ晚餐ヲ賜フ
 午後十時兩殿下ハ皇配殿下御同列ニテ外務大臣「カルネベ
 ーク」氏官邸ニ於ケル同大臣主催ノ夜會ニ成ラセラル供奉
 員一同及本使以下公使館高等官之ニ列ス一同夜會服ナリ招
 待ヲ受ケタルハ各國務大臣宮中府中高官上下兩院議長ヲ始
 メ議員外交團等約五百名ヲ算ス

東宮殿下ハ外務大臣ノ御案内ニテ參集高官貴紳ニ謁ヲ賜ヒ
 單時間ノ御會話ヲ交ヘラレ又外務大臣夫人ノ御案内ニテ舞
 踏ヲ御覽アリ十一時頃王宮へ御帰還アラセラル

十七日午前九時半兩殿下及皇配殿下ハ前日ト同ジ行列ニテ
 王宮御出門供奉員及接伴員等扈從シ自動車ヲ以テ第一回平

和會議場タリシ森ノ離宮ニ成ラセラレ次デ平和宮ヲ御覽ア
 リ正午ハ兩殿下王宮ニ於テ皇配殿下御主催ノ昼食ニ御列席
 遊バサル供奉員及本使等ニハ別席ニ於テ「マレシヤル、
 ド、ラ、クール」ノ食卓ニテ午餐ヲ賜ハル食後三殿下前日
 ト同ジ行列但シ自動車ニテ「ロッテルダム」ニ向ハセラル
 供奉員一同本使等モ隨伴海牙「ロッテルダム」間沿道ノ村
 民児童等要所々々ニ參集御通過ヲ奉迎ス「ロッテルダム」
 ニ於ケル市民ノ歡迎振ハ昨ニ比シ一層盛大ヲ極メタリ當國
 新聞記者等ノ云フ所ヲ聞クニ嘗テ丁抹國王御來訪ノ際ノ如
 キ市民ニシテ全ク之ヲ知ラザルモノスラ有リシ程ナリシ由
 ナルガ今回東宮殿下御訪問ニ際シテハ殆ド全市民出デテ殿
 下ヲ迎ヘ「ロッテルダム」開市以來斯ノ如キ歡迎振ハ未ダ
 曾テ見ザリシ所ニシテ若シ強ヒテ之ヲ例エバ當國皇帝陛下
 ノ御訪問ノ際ニ比スルヲ得ベキモ夫レスラ或ハ今回ノ盛況
 ニ比シ幾分遜色ナカリシヤヲ疑ハザルヲ得ザル位ナリト云
 ヘリ以テ其一般ヲ知ルニ足ル同市ニ於テハ市長「ジニメル
 マン」氏御案内ノ下ニ艇漕俱樂部ヨリ市有汽艇ニ御乗船港
 内ヲ御見物アラセラル

供奉員接伴官及本使並ニ在「ロッテルダム」及「アムステ

ルダム」帝国名譽領事館員等御召艇ニ陪乗ス港務部汽艇一隻御召汽艇ニ先駆シ水上警察署汽艇一隻之ヲ後衛ス港内碇泊大小無数ノ船舶ハ満艦飾ヲ施シ日暖ニシテ風無ク河面波静カニ頭上亦雲影ヲ認メザル好天気陸ニ水ニ到ル処日章旗翩翻トシテ御召船ノ通過スル所歓声ヲヲ庄シテ起ルノ盛況ナリ御見物ノ途中「ウィルトン」造船所ヘ立寄ラセラレ同所長「ウィルトン」氏ノ御案内ニテ同所四万幾千噸ト云フ大浮船渠ヲ御見物後尚引続キ港内各所御覽アリタル後「ロツテルダム」市役所ニ成ラセラル此間約二時間半市役所ニ於テハ同所前ニ堵列シタル海軍水兵ヲ閱兵セラレタル後所内広間ニ於テ(別紙^{省略}戊)ノ如キ市長ノ歡迎辞ヲ受ケサセラレ之ニ対シテ殿下ハ(別紙^{省略}己)仏文ノ意味ヲ邦語ニテ述べラレ本使(別紙己)ヲ朗読シテ之ヲ御通訳申上グ式辞交換後同所ニ於テ茶ヲ喫セラレ市長ノ御紹介ニテ同市高級吏員及市議員商業會議所員等ニ謁ヲ賜ヒ終リテ御帰路ニ就カセラル本日特ニ人目ヲ惹ケルハ日本船乗組水夫ノ一隊約三十名計日章旗ヲ携ヘ堵列奉迎送セシコトニシテ港内御巡視中ハ一ノ汽艇ニ搭乘随伴セリ

十七日夜ハ七時半ヨリ海牙王宮ニ於テ皇帝陛下ヨリ晚餐ヲ海牙郊外ヲ御散策アリタリ

十八日夜ハ八時ヨリ両殿下共「スケーヴニンゲン」「パラス、ホテル」ニ於ケル本使主催ノ晚餐会ニ御台臨アラセラシル此夜蘭国皇配殿下モ御參列其他招客ハ蘭国政府各大臣宮内高官高級外務省員供奉員接伴官等主客合セテ七十名宴終ツテ晚餐ニ招待セザリシ蘭国側高官並ニ当地外交団其他總紳男女二百余名ヲ加ヘテ夜会ヲ催ス当夜当国活動写真会社「アルベール、フレール」ノ寄附ニ係ル殿下御入国以來当日朝ニ至ル迄ノ殿下御一行ノ活動写真ノ映写ハ一般來会者ノ興ヲ添ヘタリ殿下ハ主ナル來会者ニ一々御会釈ヲ賜ヒ短時間ノ御会話ヲ交ヘサセラレ殿下御自身ニ於カセラレテモ非常ニ御満足ノ御模様ヲ拝シ又一般招客ニ対シテハ深甚ナル好印象ヲ与ヘラレタリ午夜ニ至リテ両殿下ハ夫々御旅館ヘ御帰館アラセラル來客ノ全ク散シタルハ午前一時頃ナリ十九日午前中ハ両殿下共御休養東宮殿下ハ西園寺式部官以下数名御附添ノ上「スケーヴニンゲン」海岸ヲ御散歩アリ閑院宮殿下ハ福田大佐等御同伴別途ニテ「スケーヴニンゲン」海岸ヲ御散策アリタリ

同日正午東宮殿下ハ閑院宮殿下ヲ御旅館「カステール、ワ

賜フ此夜一同大礼服ヲ着用シ大綬ヲ佩ビズ參会者ハ皇帝陛下東宮閑院兩殿下当国皇太后陛下及皇配殿下以下蘭国首相外相宮内高官「ロツテルダム」市長「アムステルダム」及海牙臨時市長(夫人ナシ)供奉員一同及本使以下公使館高等官一同並ニ接伴官全部併セテ招客五十五名ナリ御食事中東宮殿下ノ御会話ハ山本大佐御通訳申上グ宴後別室ニテ暫時雜談後皇帝陛下ハ御退席アリ東宮殿下以下一同階下喫煙室ニ入り本邦ニ関スル古文書等ヲ觀覽シ十一時頃供奉員以下王宮ヲ拝辞ス

十八日朝東宮閑院兩殿下ハ皇帝陛下皇太后陛下及皇配殿下ニ御告別終ツテ同十一時頃王宮御退出東宮殿下ハ「ホテル、デ、ザント」ニ閑院宮殿下ハ「カステール、ワッセナール」ニ夫々投宿遊バサレタリ今後ハ全ク御微行ニテ接伴官等モ御暇ヲ願ヒ自動車等モ総ベテ当方ニ於テ備入ル御警備丈ハ引続キ其筋ニ於テ充分意ヲ用ヒタルハ言ヲ待タズ十八日正午東宮閑院兩殿下公使館ヘ成ラセラレ昼餐ヲ召サル珍田伯以下供奉員一同御陪食ス食後東宮殿下ハ珍田伯以下数名ノ供奉員ト供ニ自動車ニテ「アムステルダム」ニ赴カレ同地動物園ヲ御觀覽アリ閑院宮殿下ハ福田大佐御同伴

ツセナール」ニ御訪問同所ニテ御昼食ヲ共ニ遊バサル入江侍従長及本使ノミ陪食仰付ケラル

午後二時ヨリ兩殿下御同列ニテ珍田伯以下ノ供奉員並ニ本使等扈從シ閑院宮殿下御旅館附近ナル「ロツテルダム」紳商「ファン、オメルン」氏別荘ニ成ラセラレ同氏夫妻ノ御案内ニテ別荘庭園ヲ御散歩アリ在「ロツテルダム」帝国名譽領事「デ、ヨング」及副領事「ファン、フリート」兩氏モ參加ス同所ニテ茶ヲ召サレタル上両殿下共夫々御旅館ヘ御帰館遊バサル「ファン、オメルン」氏ハ「デ、ヨング」名譽領事ノ縁戚ニ当リ「ロツテルダム」市ニ於テ船舶業銀行業等ヲ營ミ当国有数ノ紳商ニシテ同氏経営ノ「ファン、オメルン」汽船会社ハ我郵船会社ノ代理店ナリ「ド、ヨング」一家ガ是レ迄日本及日本人ニ尽シタル功勞ハ頗ル顯著ナルモノアルノミナラズ將來トモ是レ等財界及社交上ニ重キヲ為スモノヲ好遇シ置クハ我國ノ利益タルベキハ疑ナキ所ニシテ幸ヒ「オメルン」氏ノ邸宅ハ幽邃閑雅ノ庭園ヲ有シ御散歩ニ適當ナルノミナラズ純粹ナル蘭国紳士ノ生活状態ヲ御覽被遊モ御一興ナルベシト存ジ特ニ御台臨ヲ仰ギタル次第ナリ午後八時ヨリ東宮殿下ハ御旅館「ホテル、デ、

ザンド」ニ於テ閑院宮殿下皇配殿下御台臨蘭国首相外相宮内高官(以上夫人同伴)接伴官供奉員及本使以下公使館高等官等二十八人ニ対シ晚餐ヲ賜フ席上別ニ乾盃辭ノ御交換ナク単ニ杯ヲ挙ゲテ互ニ御健康ヲ祝サルル丈ニ止マリタリ十一時頃皇配殿下御退出続イテ閑院宮殿下亦御旅館ニ御帰館アリ各員相次デ退席ス

二十日朝東宮殿下ハ七時十分過閑院宮殿下ハ七時五分前夫々御旅館御出発「ホーランセ」停車場ニ向ハセラル停車場ニハ外務大臣其他蘭国政府及宮内高官接伴員一同当公使館員並ニ留学生各帝国名譽領事等先着シ居リ御見送り申上グ七時三十一分蘭国宮廷列車ニ召サレ兩殿下共御機嫌至極麗ハシク御出発アリ本使ハ二見書記官及水田書記生ヲ帶同シ蘭白国境白国側停車場「エスケン」迄御見送り申上グ蘭国側接伴員一同亦同地迄御同行ス皇太子殿下ハ「エスケン」停車場ヨリ蘭国皇帝陛下ニ対シ別紙庚号^(省略)ノ御謝電ヲ発セラレタリ

以上記スル所ノ如ク殿下今回ノ蘭国御訪問ハ非常ナル御成功ニシテ将来日蘭国交ヲ裨益スル所ノ大ナルコト其如何バカリナルベキヤヲ知ラズ殊ニ蘭国ガ大戦争中ノ中立国ニシテ日本委員部ニ於テ各種協會等ヲ代表シ殿下ノ為メ歓迎会ヲ催シ度旨申込ミアリタル処殿下御滞蘭中ハ可成御静養ノ方針ニテ「プログラム」作製方兼テ珍田伯ヨリ申議ノ次第モ有之且ツ殿下御滞蘭ノ時日ハ到底右ノ申込ヲ許諾スル余裕ナカリシヲ以テ之ヲ断リタル次第ナリ
右ノ外当国警戒振リ当国人士叙勲並ニ御下賜金等ノ件ニ関シテハ更ニ別号ヲ以テ詳報スベシ

(本報告転報先 東宮供奉長珍田伯爵)

六二一 七月二日 珍田供奉長(仏国滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ヴェルダン御見学ノ件

宮内大臣へ (七月四日接受)

六月二十五日殿下ニハ早朝「メッツ」御出発九時半「ヴェルダン」御着直ニ自動車ニテ「Verux」砲台ヲ初メ第三〇四高地 Mount Fanconton 凹地附近ノ戦跡御見物「ペタン」元帥ハ一々各地ノ戦況ニ付詳細説明ノ上「ヴェルダン」包囲中仏軍司令長官トシテ備サニ辛酸ヲ嘗メタル状況並ニ兵員並ニ軍需品ノ補給其他ニ関スル各種ノ困難ニ打勝チ遂ニ最終ノ勝利ヲ博シタル実驗ヲ物語リ殿下ニ於カセラレテモ

テ殿下ノ御来訪ヲ受ケタル唯一ノ国ナルコトハ当国上下ノ非常ニ多トスル所ニシテ従来当国民一部ノ有シタル日本ニ対スル猜疑心ヲ氷解スルコトニモ与ツテ力アルベキコト言フ俟タズ況ンヤ一般国民ノ歓迎振ハ実ニ赤心ノ発露ニシテ宮中及政府筋ノ態度モ亦必ズシモ御役目的ノミトモ思ハレズ殿下御身上ノ安寧ニ関シテモ政府ハ既ニ御入国旬日以前ヨリ各警察署ニ下令シテ朝鮮人及支那人ノ取締ハ勿論邦人ニテモ身許不明ノモノハ嚴重之ヲ取締リ歐洲人ニテモ挙動如何ハシキモノニハ尾行ヲ付シ注意至ラザルナク又特ニ刑事一名ヲ巴里ニ出張セシメ兼ネテ同地ニ駐在セシメ居レル蘭国秘密探偵及我大使館ト連絡ヲ執ラシメタリ御道筋ノ警衛ノ如キ鉄道踏切りヘハ一々憲兵若シクハ巡查ヲ配シ市中御通過道筋等ヘハ正服巡查ヲ配シタル外更ニ民衆ノ間ニ多数ノ角袖ヲ混入セシメ置ケル由ナリ当国輿論ノ機関タル新聞雑誌モ亦一斉ニ社説ヲ掲ゲ或モノハ殿下ノ御肖像ヲ刷リ出シ日蘭国交ノ過去ヲ論ジ其将来ヲ祝福セルハ大要既ニ往電第六一号ヲ以テ彙報ノ通りナルモ更ニ別信ヲ以テ詳細報告スベシ

将又今回皇太子殿下御来訪ヲ機トシ蘭国事情海外普及協會

深ク御印象ヲ得ラレタルヤニ拝察セラレタリ過クル三日間「アルサス」方面御觀覽中「ペタン」元帥及其幕僚ハ勿論「アルサス、ローレン」總督並ニ御巡視各地駐在ノ軍管区司令官其他ノ歓迎ニ於テハ全力ヲ挙ケテ殿下ノ歓待ニ努メタル外各地住民モ殿下ノ御来訪ヲ多トシ誠意ヲ披瀝シ殿下ヲ歓迎シタルコトハ本官ノ最モ欣快ニ存スル所ナリ

六二二 七月七日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下巴里御出発ノ模様報告ノ件

第一〇二四号 (七月九日接受)

珍田伯ヨリ

七日午前八時二十分御出門同シク四十分「ガール、ド、リヨン」著先著ノ侍従武官長「ラッソン」(大統領代理)儀式局長「フリーキエル」(総理大臣兼外務大臣代理)陸軍大臣「バルト」海軍大臣「ギスト」司法大臣「ボンエヴェー」在仏伊国大使「ポニン、ロンガール」「ペタン」元帥「ラカーズ」提督等ニ握手ヲ賜ヒ親シク御別レノ御言葉ヲ述ヘサセラレ特ニ御見送りノ東伏見宮殿下ニ対シテハ懇ロナル御挨拶ヲ換ハセ給フ去ル五月三十日「ハーヴル」御

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六二三 六二四

着以來月余ノ御滞在期間中有ラユル方面ヲ御見學寧日ナキ御活動ヲ遊ハサレタルニモ拘ハラズ更ニ御疲労ノ御模様ナク益々御勇健ノ体ニ拝察シタリ

斯克テ八時五十分本使、芦田、沢田両書記官仏國側接伴員並供奉員一同ヲ隨ヘサセラレ仏國朝野ノ人士並在巴里日本人一同ノ奉送裡ニ特別列車ニテ御機嫌麗ハシク「ツローン」ヘ向ケ御出發遊ハサル尚途中里昂、馬耳塞ニテ在留民一同並仏國官憲ノ奉迎ヲ受ケサセラレ午後十時「ツローン」御着八日ハ同地御滞在九日「ツローン」御發港十一日「ナール」御着ノ予定

伊太利ヘ転電セリ

六二三 七月七日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下告別ノ為仏國大統領ヲ御訪問ノ件

第一〇二六号 (七月九日接受)

珍田伯ヨリ

東宮殿下ハ六日午後閑院宮殿下ト共ニ珍田及石井ヲ帶同セラレ大統領ヲ告別ノ為御訪問アリ親シク御物語りノ後懇懃ナル御告別ノ辞ヲ換サレ御帰館遊ハサル大統領ノ答訪ハ辞

ナポリニ於ケル皇太子殿下迎接ノ模様報告ノ

件

第一九九号 (七月十五日接受)

皇太子殿下御出迎ノ為本使十日堀田書記官井上書記生ヲ伴ヒ「ナポリ」ニ出張ス

十一日午前八時三十分御召艦隊ハ伊國接伴艦隊礼砲並ニ登舷礼ノ裡ニ御無事入港召艦ノ繫留ヲ俟ッテ本使九時半大使館附両武官堀田及名譽領事ヲ隨ヘテ伺候ス殿下及閑院宮殿下共何等御疲労ノ体無ク御機嫌麗ハシク拜セリ同十一時羅馬ヨリ派遣セラレタル伊國接伴官待從武官海軍中將 Bis-caretti ハ皇帝ノ名ニ於テ御歡迎ノ辞ヲ申上テ続イテ Duc Spoleto 殿下 (Duc d'Asosta 親王ノ王子) 御來訪アリ Aasia 親王妃ノ御挨拶ヲ伝ヘラル同三十分「ナポリ」鎮守府司令長官 Del Bono 中將ハ接伴艦隊司令長官 Nicastro 少將又鎮守府參謀長 Acton 中將ヲ隨ヘテ伺候ス同四十五分第十軍團長陸軍中將 Allrici 師團長陸軍中將 Porta 伺候ス正午「ナポリ」知事 Pesce 及同市長 Gernicca 伺候ス艦内御昼食後午後二時殿下ニハ閑院宮殿下隨員一同ト共ニ伊國驅逐艇ニテ Capri 島ヲ御見物アリ更ニ「ボート」

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六二七

六二五 六二六

退アラセラル

六二四 七月十二日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下閑院宮殿下ナポリ御安着ノ件

(七月十五日接受)

皇太子殿下閑院宮殿下十一日午前八時三十分「ネーブルス」ニ御安着遊ハサレタリ

六二五 七月十二日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ローマ御安着ノ件

第一九八号 至急 (七月十五日接受)

皇太子殿下並ニ閑院宮殿下ニハ二十二日午前六時二十五分「ナポリ」御出發同十一時羅馬御着停車場ニテ伊國皇帝陛下「アオスタ」親王殿下及ビ總理大臣外務大臣其他ノ文武官ノ御出迎ヲ受ケサセラレ皇太子殿下ニハ皇帝陛下ト御同乘閑院宮殿下ニハ「アオスタ」殿下ト御同乘盛ナル市民ノ歡迎裡ニ御機嫌麗ハシク Quirinale 王宮ニ御着アラセラレタリ

六二六 七月十三日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ニ御移乘 Grata Azurra ヲ親シク御覽アラセラル同五時半 Daosta 親王妃殿下御來訪ス本使並ニ大使館附陸海軍兩武官ニ御陪食仰附ケラレ同夜ハ艦内ニ御宿泊遊バサル

六二七 七月十四日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ナポリヨリ羅馬ニ御安着並伊國皇室及同國民ノ歡迎振ニ関スル件

別電 同日在伊國落合大使宛内田外務大臣宛電報第一〇二号

晚餐會ニ於ケル伊國皇帝陛下ノ御歡迎辭

二 同右電報第二〇三号

晚餐會ニ於ケル皇太子殿下ノ御答辭

第二〇一号 (七月十六日接受)

七月十二日皇太子殿下並閑院宮殿下ニハ供奉員艦隊司令長官等ヲ從ヘ午前五時五十分御離艦同六時鎮守府波止場ニ御上陸 Bisartti 中將以下ノ接伴官並本使堀田書記官井上書記生供奉ニ列シ同六時二十五分鎮守府構内ヨリ宮廷列車ニテ Del Bono 司令長官「ナポリ」知事「ナポリ」市長其他ノ地方文武官及ビ儀仗兵奏樂敬礼裡ニ御出發同十一時二

六三三

十分羅馬ニ御安着アラセラレタリ羅馬迄鉄道沿線ニ護衛兵配置セラレ主要停車場ニハ儀仗兵堵列シ我が国歌ヲ奏シテ敬礼ヲ表セリ羅馬停車場ニハ伊國皇帝陛下及ビ「アオスタ」親王殿下親シク御出迎ヘアリ又總理大臣各省大臣 *Dias* 陸軍大將 *Reid* 海軍大將上院議長下院副議長其ノ他ノ文武官及ビ當館員並在留邦人奉迎ス殿下ニハ構内堵列ノ儀仗兵ヲ閱兵セラレ後儀仗兵ヲ整ヘラレ殿下ニハ皇帝ト御同乘院宮殿下ニハ「アオスタ」親王ト御同乘供奉員一同官廷馬車ニテ近衛騎兵ニ衛ラレ「キリナル」王宮ニ向ハセラレ停車場前ノ *Esda* 広場ニ於テハ特ニ鹵簿ヲ止メサセラレ羅馬市長ノ市民ヲ代表シテノ歡迎ノ辞ヲ受ケサセラル沿道一帶ニ儀仗兵堵列奏樂敬礼裡ニ群集ノ歡呼ノ内ニ王宮ニ入ラセラレタリ

鹵簿王宮ニ入ルヤ王宮前ニ集レル数千ノ群集ハ歡呼喝采シテ歡迎シ奉リ殿下ニハ皇帝陛下ト共ニ階上ノ *Veranda* ニ出デ歡呼ヲ御受ケ遊バサル正午宮中ニ於テ皇帝陛下ニハ皇太子殿下閑院宮殿下ト午餐(非公式)ヲ共ニセラレ供奉員一同小栗司令長官及艦隊參謀長兩艦長並ニ本使モ亦御陪食ヲ仰セツケラル

性独創的ニシテ且ツコンセイノ美アル日本ノ芸術日本ガ短日月ニ近世の活事業ノ各方面ニ於テ為シ得タル進歩ヲ知り且ツ嘆美スル伊太利ハ日本ノ陸海軍ガ武勇ノ聞エアル古來ノ伝統ニ忠実ニ自由ト權利トノ勝利ノ為ニ共同戦役ニ寄セタル有効ナル貢獻ヲ感謝スルモノナリ日本ト等シク戦勝ノ裡ニ大戦争ヲ終ヘタル伊太利ハ全世界ニ平和ニシテ有益ナル情誼ヲ發展セシメンコトヲ切望シ日本ノ大國家ヨリ此恢復ノ事業ニ貴キ協力ヲ期待シ得ベキヲ疑ハズ皇太子殿下閑院宮殿下及殿下ニ随伴セラルル其他ノ人々ガ伊太利訪問ノ樂シキ思出ヲ忘ラレザランコトヲ祈リツツ天皇陛下皇后陛下皇太子殿下裕仁殿下ノ為ニ盃ヲ挙ゲ尚日本皇室ノ幸福ト光榮トノ為ニ及日本ノ繁榮ト威武トノ為ニ滿腔ノ慶賀ノ意ヲ表ス

(別電一)

七月十四日在伊國落合大使宛内田外務大臣宛電報第二〇三號
晚餐會ニ於ケル皇太子殿下ノ御答辭

第二〇三號

陛下余ノ到着ニ際シ余ノ為ニ与ヘラレタル陛下ノ懇篤ナル歡迎ト全伊國民ノ熱誠ノ發表トニ対シ深く感謝ス

午後四時半兩殿下ニハ隨員ヲ從ヘラレ「パンテヤン」ニ御參拜花環ヲ捧ゲラレ又 *Altare della Patria* ニ同ジク花環ヲ捧ゲラレ更ニ市内公園及動物園等ヲ御見物ノ後御帰還アラセラレタリ

午後八時三十分宮中ニ於テ公式ノ晚餐會アリ伊國側ハ「アオスタ」親王殿下ヲ始メ總理、外務、其ノ他各省大臣文武高官出席本邦側ヨリハ閑院宮殿下ヲ始メ供奉員高等官一同小栗司令長官艦隊參謀長兩艦長並本使及館員高等官一同出席皇帝陛下ハ別電第二〇二號ノ歡迎ノ辞ヲ述ベサセラレ之ニ対シ皇太子殿下ヨリ別電第二〇三號ノ御答辭アリタリ

(別電一)

七月十四日在伊國落合大使宛内田外務大臣宛電報第二〇二號
晚餐會ニ於ケル伊國皇帝陛下ノ御歡迎辭

第二〇二號

皇太子殿下ノ懇切ナル御訪問ヲ謝シ殿下ガ首府ニ御安着セラレタルヲ滿腔ノ歡喜ヲ以テ祝賀ス幾千年ノ血統ヲ継ゲル殿下ニ深厚ナル歡迎ノ意ヲ表スルト共ニ日伊二國ノ人民並ニ日伊兩國皇室ノ間ニ存スル堅実ナル友誼ノ向上ヲ想起スルコトハ特ニ喜ビトスル所ナリ大日本國民ノ卓越セル國民

歴史ニ文芸ニ又文明ニ赫々タル此ノ國ヲ訪フコトヲ得タルハ余ノ衷心ヨリ喜トスル所ナリ
陛下陛下ノ父祖並皇室カ常ニ民ノ幸福ヲ實現スルニ汲々タラセラルル御美德ハ深く感佩スル所ニシテ兩國皇室並兩國家ノ間ノ交誼ノ日ヲ追フテ強固トナルハ余ノ喜ニ堪ヘザル所ナリ

祖國ノ發展ト改善トノ事業ノ為ニ陛下ノ民ガ孜々トシテ努力スルヲ見余ハ熱心ナル讚歎ノ辞ヲ禁ズル能ハズ
最近ノ大戦役ニ際シ伊太利ト日本トガ相携ヘテ戦ヒ遂ニ共ニ戦勝國タルヲ得タル如ク今ヤ兩國ハ光輝アル同一ノ目的タル平和ノ勝利ニ向ツテ再生セル人類ノ進歩ノ為ニ固キ信念ヲ以テ共ニカムルコトハ余ノ信ジテ疑ハザル所ナリ
陛下並「アオスタ」親王殿下ガ祖國ノ為ニ勇敢ニ所有危険ヲ踏ミ櫛風沐雨生死ノ艱苦ヲ分タレタルハ日本國民ノ一齊ニ欣慕措カザル所ナリ

余並閑院宮殿下及余ノ隨員ニ対シ与ヘラレタル陛下ノ優遇ヲ謝スルト共ニ茲ニ皇帝陛下皇后陛下皇太后陛下並全皇室ノ繁榮及幸福ト光榮アル伊國民ノ盛大トヲ祈リテ盃ヲ上グ

六二八 七月十五日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

羅馬ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

第二〇四号 (七月十七日接受)

七月十三日皇太子殿下ニハ閑院宮殿下ト共ニ皇帝陛下及「アオスタ」親王殿下ト御同伴午前九時三十分王宮御出門殿下ノタメ特ニ催サレタル Borghese 公園ニ於ケル陸軍各兵間ノ運動及競技等ヲ御觀覽アラセラル供奉員及本使モ亦陪席セリ

午後八時三十分当大使館ニ於テ皇帝陛下ヲ主賓トセル皇太子殿下御主催ノ晚餐会ヲ催サル伊国側ヨリハ「アオスタ」親王殿下ヲ始メ Daiz 陸軍大将同夫人 Thaon de Revel 海軍大将上院議長ト共ニ同夫人外務大臣 Della Torretta 宮内大臣 Mattei 其ノ他女官宮内高官御接待武官又日本側ヨリ閑院宮殿下ヲ始メ珍田供奉長、竹下、小栗、奈良三中將及ビ本使夫妻列席セリ

續イテ同十時ヨリ当地外交団ノ主ナルモノ伊国文武高官其ノ他知名ノ士並在留邦人ヲ招待シ本使主催ノ「レセプション」ヲ催セリ

殿下ニハ皇帝陛下ノ御案内ニテ王宮内ヲ御見物後十時御入御アラセラレタリ

六三〇 七月十五日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ伊国御訪問ハ同国内ニ好印象ヲ

与ヘタル旨並新聞紙上ノ歓迎ノ辭報告ノ件

第二〇八号 (七月十七日接受)

今回皇太子殿下伊太利御来訪ニ関シテハ当国上下ヲ挙ゲテ熱心ニ御歓迎申シツツアルハ累次ノ電報ニテ申進シタル通りナル処特ニ「ナポリ」御上陸後殿下ノ当国民ニ与ヘラレタル「メッセーヂ」ヲ始メ宮中御晚餐席上及ビ羅馬市役所等ニ於ケル御演説ハ多大ノ好印象ヲ与ヘ従来伊太利来訪ノ外国元首或ハ皇族ノ何人ト雖モ同日殿下ノ為シ給ヒタルガ如キ麗シキ御思想ヲ発表セラレタルモノ無シトノ評アリ尚当国主ナル新聞ノ歓迎ノ辭左ノ通り

「テンポ」日本東宮殿下ノ伊国御訪問ハ単ニ外国元首又ハ皇太子ノ御来訪ト同一視ス可カラズ二千年ノ歴史ヲ有スル日本皇室ハ未ダ曾テ元首或ハ皇儲ノ御外遊アラセラレザリシガ今日日本皇帝ハ旧慣ヲ打破シテ皇太子殿下ヲ歐洲ニ遣

伊国皇帝陛下及「アオスタ」親王殿下ニハ十一時頃還御アリ後両殿下ニモ御機嫌麗シク王宮ニ御帰還アラセラレタリ

六二九 七月十五日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

羅馬ニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜統報ノ件

第二〇五号 (七月十九日接受)

七月十四日午前八時半皇太子殿下閑院宮殿下ニハ供奉員一同ヲ從ヘラレ王宮御出門伊国接伴官ノ御案内ニテ Colosseo Palatio, Foro Romano, Catacomb, Caracera 浴場等ノ旧跡ヲ御見物アラセラレ同十一時御帰還正午王宮ニテ皇帝陛下ト午餐ヲ共ニセラル午後五時ヨリ羅馬市長主催ノ Reception ニ御臨場伊国皇帝陛下「アオスタ」親王又御臨席市長ノ御歓迎ノ辭ニ對シ皇太子殿下ヨリ一場ノ御挨拶アリ市長ノ御案内ニテ市庁内博物館ヲ御見物アラセラレ更ニ音楽隊ノ余興ヲ聴カセラレ後別室ニ於テ茶菓ノ饗応ヲ受ケサセラレ七時王宮ニ御帰還遊サル午後八時半兩殿下ニハ皇帝陛下並「アオスタ」親王ト晚餐ヲ共ニセラレ王宮内宿泊ノ供奉員一同並本使亦陪席ス其ノ前皇太子殿下ヨリ伊国皇帝陛下皇后陛下皇太后陛下ニ諸種御贈品ノ次第アリ晚餐後更ニ兩

ハサレタリ之日本ニトリテ一大盛事ナルト共ニ吾人歐洲諸国ニ對シテハ東西兩洋ノ結合連鎖ニ重要意義アルコトヲ示スモノナリ云々

Giornale d'Italia 歐洲ノ危機ニ際シ卒先シテ吾人ノ同盟国

トナリ海ニ陸ニ援助ヲ与ヘ最後ノ勝利ヲ分チタル日本ハ今ヤ皇太子殿下ヲ歐洲ニ送り伊太利御訪問アラセラル吾人ハ满腔ノ誠意ヲ以テ歓迎セザル可ラズ明治維新三年間ノ革命ヲ以テ吾人ノ七世紀ニ亘ル争鬪ノ後獲得シタル文明ヲ消化体得シタル日本ハ日清日露ノ戰役ニ大勝ヲ博シ遂ニ今日ニ在リテハ五大強国ノ一トシテ東洋ニ覇ヲ稱フ之一ニ先帝陛下及今上陛下ノ御盛徳ト日本獨特ノ大和魂トノ致ス所ナリト信ズ将来コノ大帝國ノ皇帝タル可キ東宮殿下ノ御外遊ハ其ノ帝王ノ学ヲ御修得セラルル上ニ貢獻スル所多大ナル可シ

Tribuna 日本東宮殿下ノ御来訪ハ共ニ二千年來ノ歴史ヲ有スル東西文明國タル日伊兩國ノ交歡ヲ増ス而シテ殿下ノ御外遊ハ世界史上ニ最モ盛大且ツ神聖ナル事実ヲ遺スモノナリ云々

Corriera della Sera

東宮殿下御來訪ヲ歡迎シタル後附言シテ曰ク日本ハ從來幾多ノ機會ニ於テ伊太利ニ好感情ヲ表シタルガ巴里講和會議中ニ於テモ同情ヲ表シタリ吾人モ亦日本ニ同情ヲ有スルモノニシテ特ニ今回東宮殿下御訪問ニ答フ可ク伊国皇太子殿下ノ日本御往訪ヲ説カントス云々

六三一 七月十六日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下西国皇帝陛下ト御会見ニ付天皇陛下ノ御礼電ニ対スル御答電写並伊国御訪問ニ際シ同国皇帝陛下ノ御親電及天皇陛下ノ御礼電写送付ノ件

附屬書一 七月七日西国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答電写

二 七月十二日伊国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

三 七月十四日天皇陛下ヨリ伊国皇帝陛下宛御礼電写

宮内大臣官房 文書課 宮発第三五七号 (七月十六日接受)
皇太子殿下仙国巴里ニ於テ西国皇帝陛下ト御会見マラマシ

formons pour le bonheur de Votre Famille prospérité du Japon et raffermissement des liens d'amitié qui heureusement existent entre nos deux pays.

ALFONSO R.

(右和訳文)

西班牙国皇帝陛下御答電

朕ハ陛下ノ懇篤ナル電報ヲ深謝ス貴国皇太子殿下ニ親シク接スルコトヲ得タルハ朕ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ朕及皇后カ衷心ヨリ貴皇室ノ福祉並貴国ノ隆昌ヲ懇禱スルト共ニ貴我兩國間ニ幸ニ現存スル友誼ノ關係ノ益々鞏固親密ヲ加フヘキコトヲ希望シテ止マサル旨ハ既ニ殿下ヨリ陛下ニ伝達セラレタル所ナラント信ス

アルフォンソ

日本国皇帝陛下

(附屬書二)

七月十二日伊国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

(七月十三日接受)

Sa Majesté l'Empereur,

Tokio.

レタルニ付天皇皇后両陛下ヨリ同国皇帝陛下へ御發送ノ御礼電ニ対スル御答電及皇太子殿下伊国御訪問アラセラレタルニ付同国皇帝陛下ヨリ天皇陛下へ寄セラレタル御親電並天皇皇后両陛下ヨリ同国皇帝陛下へ御發送ノ御礼電別紙写ノ通りニ候条此段及御通知候也

大正十年七月十六日

宮内大臣子爵 牧野 伸顕(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ右ノ趣珍田供奉長へ伝達方可然御取計相成度候

註 天皇陛下ヨリ西国皇帝陛下宛電報写省略

(附屬書一)

七月七日西国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御答電写

(七月九日接受)

Empereur,

Tokio.

Remercie profondément Votre Majesté charmant message. J'ai été enchanté faire connaissance Prince Héritier qui aura transmis Votre Majesté Impériale combien fervents sont les vœux que la Reine et Moi

Son Altesse Impériale le Prince Impérial et Son Altesse Impériale le Prince Kanin viennent d'arriver à Rome. Heureux d'en informer Votre Majesté, je tiens à Lui exprimer tout le plaisir que nous cause leur aimable visite.

Vittorio Emanuele

(右和訳文)

伊太利国皇帝陛下御親電

皇太子殿下並閑院宮殿下羅馬來着ノ旨ヲ陛下ニ報スルハ朕ノ欣喜トスル所ナリ尚両殿下ノ懇切ナル訪問カ吾人ニ多大ノ歎喜ヲ与ヘタルコトヲ茲ニ陛下ニ声明ス

ヴィットリオ、エマニエーレ

日本国皇帝陛下

(附屬書三)

七月十四日天皇陛下ヨリ伊国皇帝陛下宛御礼電写

Sa Majesté le Roi,

Rome.

Je remercie sincèrement Votre Majesté de Son aimable message; j'ai appris avec joie l'accueil si

cordial que mon fils et le Prince Kanin ont reçu de
Votre Majesté, de Sa Majesté la Reine, de Sa Majesté
la Reine Mère, de la Famille Royale et du noble
peuple italien; j'en exprime à Votre Majesté toute
ma gratitude. C'est pour le Prince Héritier une bien
heureuse fortune d'avoir pu visiter cette illustre Italie
qui joint à tous les prestiges de l'histoire et de l'art
suis persuadé que ce séjour, riche en enseignements
de toutes sortes pour le Prince, aura contribué à
resserrer encore les excellentes relations qui exis-
taient déjà entre nos deux pays; et c'est dans cette
pensée que nous renouvelons, l'Impératrice et Moi,
à Votre Majesté, à Sa Majesté la Reine et à la Famille
Royale l'assurance de notre amitié toujours fidèle.

YOSHIHITO

(右和文)

伊太利国皇帝陛下へ御礼電

朕ハ陛下ノ懇篤ナル電報ヲ深謝ス我皇子並閑院宮カ陛下ノ

皇后陛下、皇太后陛下及貴皇室並ニ貴国民ヨリ懇切ナル歡
待ヲ辱ウシタル報ニ接シ欣喜ニ堪ヘス茲ニ滿腔ノ謝意ヲ致
ス歴史及美術上ニ於テ名声赫々タルノシナラス現代強國ト
シテ活躍スル崇高ナル貴國ヲ訪問スルヲ得タルハ我皇太子
ノ多幸トスル所ナリ幾多ノ点ニ於テ皇太子カ多大ノ裨益ヲ
得タル今回ノ貴國滞在ハ貴我兩國間ニ存在スル從來ノ親善
ナル交誼ヲシテ益々鞏固親密ナラシムルニ貢獻セシ所尠カ
ラスト確信ス朕及皇后ハ此感念ヲ抱キ茲ニ陛下、皇后陛下
及貴皇室ニ對シテ不渝ノ友情ヲ表ス

大正十年七月十四日

御名

伊太利国皇帝陛下

六三二 七月十六日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下閑院宮殿下羅馬法王庁等御訪問ノ

件

第二〇九号

(七月十九日接受)

七月十五日皇太子殿下閑院宮殿下ニハ隨員ト共ニ午前九時
半王宮御出門「サン、ポーロ」「サン、デオバニー」等ノ

エート」ノ晚餐御催シアリ後活動写真ヲ御覽アラセラレタ
リ

六三四 七月十七日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下羅馬御出發ナポリニ向ハセラレタ

ル件

第二一二号

(七月十九日接受)

七月十七日皇太子殿下閑院宮殿下ニハ午前七時十分王宮御
出門同七時三十分羅馬御發車御機嫌麗シク「ナポリ」ニ向
ハセラル

停車場ニハ皇帝陛下並ニ「アオスタ」親王殿下御見送リア
ラセラレタリ本使藤井書記官ヲ帶同「ナポリ」迄御見送り
申上グ

六三五 七月十八日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ナポリ御出發ノ件

第二一三号

(七月二十一日接受)

皇太子殿下ハ閑院宮殿下ト共ニ供奉員一同ヲ從ヘサセラレ
七月十八日午後二時半御機嫌麗シク「ナポリ」ヲ御出發遊

寺院ヲ御見物遊サレ十一時半御還御午後三時大使館ニ御成
中庭ニ於テ御撮影ノ後御休憩午後四時半大使館御出門羅馬
法王御訪問法王ト御対顔ノ後同庁高官及ビ法王庁駐在外交
団ヲ御引見同六時半大使館ニ御還御法王名代「ガスパリ
イ」大僧正ノ答札ヲ受ケサセラレ同七時王宮ニ御還御アリ
御微行御滞在ト為リタル後モ王宮ニテ午餐及ヒ晚餐ニハ皇
帝陛下御出アリ

六三三 七月十七日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子閑院宮両殿下ヴァチカン博物館等御見

物ノ件

第二一一号

(七月十九日接受)

七月十六日皇太子閑院宮両殿下ニハ午前九時十五分王宮御
出門供奉員一同ヲ從ヘラレ「ヴァチカン」博物館御見物同
十一時半大使館ニ御成リ午餐ヲ召サル午後三時当館ニテ
「チェコスロヴァキ」大統領「マツサリック」ト御会見ア
リ

同四十五分当館御出門再度「ヴァチカン」博物館御見物同
六時王宮ニ御還御午後八時半王宮ニテ皇帝陛下「プライヴ

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六三三 六三四 六三五

バサレタリ

六三六 七月二十日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ナポリニ於ケル皇太子殿下御一行歓迎ノ模様

報告ノ件

第二一七号 (七月二十二日接受)

皇太子殿下及ヒ閑院宮殿下御一行(本使及藤井扈從)Zp
pol:御着ノ際同市々長ハ停車場ニテ歓迎ノ意ヲ述ヘ簡單ナ
ル御答辭アリ御出迎ノ Spoleto 親王鎮守府司令長官軍団
長知事其他ニ(脱)儀仗馬車ニテ鎮守府波止場ニ向ハセラ
レタリ

一箇師団余ノ兵ヲ道路ノ両側ニ堵列セシメテ敬意ヲ表シ市
民ハ歓呼シテ殿下ヲ奉迎セリ更ニ司令官 Del Bono 提督
ノ午餐会ニ御列席アリ「アオスタ」親王妃及ヒ「スポレッ
ト」親王兩殿下列席セラル食后水族館ヲ御見学アリ館長及
ヒ掛員ノ仔細ナル御説明アリ極メテ御満足ニ見受け奉レリ
其レヨリ自動車ニテ「ボジリポ」岬ノ風光ヲ御賞観ノ後御
帰還同夜御告別ノ晩餐会ヲ御召艦上ニ催サレ「スポレッ
ト」親王殿下鎮守府司令長官師団長知事市長名譽領事等ヲ

御招待遊ハサレ食后更ニ鎮守府司令長官ノ「レセプション」
ニ御臨席「アオスタ」親王妃殿下「スポレット」親王其他
「ナポリ」市重要ノ人々陪席セリ翌十八日午前伊國驅逐艦
ニテ「トルレアヌンシアアタ」ヨリ御上陸「ボンベイ」ヲ
御見学アリ主要ノ場所ヲ御一巡主任者ノ詳細ナル説明ヲ御
聴取アリ主任者ハ御面前ニテ發掘セシ古器物ヲ兩殿下ニ獻
上シ御還幸アリ御帰還ノ上鎮守府司令長官「セツファニ
レ」其他ヲ御案内御招待遊ハサレタル後午後二時三十分連
日ノ饗宴各所ノ御見学ニモ拘ラス兩殿下共ニ少シモ御疲労
ノ御模様ナク御機嫌麗シク接伴艦隊ノ礼砲裡ニ「ナポリ」
ヲ御出發遊ハサレタリ

六三七 七月二十二日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下ノ御訪問ニ対スル伊國新聞並伊國

ノ好意的態度ニ関シ報告ノ件

第二二五号

(七月二十四日接受)

皇太子殿下今回当國御訪問アラセラレタル事ハ当國上下ニ
頗ル好感ヲ惹起シ新聞ノ評論ハ勿論直接間接本使等ノ見聞
スル所ニ拠レバ明ニ認識セラルル所ナリ予テ日本ニ対シ好

感情ヲ有セザリシ社会主義ノ新聞紙モ御滞在中ノ模様ニ関
シ報道ヲ掲ゲ之ニ対シ不快ナル論評ヲナサザリシ次第ニテ
將來ノ国交上多大ノ効果アリシハ疑ヒ無シ若シ之ガ反対ニ
英仏白等御巡遊ノ後当國御訪問無カリシ(脱)象ヲ殘シタ
ルナラント認めラル理由アリ当國其ノ筋ノ措置等随次ノ
電報ヨリ御承知ノ通りナルガ第一ニ殿下ノ御安全ヲ保護シ
奉ル事ニ付テハ予テ其筋ニ再三特別ニ依頼シ置キタル結果
最モ周到ヲ極メ当地御滞在中宮中ヲ御宿泊トナス外大多數
ノ軍隊及警察官ヲ動員シテ当地及「ナポリ」ニ於テ御出遊
ノ都度其ノ道筋ヲ嚴重ニ警戒シ兩地間ノ鉄道ニハ御往復ト
モニ沿線ニ多數ノ兵ヲ配置シ御召列車ノ十分前ニ先驅引車
ヲ運轉シ及(脱)類似ノ嫌疑アルモノニ対シ一々注意ノ手
段ヲトリ「ナポリ」ニテハ数名ノ支那人ヲ檢束スル等ノ手
段ニ出デ又一方殿下御來着近ヅキタル頃國境ノ出入ニ特別
ノ注意ヲ払ヒ之ガタメ本邦旅行者ニシテ綿密ナル検査ヲ受
ケ迷惑シタルモノアル程ナリ

斯ル次第ナルヲ以テ一部分ノ間ニハ警戒余リニ嚴重ナラズ

ヤトノ批評ヲナスモノアリシトノコトナリ其ノ他御旅情ヲ
慰メ奉ル事ニ付テハ皇帝陛下親シク種々御配慮アラセラレ

殿下ノ御催ニカカル当館ノ晩餐会ニ皇帝臨席アリタル事ハ
近頃類例無キ事ナリト言フ公式御滞在三日間ハ勿論其ノ後
御微行ニ移リタル後モ皇帝ハ常ニ食事ヲ共ニセラレ晩餐後
余興ノ催シ等アリテ為シ得ル限りノ欲待ヲ尽サレタリ政府
ハ漸ク組織セラレタル計リニシテ總理其ノ他日多忙ヲ極
メタリシヲ以テ其ノ方面主權ノ催ハ無カリシモ出來得ル限
リ努メ居タルヲ認ム

六三八 七月二十二日 珍田供奉長(ポートサイド滞在中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下御帰朝ニ付原總理大臣及閣僚ヨリ

祝詞言上ノ件

(七月二十五日接受)

原内閣總理大臣並閣員一同ヨリ皇太子殿下歐洲諸國御巡遊
ヲ終ヘ御帰朝ノ途ニ上ラセラレタルニ付祝詞言上ノ趣申出
デタル処御満足ニ思召サレ厚ク謝辭申進メラル
右御伝達ヲ請フ

六三九 七月二十三日 牧野宮内大臣ヨリ
内田外務大臣宛

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六四〇

皇太子殿下御退伊二際シ伊国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写及天皇陛下ヨリ伊国皇帝陛下宛御答電写送付ノ件

附屬書一 七月十七日伊国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

二 七月二十日天皇陛下ヨリ伊国皇帝陛下宛御答電写

官内大臣官房 課 宮発第三七三号 (七月二十五日接受)

皇太子殿下御退伊二際シ同国皇帝陛下ヨリ天皇陛下へ寄セラレタル御親電並ニ之ニ対スル天皇皇后両陛下ノ御答電別紙写ノ通りニ候条此段及御通知候也

大正十年七月二十三日

宮内大臣子爵 牧野 伸頭 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

(附屬書一)

七月十七日伊太利国皇帝陛下ヨリ天皇陛下宛御親電写

今ヤ貴国皇太子殿下及閑院宮殿下羅馬ヲ退去セラレ惜別ニ堪ヘサルナリ朕ハ殿下ノ一行ノ帰途平安ナランコトヲ祈リテ已マス両殿下カ伊国滞在ノ短時日ニ於テ収メラレタル愉快

六四四

ナル印象ヲ齎ラセラレニコトハ朕ノ切望スル所ナリ朕ハ殿下来訪ノ厚意ヲ永遠ニ記憶シ此感情ヲ以テ茲ニ貴国皇帝及皇后両陛下ニ対シ朕及皇后ノ誠実ニシテ不渝ナル敬意ヲ表ス

ヴィットリオ、エマニユエーレ

日本国皇帝陛下

(附屬書二)

七月二十日天皇陛下ヨリ伊太利国皇帝陛下宛御答電写

皇太子及閑院宮ノ羅馬ヲ辞去シタルニ際シテ陛下ノ寄セラレタル厚情感激ニ堪ヘス貴国ニ於テ我皇子及閑院宮ノ辱ウシタル優待ハ両殿下ノ肝銘スル不磨ノ記念タルヘキコトヲ確信シテ再ヒ滿腔ノ謝意ヲ致シ尚重ネテ陛下及皇后陛下ニ対シ茲ニ朕及皇后ノ誠実ニシテ渝ラサル友情ヲ表彰ス

大正十年七月二十日

御名

伊太利国皇帝陛下

六四〇 七月二十六日

在ポルトサイド益子領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

皇太子殿下ポルトサイド御出発ノ件

第四二号 (七月二十七日接受)

皇太子閑院宮両殿下御機嫌麗シク二十二日 Port-Said 二十三日 Ismailia 二十四日 Suez 御到着二十六日午前 Aden

ニ向ケ御出発アラセラル小官 Suez ニ出張御用ヲ弁ジタリ

六四一 八月十一日 在ボンベイ縫田領事 (コロンボ出張中) ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

コロンボニ於ケル皇太子殿下ノ御動靜報告ノ件

第四号

皇太子殿下ニ於カセラレテハ九日御着港ト同時ニ総印度艦隊司令長官ノ公式訪問ヲ受ケサセラレタル後供奉員若干ヲ従ヘ同長官ヲ其ノ旗艦ニ御答訪遊バサレ次デ同日午後八時香取艦上ニ総督並令夫人ヲ始メ夫人同伴ノ重ナル英国官憲ニ日本食ノ晚餐ヲ賜ハリタリ十日午後一時小栗司令長官ノ午餐ニ御臨席遊バサレ同日午後八時艦ニ於テ主ナル文武官十七名ニ公式晚餐ヲ賜ハリ御機嫌頗ル麗ハシク内外諸員ニ御会釈遊バサレタリ

六四二 八月十一日

在ボンベイ縫田領事 (コロンボ出張中) ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六四一 六四二 六四三

六四五

皇太子殿下コロンボ御出発ノ件

第五号 (八月十二日接受)

皇太子殿下十一日午後六時御機嫌殊ニ麗シク当地御出発遊バサレタリ

六四三 八月十九日 在ボンベイ縫田領事ヨリ
内田外務大臣宛

皇太子殿下コロンボ御立寄ニ関シ報告ノ件

附屬書 右報告書

公第一九四号 (九月二十日接受)

大正十年八月十九日

在孟買

領事 縫田 榮四郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

皇太子殿下歐洲ヨリ御帰航ノ途次古倫母御立寄ニ関シ別紙ノ通り茲ニ及報告候条御査閲相成度此段申進候 敬具
皇太子殿下古倫母御立寄ニ関スル件

一、古倫母御着港前英国官憲トノ折衝

皇太子殿下歐洲ヨリ御帰航ノ途次古倫母御立寄ニ関シ同地ニ出張方貴電第三〇号御訓令ニ接シタルニ付関書記生同伴

八月一日当地出發五日古倫母ニ到着セリ先是亞丁發珍田供奉長ヨリノ電報ニヨレハ皇太子殿下今回ノ御寄港ハ全然軍艦探炭ノ為ニシテ探炭終了次第御出港ノ御予定ニシテ御滞在期間モ不定ナルニ鑑ミ錫蘭總督側ニ於テ御往航ノ際ノ如ク種々欲待ノ準備ヲ為ス如キハ御辞退アラセラルルヘキ趣拝承シ居リタル処本官古倫母到着後直ニ名譽領事代理 G. O. clore ト同道總督官邸ニ赴キ係官ト会见シタル際總督側ニ於テハ今回ノ御立寄ニ関シ

- 一、總督ハ十一日官邸ニ非公式午餐ヲ催シ殿下ヲ御招待申上ケ御食後競馬ニ御伴致度シ
- 二、殿下御着迄ニ古倫母入港ノ予定ナル英國東印度艦隊司令長官ハ殿下ニ御都合好キ一夕其旗艦ニ於テ晚餐ヲ催シ御招待申上度シ

三、御滞在中御保養上其他何事ニ限ラス御希望ノ事項仰出願度シ

ト申出タルヲ以テ本官ハ前頭珍田供奉長ヨリノ指示ニ從ヒ殿下今回ノ御寄港ハ軍艦探炭ノ為ニ外ナラズ何等特別御欲待ノ準備ハ御辞退遊ハサルル次第ナルモ御厚意ノ存スル処一応珍田供奉長ニ通シ回答ヲ得度旨ヲ答ヘ直ニ供奉長ニ發

云々ノ御予定ナルニヨリ右含ヲ以テ予メ措置方申越ノ次第アリタルニ付總督側ニ對シテハ其厚意ニ基ク諸準備ハ堅ク御辞退ノ思召ヲ通シ置クト共ニ諸般ノ打合ニ任スルト同時ニ警視總監水上警察及港務当局ト連絡ヲ執リ御警戒方ニ關シテハ特ニ水上警戒ニ重ヲ措キ英國海軍側トモ打合ノ上夫々適當ノ手段ヲ講シ御着港ヲ待上ケタリ

二、古倫母御滞在中ノ御動靜

皇太子殿下ニハ九日午前十時三十分古倫母御安着遊ハサルルヤ御警戒ノ為碇泊中ノ英國東印度艦隊司令長官ノ公式訪問ヲ受ケサセラレタル後供奉員若干ヲ隨ヘラレ同長官ヲ其旗艦 *Comus* ニ御答訪遊ハサレタリ而シテ同日午後八時御召艦上ニ總督並同夫人ヲ始メ夫人同伴ノ主ナル英國官憲ニ日本食晚餐ヲ賜ハリ(別紙甲号参照)十日ニハ午後一時小栗司令長官ノ公式午餐ニ御臨席遊ハサレ午後八時香取艦上ニ總督以下主ナル文武官十七名ヲ公式晚餐ニ御招待アラセラレ(別紙乙号参照)十一日午後六時御機嫌麗ハシク同地御出發遊ハサレタリ

三、孟買在留邦人ノ献上品

孟買在留主ナル本邦人ヲ以テ組織スル日本人協會ハ皇太子

電シ其指示ヲ乞ヒタルニ對シ

- 一、十一日總督ノ午餐ハ艦隊カ当日探炭後直ニ出港ノ予定ナルニヨリ御断リ遊ハサル
- 二、東印度艦隊司令長官晚餐ハ時日ナキ為是亦遺憾ナカラ御断リ遊ハサル
- 三、今回ノ御碇泊中ハ絶対ニ御上陸ノ余暇アラセラレサルニヨリ御慰ミ等ノ準備ニ及ハストノ返電ニ接シ尚

一、御立寄ニ關スル訪問ノ交換ハ二度目ノコトニモアリ可成儀礼ヲ省略シ副官等ヲ以テスル名刺ノ交換ニ止メラレ度御意向ナルモ殿下ニハ前回頗ル手厚キ欲待ヲ受ケサセラレタルニヨリ今回ハ艦上ニ於テ出来得ル限り總督以下ヲ接待アラセラレ度思召ニシテ

(イ)九日夕刻總督及同夫人ヲ主賓トシ夫人同伴ノ主ナル名士ヲ召サセラレ和食晚餐ヲ賜ハル

(ロ)十日鹿島ニ於テ司令長官ノ午餐アリ而殿下ニモ御臨席ノ筈

(ハ)殿下ニハ十日香取ニ於テ英國官憲十七名余ヲ晚餐ニ招待アラセラレ度思召ナリ

殿下古倫母御寄港ヲ賀シ尚一路ノ御平安ヲ祈リ奉ルト共ニ古代波斯武器一組献上方ヲ決議シ九日同港御安着ニ際シ本官ヨリ右献上ノ手續ヲ執リタル処殿下ニハ親シク御嘉納アラセラレ同協會ニ對シ難有御言葉ヲ賜ハリタリ

四、英國官憲へ謝意申入

皇太子殿下古倫母御出發後本官ハ御警戒上懇切周到ナル協力ヲ尽シタル總督始メ關係英國官憲ヲ歴訪シ夫々相当ノ謝意ヲ表スルト共ニ殘務整理ニ任シタル上十四日同地出發歸任ノ途ニ就キ十八日着孟セリ

註 別紙甲号及乙号省略

六四四 八月十九日 在新加坡吉田總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下シンガポールニ御安着ノ件

第六〇号 (八月二十日接受)

皇太子殿下ニハ閑院宮殿下初メ珍田伯以下ノ諸員ヲ從ヘサセラレ十八日午前十時當港ニ御安着遊ハサル午前十一時總督代理(總督ハ目下 High Commissioner トシテ「ヤレー」連邦州首府ニ在リ)十一時半軍司令官夫々御召艦ニ伺候ス十二時山本御用掛兩殿下御名代トシテ總督代理及軍司令官

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六四五 六四六
ヲ答訪ス午後二時殿下ニハ在留邦人ノ熱心ナル奉送裡ニ御
機嫌殊ニ麗シク本邦ヘ向ケ御出發ノ途ニ就カセラレタリ

六四五 八月二十一日 百武第三艦隊司令長官ヨリ
加藤海軍大臣宛(電報)

御召艦カムラン湾二入港ノ件

第三艦隊特百三号 (八月二十二日外務省接受)

八月二十一日午前十時三十分「カムラン」湾外ニテ新高来
会審時半入港殿下奉迎ノ為二十日柴棍ヨリ来港セル仏艦
「アルテイル」ト国旗ニ対スル礼砲交換ノ後同艦ヨリ皇礼
砲ヲ發セリ同艦長ハ本職ヲ訪問ノ後印度支那總督代理トシ
テ来着セル副官ト共ニ御召艦ニ伺候

今夜御召艦ニ於テ中少佐大尉幕僚及鹿島ノ中少佐ヘ御晚餐
ニ御陪食仰付ラル

鹿島ハ二十一日二十三日香取ハ二十二日二十四日載炭香取
載炭中殿下ニハ供奉員ヲ隨ヘ鹿島ニ御乘艦尚新高ヘモ御微
行行啓遊ハサルル予定ナリ 二十一日

六四六 八月二十四日 閑屋宮内次官ヨリ
植原外務次官宛

皇太子殿下ノ御帰朝ニ関スル予定事項内報

九月四日賢所皇靈殿神殿御参拝及日光行啓

午前九時頃 三殿御拜(御途中御馬車)

同 十時 上野駅御発車

午後一時四十五分日光駅御着車

御泊所 田母沢御用邸附属邸

九月五、六両日 日光御滞在

九月七日 東京還御

午後二時十五分 日光駅御発車

同 五時四十五分上野駅御着車

九月八日午前明治神宮御参拝東京市奉迎会臨場

午前九時頃 明治神宮御参拝(御馬車)

同 十時 東京市奉迎会御臨場

(日比谷公園)

東宮御所還御

同日午後東京市連合青年団奉迎会御臨場

午後二時三十分 日比谷公園ニ於ケル奉迎会場御臨
場(自動車)

自九月九日至十四日 神宮山陵御参拝

自九月十五日至十七日 饗宴

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六四七 六四八

ノ件

官内大臣官房
総務課第二三八号

大正十年八月二十四日

宮内次官 閑屋 貞三郎(印)

外務次官 植原 正直殿

東宮殿下御帰朝ニ関シ目下予定セラレタル事項別紙ノ通り
ニ有之候間及御内報候

追テ右予定事項中目下供奉長ト協議中ニ属シ未定ノモ

ノ有之候間御含置相成度確定次第更ニ可及御通知候

九月二日 御召艦館山御仮泊

九月三日 御帰朝

午前九時 横浜御入港

同 十時五分 御退艦

同 十時十五分 繫船岸壁御上陸

同 十時二十分 同所御発車

同 十一時十五分東京駅御着車

同 十一時二十五分同所御発

正午 東宮御所御着(公式函簿)

午後二時ヨリ同四時マテ東宮御所ヘ参賀

六四八

九月十八日及十九日 第三艦隊乗組員一同赤坂離宮新宿

御苑拝観

新宿御苑ニ於テ茶菓ヲ賜フ

六四七 八月二十五日

在西貢古谷領事(バングホイ出
張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

皇太子殿下カムラン湾御出發ノ件

(八月二十六日接受)

皇太子殿下並閑院宮殿下御機嫌麗シク今二十五日午前六時

「カムラン」湾御出發遊バセラレ

六四八 八月二十七日

在西貢古谷領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カムラン湾ニ於ケル皇太子殿下御出迎ノ模様

報告ノ件

第十八号 (八月二十八日接受)

御召艦「カムラン」湾入港ニ対シ総督ハ皇太子殿下ノ御立寄
ガ incognito ナルト秘密ヲ要セルトニヨリ態ト歡迎等ノ催
ヲ避ケ御入港当日其代理トシテ副官海軍大尉 J. Derome
ヲ当地ヨリ派遣(汽車ニテ十二時間)伺候セシメ又地方官
ニ命ジ自動車二台ヲ提供セルガ殿下ニハ二十四日午前御平

六四九

一三 皇太子裕仁親王歐洲諸國訪問一件 六四九 六五〇

服ニテ御上陸右自動車ニテ二時間程附近御見物遊バサレタ
リ

尚殿下ハ前記副官ニ勲四等瑞宝章 Banghoi 駐在憲兵
L. Nigueニ勲七等瑞宝章新高ト共ニ湾内ニアリ終始警備ノ任
ニ当リタル仏艦 Altair 艦長海軍中佐 A. Barthowニ勲
三等瑞宝章ヲ御贈与アラセラレタリ
右在仏大使へ電報セリ

~~~~~  
六四九 九月十三日 浜尾東宮大夫ヨリ  
内田外務大臣宛

皇太子殿下御帰朝ニ付祝詞言上ニ対シ回電方

依頼ノ件

東宮職庶第七三八号

大正十年九月十三日

東宮大夫男爵 浜尾 新(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本月六日貴省人普通第三六九号及同七日人普通第三七五号  
付宮内大臣宛御申越ノ処右ハ左ノ通り回電方御取計相成度  
候

記

皇太子殿下先般海外御巡遊被遊候際貴地御訪問ニ当リ貴官  
及館員一同ノ尽力ニ依リ充分御見学ノ目的ヲ遂ケサセラレ  
無滞御帰朝被遊候段御満足ニ被思召候趣ヲ以テ牧野宮内大

六五〇

在壤 本多公使へ  
在西 広沢公使へ

御帰朝ニ付御祝詞言上ノ処御満足ニ被思召

在英 永井代理大使へ

在ジュネーヴ林石井安達各大使へ

在蘭 田付公使へ

御帰朝ニ付御祝詞言上ノ処御満足ニ被思召尚御滞歐中尽力  
ノ勞ヲ摘ハセラル

在吉林 森田総領事へ

在間島 堺総領事代理へ

在頭道溝諏訪分館主任へ

在局子街川南分館主任へ

在留臣民一同ヲ代表シ御祝詞言上ノ処御満足ニ思召サル

~~~~~  
六五〇 十月十一日 内田外務大臣ヨリ
在英仏白伊各国大使在蘭國公使在
香港新嘉坡各総領事
在孟買坡土西
馬耳塞アソヴェルス各領事宛

皇太子殿下御帰朝ニ際シ宮内大臣ヨリ謝意伝

達方依頼ニ関スル件

人普通合第四四四号

臣ヨリ謝意伝達方依頼越候条右様御承知相成度此段申進候
也